

名古屋市観光客・宿泊客動向調査

(平成19年度)

平成20年 10月

名古屋市市民経済局

目 次

1. 観光統計について	1
(1) 全国観光統計基準の採用	1
(2) 入込客数	1
(3) 観光消費額	4
2. 調査の集計結果	6
2-1 観光客の現状	6
(1) 調査の概要	6
(2) 調査結果	8
2-2 宿泊客の現状	26
(1) 調査の概要	26
(2) 調査結果	27
2-3 宿泊施設調査	42
(1) 調査の概要	42
(2) 宿泊施設の現状	43
(3) 宿泊客数	45
2-4 全国から見た名古屋の観光に関する評価	55
(1) 調査の概要	55
(2) 名古屋への訪問状況と観光資源の認知度等	56
(3) 名古屋に対する評価	67
(4) 観光振興について	78
3. 資料編	81
(1) 主要観光施設への入込動向	81
(2) 名古屋のまちの印象	85

巻末 調査票

注1：本文中で用いたテレビ塔、パノラマハウス、ブルーボネット、イタリア村、スカイプロムナードの正式名称は、それぞれ名古屋テレビ塔、JR セントラルタワーズパノラマハウス、名古屋港 ワイルドフラワーガーデンブルーボネット、名古屋港イタリア村、ミッドランドスクエア スカイプロムナードである。

注2：表、グラフに記してある居住地別のなどの数値にはその項目の「無回答」が除かれているため、その合計と全体の数値が一致しない場合がある。

注3：2-4全国から見た名古屋の観光に関する評価の調査実施は、平成20年度であるが、調査結果を参照するために掲載している。

1. 観光統計について

(1) 全国観光統計基準の採用

名古屋市では、交流人口の核をなす観光入込客数の把握の精度を高め、観光施策の企画立案に必要な基礎データを整備するため、愛・地球博開催を契機に平成17年度より、全国観光統計基準に準拠し、行・祭事、イベント、スポーツ、音楽・演劇等の都市観光を中心とする新たな観光地点を調査に加えた。

平成19年度については、全国観光統計基準に適合する84地点の観光入込客数を把握した。

(2) 入込客数

①観光入込客延べ人数

観光関連施設や行・祭事、イベント実施団体からの入込客数の回答により、観光入込客延べ人数を算出した。平成19年度の名古屋市内の観光入込客延べ人数は約5,617万人であり、平成18年度と比較して300万人増加（対前年度比率105.6%）した。

主な増加理由は、平成19年度に「名古屋港開港100周年」や「東山動植物園開園70周年」などの記念事業があり、市民中心に関心が高くなったことである。

表 1-1-1 観光地点の分類別入込客数の推移

全国観光統計基準に基づく分類		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
大分類	中分類	地点数	入込客延べ人数	地点数	入込客延べ人数	地点数	入込客延べ人数
学ぶ（見る・体験する）	自然						
	文化・歴史	26	19,577,602	25	19,246,422	25	21,075,363
	産業観光	6	1,821,014	7	2,003,055	6	1,917,028
遊ぶ（楽しむ・リフレッシュする）	スポーツ・レクリエーション施設	17	14,834,016	17	12,955,647	17	12,300,363
	温泉						
	買物						
触れ合う（交流する）	行・祭事	12	7,477,495	14	7,428,814	14	7,880,964
	イベント	24	14,967,916	22	11,538,634	22	12,996,629
計		85	58,678,043	85	53,172,572	84	56,170,347

注：行・祭事、イベントの地点数は、年度によって変動します。

◆調査対象観光地点の選定について

名古屋市では、平成8年3月に社団法人日本観光協会が刊行した『全国観光客数統計～観光統計の調査・集計方法の全国統一～（全国観光統計基準の提案）』の基準を参考に、調査対象観光地点を選定している。

参考：調査対象施設の基準

- ・原則として、年間入込客数が5万人以上かつ、市外の観光入込客数が2割以上見込まれる市内観光地点を対象とした。
- ・新規開業施設については、初年度から年間5万人以上の入込客が見込まれる場合には、初年度から調査対象とした。

②観光入込客実人数の推計

観光客の現状調査の回答により、平均訪問観光地点数を設定し、観光入込客実人数を推計した。平成 19 年度の観光入込客実人数は 3,304 万人であり、平成 18 年度と比較して 230 万人増加（対前年度比率 107.5%）した。

表 1-1-2 観光入込客 延べ人数と実人数の推移

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
観光入込客延べ人数（人）	58,678,043	53,172,572	56,170,347
平均訪問観光地点数	1.67	1.73	1.70
観光入込客実人数（万人）	3,514 万人	3,074 万人	3,304 万人

③居住地別観光入込客数の推計

観光客の現状調査の回答により、観光入込客の居住地割合を設定し、名古屋市内・市外別の観光入込客実人数を推計した。

表 1-1-3 居住地別観光入込客実人数の推計

	全 体	名古屋市内客	名古屋市外客
観光入込客の居住地割合	100%	37.6%	62.4%
観光入込客実人数	3,304 万人	1,242 万人	2,062 万人

④宿泊客実人数の推計

宿泊施設の現状調査の回答により、宿泊施設の延べ宿泊客数、宿泊客実人数、宿泊客平均宿泊日数を推定した。

表 1-1-4 宿泊施設の宿泊客数 延べ人数と実人数の推移

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
延べ宿泊客数（人）	7,135,833	6,288,947	6,384,202
宿泊客実人数（人）	4,472,967	4,752,837	4,845,349
宿泊客平均宿泊日数（日泊）	1.60	1.32	1.32

⑤居住地別宿泊客実人数の推計

宿泊客の現状調査の回答により、宿泊客の居住地割合を設定し、名古屋市内・市外別の宿泊客実人数を推計した。

表 1-1-5 居住地別宿泊客実人数の推計

	全 体	名古屋市内客	名古屋市外客
宿泊客の居住地割合	100%	7.8%	92.2%
宿泊客実人数	485 万人	38 万人	447 万人

⑥居住地別宿泊客・日帰り客実人数の推移

観光入込客実人数から宿泊客実人数を差し引いて、日帰り客実人数を推定した。

観光入込客実人数を居住地別にみると、平成 19 年度の名古屋市内客は 1,242 万人であり、平成 18 年度と比較して 212 万人増加し、名古屋市外客は 2,062 万人であり、平成 18 年度と比較して 18 万人増加した。

また、平成 19 年度の宿泊客実人数は 485 万人であり、平成 18 年度と比較して 10 万人増加し、平成 19 年度の日帰り客実人数は 2,819 万人であり、平成 18 年度と比較して 220 万人増加した。

表 1-1-6 居住地別宿泊客・日帰り客実人数の推移

		平成 18 年度	平成 19 年度
観光入込客実人数	計	3,074 万人	3,304 万人
	名古屋市内客	1,030 万人	1,242 万人
	名古屋市外客	2,044 万人	2,062 万人
宿泊客実人数	計	475 万人	485 万人
	名古屋市内客	27 万人	38 万人
	名古屋市外客	448 万人	447 万人
日帰り客実人数	計	2,599 万人	2,819 万人
	名古屋市内客	1,003 万人	1,204 万人
	名古屋市外客	1,596 万人	1,615 万人

(3) 観光消費額

①観光総消費額の推移

観光客の現状調査の回答により、観光入込客一人あたりの名古屋市内での消費額を名古屋市内・市外別、宿泊客・日帰り客別に設定し、観光総消費額を推計した。平成 19 年度の名古屋市内の観光総消費額は 2,616 億円であり、平成 18 年度と比較して 789 億円減少している。

入込客の居住地別にみると、名古屋市内、市外とも昨年度と比較してそれぞれ約 400 億円の減少となっている。

宿泊客の総消費額は 1,070 億円と昨年度と比較して 53 億円増加しているが、日帰り客の総消費額は 1,546 億円と昨年度と比較して 842 億円の減少と大幅にダウンしている。

また、観光消費額の内訳をみると、すべての項目とも昨年度と比較して減少している。

表 1-2-1 観光総消費額（推計値）

	名古屋市内客	名古屋市外客	観光客計
宿泊客実人数	38 万人	447 万人	485 万人
日帰り客実人数	1,204 万人	1,615 万人	2,819 万人
宿泊客一人あたり消費額	20,273 円	22,221 円	
日帰り客一人あたり消費額	3,645 円	6,854 円	
宿泊客総消費額	77 億円	993 億円	1,070 億円
日帰り客総消費額	439 億円	1,107 億円	1,546 億円
名古屋市内観光総消費額	516 億円	2,100 億円	2,616 億円

表 1-2-2 宿泊客・日帰り客観光総消費額の推移

	平成 18 年度	平成 19 年度
名古屋市内観光総消費額	3,405 億円	2,616 億円
名古屋市内客総消費額	889 億円	516 億円
名古屋市外客総消費額	2,516 億円	2,100 億円
宿泊客総消費額	1,017 億円	1,070 億円
日帰り客総消費額	2,388 億円	1,546 億円

表 1-2-3 観光消費額の内訳の推移

	平成 18 年度	平成 19 年度
食事費消費額	1,094 億円	854 億円
交通費消費額	453 億円	374 億円
土産費消費額	641 億円	531 億円
宿泊費消費額	578 億円	550 億円
その他消費額	639 億円	307 億円
総消費額	3,405 億円	2,616 億円

②観光消費額の内訳の推計

観光客の現状調査の回答により、観光入込客一人あたりの名古屋市内での各項目別の平均消費額を名古屋市内・市外別、宿泊客・日帰り客別に算出し、名古屋市内での旅行費用項目別の消費額を推計した。

表 1-2-4 観光客一人あたりの平均消費額

	名古屋市内客	名古屋市外客
宿泊客 食事費	1,938 円	7,913 円
宿泊客 交通費	1,188 円	2,391 円
宿泊客 土産費	2,000 円	4,806 円
宿泊客 宿泊費	11,364 円	11,339 円
日帰り客 食事費	1,360 円	2,040 円
日帰り客 交通費	465 円	1,276 円
日帰り客 土産費	540 円	1,504 円

表 1-2-5 旅行費用項目別総消費額の推計

	名古屋市内客	名古屋市外客	観光客計
宿泊客 食事費総消費額	7 億円	354 億円	361 億円
宿泊客 交通費総消費額	5 億円	107 億円	112 億円
宿泊客 土産費総消費額	8 億円	215 億円	223 億円
宿泊客 宿泊費総消費額	43 億円	507 億円	550 億円
日帰り客 食事費総消費額	164 億円	329 億円	493 億円
日帰り客 交通費総消費額	56 億円	206 億円	262 億円
日帰り客 土産費総消費額	65 億円	243 億円	308 億円

表 1-2-6 観光消費額の内訳

	名古屋市内客	名古屋市外客	観光客計
食事費消費額	171 億円	683 億円	854 億円
交通費消費額	61 億円	313 億円	374 億円
土産費消費額	73 億円	458 億円	531 億円
宿泊費消費額	43 億円	507 億円	550 億円
その他消費額	168 億円	139 億円	307 億円
総消費額	516 億円	2,100 億円	2,616 億円

2. 調査の集計結果

2-1 観光客の現状

(1) 調査の概要

①調査の目的

市内主要観光地点における観光客の入込・遊覧状況等を把握するためアンケート調査を実施した。

②調査日時等

●観光施設（名古屋城、熱田神宮、ノリタケの森、イタリア村）調査

・秋期調査：平成19年11月7日（水）9：30～16：30 天候：曇後晴

11月10日（土）9：30～16：30 天候：曇

11月11日（日）9：30～16：30 天候：雨後曇一時晴

※熱田神宮のみ 11月18日（日）9：30～16：30 天候：晴後時々曇

・春期調査：平成20年3月5日（水）9：30～16：30 天候：晴

3月8日（土）9：30～16：30 天候：快晴

3月9日（日）9：30～16：30 天候：薄曇一時晴

●名古屋まつり調査：平成19年10月14日（日）11：00～16：30 天候：曇

●イベント会場（ポートメッセなごや）調査

・ペット博 in 名古屋 他：平成19年10月7日（日）10：00～16：30 天候：曇一時晴

他のイベント：コミックライブ、ハーレダビッツ EXPO、将棋 東海こども大会

・名古屋モーターショー：平成19年11月23日（祝・金）10：00～16：30 天候：快晴

③調査方法

それぞれの調査地点を訪れた観光入込客のうち、10歳以上と思われる観光入込客に対して、等間隔無作為抽出法により調査対象を抽出し、対面聞き取りにより年齢を確認した上で調査を行った。

④調査場所及び調査サンプル数

観光地点を全国観光統計基準に基づく分類（注）や施設・催し物の特性、所在地を勘案して、以下の地点で調査を実施した。

観光地点名称	秋期調査（11月）			春期調査（3月）			合 計
	平日	土曜	日曜	平日	土曜	日曜	
名古屋城	104	105	106	104	111	105	635
熱田神宮	104	105	105	104	110	110	638
ノリタケの森	101	107	100	104	105	105	622
イタリア村	104	105	105	105	107	104	630
名古屋まつり	608						608
イベント会場 (ポートメッセなごや)	(ペット博 in 名古屋他)		322				624
	(名古屋モーターショー)		302				
全 体							3,757

（注）大分類「学ぶ（見る・体験する）」・中分類「文化・歴史」として「名古屋城」と「熱田神宮」、同・中分類「産業観光」として「ノリタケの森」、大分類「遊ぶ（楽しむ・リフレッシュする）」・中分類「スポーツ・レクリエーション施設」として「イタリア村」、大分類「触れ合う（交流する）」・中分類「行・祭事」として「名古屋まつり」、同・中分類「イベント」として「ポートメッセなごや」に協力していただきました。

(2) 調査結果

①居住地構成、性・年齢構成

a. 居住地構成

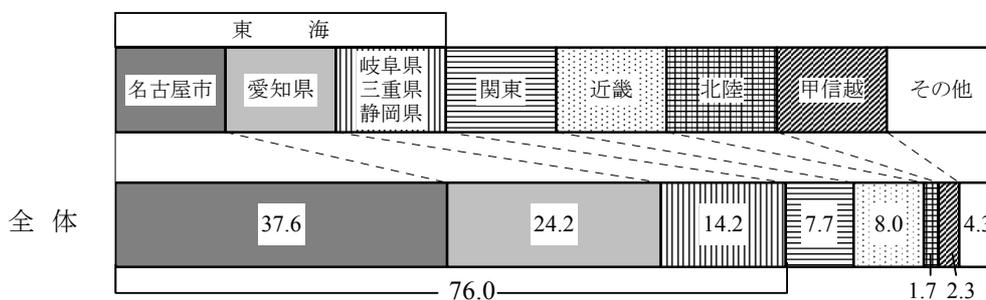
観光入込客の居住地は、全体では「名古屋市」が37.6%と最も多く、次いで「愛知県（名古屋市を除く）」（24.2%）で、「岐阜県」（5.9%）、「三重県」（5.6%）、「静岡県」（2.7%）を合計した「東海」が76.0%を占め、「関東」（7.7%）、「近畿」（8.0%）など「東海以外」の地域からの入込客は全体で24.0%である。

観光地点別にみると、「名古屋まつり」（73.1%）、「熱田神宮」（47.3%）の入込客では「名古屋市」居住者の構成比が高く、また、「名古屋まつり」（96.7%）、「イベント会場」（95.6%）の入込客では大半が「東海」居住となっている。一方、「名古屋城」では「東海以外」の地域が59.7%と広域的に集客している。

表 2-1-1 入込客の居住地構成（観光地点別）

（単位：％）

観光地点	東海				関東	近畿	北陸	甲信越	その他	合計
	名古屋市	愛知県 (名古屋市を除く)	岐阜県・三重県・静岡県							
名古屋城	40.3	22.4	12.4	5.5	20.0	18.3	2.8	6.0	12.6	100.0
熱田神宮	75.9	47.3	21.2	7.4	10.2	6.4	1.4	1.7	4.4	100.0
ノリタケの森	70.8	33.1	20.8	16.9	9.0	12.6	1.8	0.8	5.0	100.0
イタリア村	78.0	24.8	31.3	21.9	4.4	7.8	2.9	4.4	2.5	100.0
名古屋まつり	96.7	73.1	16.4	7.2	1.6	0.7	0.0	0.7	0.3	100.0
イベント会場	95.6	26.1	43.4	26.1	0.6	1.8	1.1	0.3	0.6	100.0
全体	76.0	37.6	24.2	14.2	7.7	8.0	1.7	2.3	4.3	100.0



注：愛知県は名古屋市を除く

東海—愛知県・岐阜県・三重県・静岡県

関東—東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・群馬県・栃木県・茨城県

近畿—滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県・兵庫県

北陸—福井県・石川県・富山県

甲信越—新潟県・長野県・山梨県

図 2-1-1 入込客の居住地構成

b. 性・年齢構成

全体では「30～39歳」が21.6%と多く、「20～29歳」(17.5%)、「50～59歳」(16.7%)、「40～49歳」(16.5%)、「60～69歳」(16.0%)が16～18%で続き、以下「70歳以上」(8.1%)、「10～19歳」(3.6%)となっている。

性別は、男性が47.8%、女性が52.2%と、女性の方が男性より若干多い。

男性女性とも「30～39歳」が最も多い。また、男性では「20～29歳」「40～49歳」、女性では「50～59歳」「60～69歳」の割合が相対的に高い。

観光地点別にみると、「20～29歳」「30～39歳」という若い世代の割合が高いのは「イタリア村」(52.6%)と「イベント会場」(48.9%)である。一方、「60歳以上」の割合は「名古屋まつり」(35.7%)と「名古屋城」(31.9%)で相対的に高い。

性別の割合は、「名古屋城」と「熱田神宮」、「名古屋まつり」では男性女性ほぼ半々で、「ノリタケの森」と「イタリア村」では女性の方が多く、「イベント会場」では男性の方が多い。

表 2-1-2 入込客の地点別性・年齢構成

(単位：%)

性別	観光地点	年 齢							
		10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
全 体	名古屋城	4.7	23.7	12.0	14.3	13.4	19.1	12.8	100.0
	熱田神宮	0.6	15.4	27.5	14.4	15.2	16.9	10.0	100.0
	ノリタケの森	1.9	12.4	19.1	13.0	25.0	22.0	6.6	100.0
	イタリア村	4.4	27.0	25.6	16.5	13.8	9.0	3.7	100.0
	名古屋まつり	1.5	4.9	17.9	17.3	22.7	23.0	12.7	100.0
	イベント会場	8.5	21.0	27.9	23.6	10.4	5.9	2.7	100.0
	合 計	3.6	17.5	21.6	16.5	16.7	16.0	8.1	100.0
男 性	名古屋城	7.3	26.0	13.5	15.6	10.7	15.0	11.9	51.5
	熱田神宮	1.0	17.8	28.8	14.0	13.0	15.6	9.8	49.4
	ノリタケの森	3.1	14.6	19.5	11.9	22.6	18.6	9.7	36.3
	イタリア村	3.0	26.2	25.5	18.7	11.6	10.1	4.9	42.4
	名古屋まつり	1.4	4.5	13.1	18.3	22.5	23.9	16.3	47.5
	イベント会場	6.7	19.6	23.9	26.6	12.1	8.1	3.0	59.6
	合 計	4.0	18.4	20.8	18.0	14.9	14.8	9.1	47.8
女 性	名古屋城	1.9	21.4	10.4	13.0	16.2	23.5	13.6	48.5
	熱田神宮	0.3	13.0	26.0	14.9	17.3	18.3	10.2	50.6
	ノリタケの森	1.3	11.1	18.9	13.6	26.3	24.0	4.8	63.7
	イタリア村	5.5	27.5	25.6	14.9	15.4	8.3	2.8	57.6
	名古屋まつり	1.6	5.3	22.3	16.3	22.8	22.3	9.4	52.5
	イベント会場	11.1	23.0	33.8	19.0	7.9	2.8	2.4	40.4
	合 計	3.3	16.7	22.5	15.1	18.3	17.0	7.1	52.2

注：男性・女性別の合計の列は、性別の構成比率である。

②旅行の内容

a. 今回の主な目的

旅行の主な目的は、「観光施設の見学」(38.6%)と「イベント」(35.9%)が多い。以下「ショッピング」(6.0%)、「飲食」(3.5%)となっており、これらをはじめとする「観光・娯楽」目的者の割合は合わせて86.9%を占めている。

時系列にみると、調査概要は平成18年度から変更しているものの、「観光・娯楽」の割合は8割台で推移している。

観光地点別にみると、「名古屋城」(62.2%)、「熱田神宮」(57.8%)、「イタリア村」(54.8%)、「ノリタケの森」(50.7%)の入込客では「観光施設の見学」目的が多く、「イベント会場」(93.9%)と「名古屋まつり」(92.8%)の入込客では大半が「イベント」目的である。また、「ショッピング」目的の割合は、「イタリア村」(17.3%)、「ノリタケの森」(12.9%)では相対的に高く、「熱田神宮」では「七五三」を主とした「その他」(25.7%)目的の割合も比較的高い。

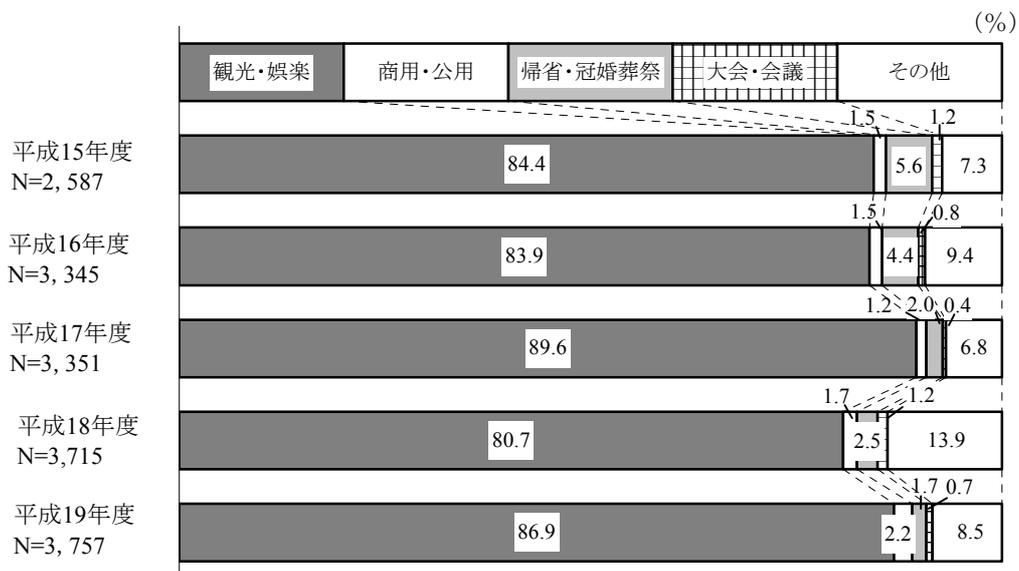


図 2-1-2 入込客の主な旅行目的と構成比の推移

表 2-1-3 入込客の主な旅行目的（観光地点別）

(単位：%)

旅行目的	観光・娯楽						商用・公用	帰省・冠婚葬祭	大会・会議に参加	その他	合計
	観光施設の見学	ショッピング	観劇・コンサート	イベント	飲食	その他の娯楽行為					
観光地点											
名古屋城	62.2	1.7	1.3	12.3	3.0	2.8	4.3	3.6	2.2	6.6	100.0
熱田神宮	57.8	1.9	1.7	2.0	2.5	0.5	4.7	1.6	1.6	25.7	100.0
ノリタケの森	50.7	12.9	2.7	6.3	7.2	3.5	2.7	3.2	0.3	10.5	100.0
イタリア村	54.8	17.3	1.6	10.6	7.9	1.9	0.3	0.5	0.2	4.9	100.0
名古屋まつり	0.7	1.6	0.5	92.8	0.0	0.7	0.3	1.3	0.0	2.1	100.0
イベント会場	3.8	0.6	0.0	93.9	0.0	0.2	0.6	0.2	0.2	0.5	100.0
全体	38.6	6.0	1.3	35.9	3.5	1.6	2.2	1.7	0.7	8.5	100.0

b. 名古屋を選んだきっかけ

「観光・娯楽」目的で来訪した方（全体の86.9%）の目的地として名古屋を選んだきっかけは、「雑誌・新聞をみて」（25.0%）、「前に来たことがあり良かったから」（24.1%）が多い。以下、「友人・知人に薦められた」（17.1%）、「テレビやラジオ番組の情報」（13.9%）、「特になし」（11.3%）、「インターネットホームページの情報」（7.6%）となっている。

観光地点別にみると、「名古屋まつり」と「イベント会場」では「雑誌・新聞をみて」が、「名古屋まつり」と「熱田神宮」では「前に来たことがあり良かったから」が、「ノリタケの森」と「名古屋城」では「友人・知人に薦められた」が、相対的に多い。また、「熱田神宮」では「特になし」の割合が最も高い。

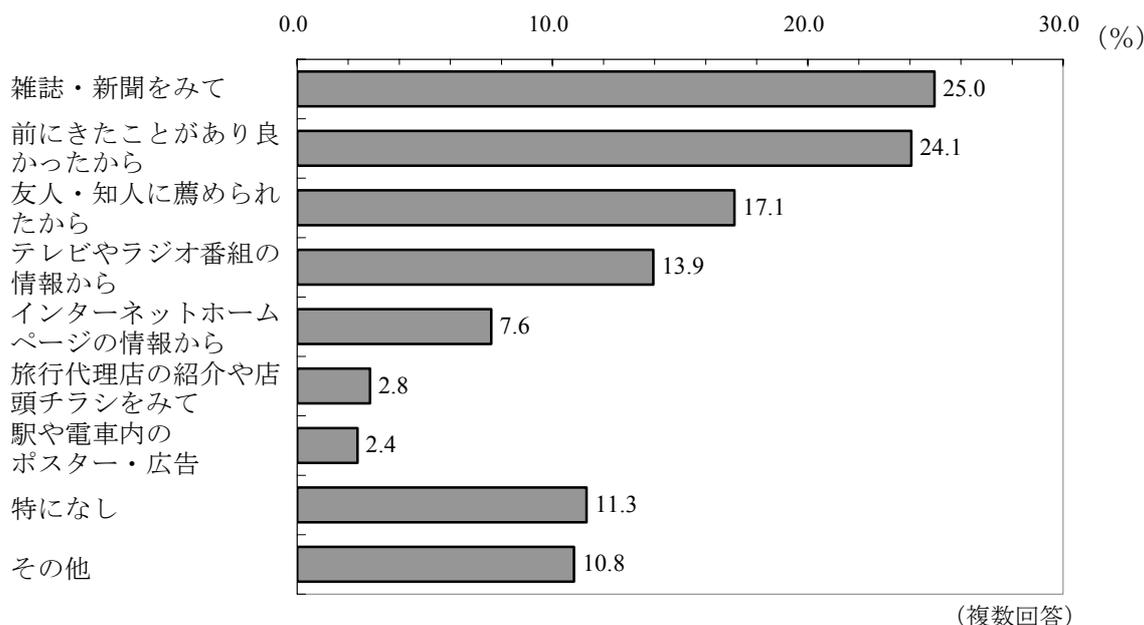


図 2-1-3 入込客の名古屋を選んだきっかけの内訳

表 2-1-4 入込客の名古屋を選んだきっかけの内訳（観光地点別）

(単位：%)

観光地点	きっかけ	雑誌・新聞をみて	前に来たことがあり良かったから	友人・知人に薦められたから	テレビやラジオ番組の情報から	インターネットホームページの情報から	旅行代理店の紹介や店頭チラシをみて	駅や電車内のポスター・広告	特になし	その他	合計
名古屋城		19.7	14.9	25.1	9.3	5.5	4.3	1.9	15.5	16.1	112.3
熱田神宮		5.2	31.6	7.3	4.7	1.4	0.7	0.0	40.8	10.4	102.1
ノリタケの森		12.0	28.4	26.4	5.0	6.4	6.2	1.2	8.7	13.3	107.6
イタリア村		21.8	19.6	21.4	21.4	5.7	4.2	1.3	7.3	9.8	112.5
名古屋まつり		41.7	40.2	8.0	19.3	4.8	1.2	6.3	2.1	8.0	131.6
イベント会場		41.3	12.0	13.7	19.5	19.2	0.5	2.6	2.4	8.3	119.5
全 体		25.0	24.1	17.1	13.9	7.6	2.8	2.4	11.3	10.8	115.0

c. 観光施設への遊覧状況

観光地点相互の立ち寄り状況を見ると、「名古屋まつり」、「熱田神宮」、「ノリタケの森」、「イタリア村」の入込客は「名古屋城」にも、「名古屋城」の入込客は「熱田神宮」にも訪れる人が多い。

観光地点ごとに他の観光施設への訪問状況を見ると、上記のほか「名古屋城」の入込客は「テレビ塔」や「徳川美術館」、「名古屋港水族館」にも訪れる人が多く、一人あたりの訪問施設数は1.85施設と多い。「熱田神宮」の入込客一人あたりの訪問施設数は1.51と他の施設への立ち寄りは最も少ない。「ノリタケの森」の入込客は「産業技術記念館」や「徳川美術館」にも訪れる人が多く、一人あたりの訪問施設数は1.74施設である。「イタリア村」の入込客では約3割が「名古屋港水族館」にも訪れており、一人あたりの訪問施設数は1.87施設と他の施設への立ち寄りは最も多い。「名古屋まつり」の入込客一人あたりの訪問施設数は1.63施設、「イベント会場」の入込客一人あたりの訪問施設数は1.58施設となっており、祭事やイベントの入込客は主要観光施設の入込客に比べ他の観光施設への立ち寄り少ない。

全般に調査場所の近隣にある観光施設にも立ち寄っているケースが多い。

表 2-1-5 他の観光施設への遊覧状況（地点・地域別）

（単位：％）

訪問施設 観光地点	名古屋城	産業技術記念館	ノリタケの森	徳川美術館	徳川園	熱田神宮	東山動植物園	テレビ塔	名古屋港水族館	イタリア村	その他	平均訪問施設数
名古屋城		1.9	4.7	6.9	4.7	9.9	3.1	9.6	6.6	5.8	32.0	1.85
熱田神宮	12.2	0.5	1.6	2.2	1.7		0.8	2.2	2.4	2.4	24.6	1.51
ノリタケの森	11.6	10.8		7.2	6.1	3.5	1.6	3.7	2.9	2.6	23.6	1.74
イタリア村	8.9	0.3	3.5	1.7	1.3	2.2	1.4	3.0	28.7		36.0	1.87
名古屋まつり	14.6	0.2	0.5	2.0	2.0	1.3	3.1	4.8	1.2	0.2	33.6	1.63
イベント会場	1.6	0.6	1.0	0.8	0.6	1.4	1.4	0.8	5.4	4.0	40.1	1.58

（複数回答）

※一人あたりの平均訪問施設数

平均訪問施設数は、各観光地点での調査サンプル数（a）とその観光地点・施設以外へ訪れた数及び訪れる予定数（b）の合計を調査サンプル数（a）で除した数値。

$$\text{平均訪問施設数} : 1.70 = \{3,757 (a) + 2,617 (b)\} \div 3,757 (a)$$

d. 旅行形態

全体では、「友人・知人」が28.4%、「ひとり」が19.1%、「夫婦」(19.0%)や「幼児・小学生連れ」(13.1%)など「家族連れ」が合計で47.7%となっている。

観光地点別にみると、「名古屋城」、「ノリタケの森」、「イタリア村」の入込客は「友人・知人」の、「熱田神宮」、「名古屋まつり」の入込客は「ひとり」の割合が最も多く、「イベント会場」の入込客は比較的割合は分散している。

表 2-1-6 入込客の旅行形態（観光地点別）

(単位：%)

観光地点	旅行形態	ひとり	友人・知人	家族連れ			団体		その他	合計
				幼児・小学生連れ	夫婦	その他	一般	学生		
名古屋城		12.9	44.9	3.1	15.6	16.2	4.6	0.2	2.5	100.0
熱田神宮		35.0	15.4	23.5	15.5	9.2	1.1	0.0	0.3	100.0
ノリタケの森		13.5	36.3	9.5	14.8	13.7	10.6	0.0	1.6	100.0
イタリア村		4.9	34.6	13.3	23.5	15.9	6.8	0.0	1.0	100.0
名古屋まつり		29.2	12.8	16.0	23.2	18.8	0.0	0.0	0.0	100.0
イベント会場		19.2	26.5	13.0	21.3	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0
全 体		19.1	28.4	13.1	19.0	15.6	3.9	0.0	0.9	100.0

パッケージ旅行の割合は、全体では4.5%である。

観光地点別にみると、「ノリタケの森」の入込客では「パッケージ旅行」(11.6%)の割合が相対的に多い。一方、「名古屋まつり」と「イベント会場」の入込客ではほとんどが「パッケージ旅行ではない」である。

地域別にみると、パッケージ旅行を利用する割合は、「北陸」(23.8%)、「その他」(19.9%)からの入込客では比較的多く、「甲信越」や「近畿」からの入込客でも1割以上が利用している。

表 2-1-7 入込客のパッケージ旅行利用有無(地点・地域別)

(単位：%)

観光地点・地域		旅行形態		合 計
		パッケージ旅行	パッケージ旅行ではない	
観 光 地 点	名古屋城	6.3	93.7	100.0
	熱田神宮	1.4	98.6	100.0
	ノリタケの森	11.6	88.4	100.0
	イタリア村	7.1	92.9	100.0
	名古屋まつり	0.2	99.8	100.0
	イベント会場	0.2	99.8	100.0
	地 域	東 海	1.9	98.1
名古屋市		0.3	99.7	100.0
愛知県(名古屋市を除く)		1.5	98.5	100.0
岐阜県・三重県・静岡県		7.0	93.0	100.0
関 東		7.6	92.4	100.0
近 畿		10.7	89.3	100.0
北 陸		23.8	76.2	100.0
甲信越		13.6	86.4	100.0
その他		19.9	80.1	100.0
全 体		4.5	95.5	100.0

③旅行費用

a. 旅行予算

旅行予算をみると、全体では「5,000 円未満」が 54.7%と最も多く、次いで「5,000～10,000 円未満」(18.6%)、「10,000～30,000 円未満」(15.2%)となっている。旅行予算の平均額は 11,988 円である。昨年度 (14,270 円) と比較すると 2,282 円の減額となっている。

観光地点別にみると、「名古屋城」の入込客では「10,000 円以上」の割合が合わせて 54.1%と多く、平均額は 20,000 円を超えている。一方、「名古屋まつり」と「イベント会場」の入込客では「10,000 円未満」が 9 割前後を占める。

地域・宿泊別にみると、「名古屋市外からの宿泊客」では「10,000～30,000 円未満」が最も多く、「30,000 円以上」が半数みられ、平均額は 36,181 円と高額である。一方、「名古屋市内の日帰り客」では「5,000 円未満」が 83.1%を占め、平均額は 4,068 円となっている。

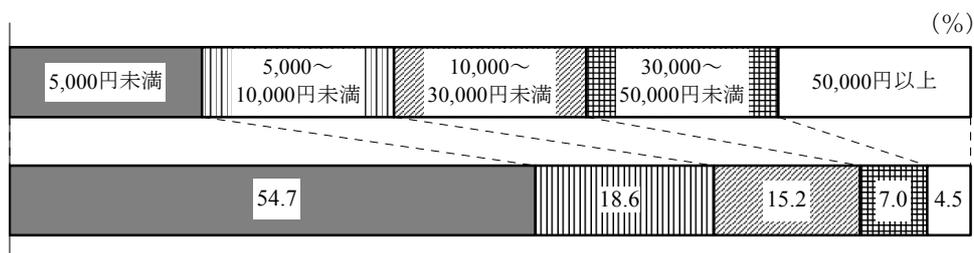


図 2-1-4 入込客の旅行予算

表 2-1-8 入込客の旅行予算(地点・地域×宿泊別)

(単位：%)

旅行予算		5,000円未満	5,000～10,000円未満	10,000～30,000円未満	30,000～50,000円未満	50,000円以上	合計	平均額(円)
観光地点	名古屋城	34.0	11.9	26.6	15.5	12.0	100.0	22,310
	熱田神宮	62.5	10.0	14.1	7.4	6.0	100.0	12,551
	ノリタケの森	46.4	21.0	17.6	9.6	5.4	100.0	14,110
	イタリア村	39.5	33.0	18.9	6.7	1.9	100.0	11,378
	名古屋まつり	85.5	8.6	4.6	0.8	0.5	100.0	4,400
	イベント会場	61.1	27.0	9.2	1.6	1.1	100.0	6,873
地域×宿泊	名古屋市内	82.8	12.7	3.7	0.6	0.2	100.0	4,176
	宿泊客	49.8	18.8	18.8	6.3	6.3	100.0	13,594
	日帰り客	83.2	12.6	3.5	0.6	0.1	100.0	4,068
	名古屋市外	37.8	22.1	22.2	10.8	7.1	100.0	16,709
	宿泊客	3.2	6.5	39.7	29.4	21.2	100.0	36,181
日帰り客	51.1	28.2	15.4	3.6	1.7	100.0	9,176	
全体		54.7	18.6	15.2	7.0	4.5	100.0	11,988

注：平均額の計算式：{(2,500 円) × (「5,000 円未満」の回答者数) + (7,500 円) × (「5,000～10,000 円未満」の回答者数) + (20,000 円) × (「10,000～30,000 円未満」の回答者数) + (40,000 円) × (「30,000～50,000 円未満」の回答者数) + (75,000 円) × (「50,000 円以上」の回答者数)} / (全回答者数)

b. 名古屋市内消費額

観光入込客が名古屋市内で使う金額を具体的に尋ねたところ、全体では「5,000 円未満」が 44.1%と最も多く、次いで「5,000～10,000 円未満」が 24.6%、「10,000～20,000 円未満」が 17.0%、「20,000～30,000 円未満」が 7.0%となっている。名古屋市内消費額の平均額は 8,391 円である。昨年度（12,594 円）と比較すると 4,203 円の減額となっている。

観光地点別にみると、平均額は、「名古屋城」の入込客では 13,392 円、「ノリタケの森」の入込客では 10,286 円と比較的高額である。一方、「名古屋まつり」の入込客では 3,624 円と相対的に低額となっている。

地域・宿泊別にみると、平均額は、「宿泊客」では「名古屋市」、「名古屋市外」とも 20,000 円を超え大きな差はみられないが、「日帰り客」では「名古屋市」（3,645 円）に比べ「名古屋市外」（6,854 円）は倍額に近い値となっている。

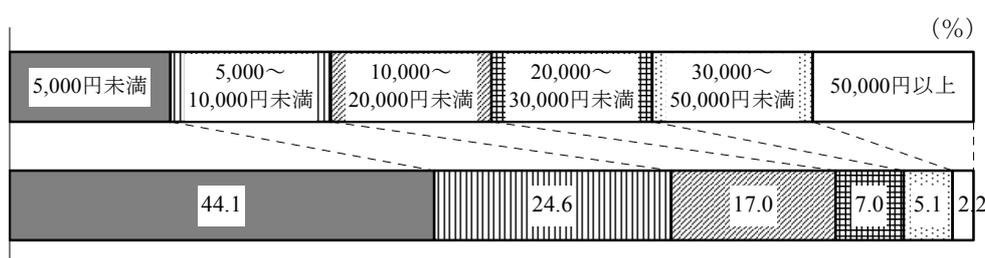


図 2-1-5 入込客の名古屋市内消費額

表 2-1-9 入込客の名古屋市内消費額（地点・地域×宿泊別）

(単位：%)

市内消費額		市内消費額						合計	平均額 (円)
		5,000円未満	5,000～10,000円未満	10,000～20,000円未満	20,000～30,000円未満	30,000～50,000円未満	50,000円以上		
観光地点	名古屋城	31.0	15.7	21.6	15.1	11.3	5.3	100.0	13,392
	熱田神宮	55.9	17.7	12.6	6.9	5.1	1.8	100.0	7,701
	ノリタケの森	35.2	24.6	21.8	7.9	7.2	3.3	100.0	10,286
	イタリア村	18.9	39.5	28.2	6.9	5.5	1.0	100.0	9,153
	名古屋まつり	75.7	18.5	3.8	1.3	0.2	0.5	100.0	3,624
	イベント会場	47.3	31.8	14.4	4.1	1.2	1.2	100.0	6,218
地域×宿泊	名古屋市	67.3	22.4	8.3	1.0	0.8	0.2	100.0	3,779
	宿泊客	18.2	18.2	27.2	9.1	18.2	9.1	100.0	20,273
	日帰り客	67.6	22.4	8.2	1.0	0.7	0.1	100.0	3,645
	名古屋市外	30.4	25.9	22.2	10.6	7.6	3.3	100.0	11,139
	宿泊客	5.2	7.1	30.4	25.0	21.9	10.4	100.0	22,221
	日帰り客	39.9	33.2	19.1	5.1	2.1	0.6	100.0	6,854
全体		44.1	24.6	17.0	7.0	5.1	2.2	100.0	8,391

c. 市内交通費

名古屋市内の移動や駐車などで支出する交通費は、全体では「1,000円未満」が46.1%と最も多く、次いで、「1,000～3,000円未満」が23.2%、「交通費はかからない」が20.1%となっている。市内交通費の平均額は1,160円であり、昨年度（1,549円）と比較すると389円の減額となっている。

観光地点別にみると、「名古屋城」の入込客では「1,000～3,000円未満」の割合が最も多く、平均額は1,780円と最も高額である。また、「イベント会場」や「イタリア村」でも「1,000～3,000円未満」の割合は比較的多い。一方、「名古屋まつり」では「交通費はかからない」の割合が相対的に多く、平均額は最も低額である。

地域・宿泊別にみると、「名古屋市」居住者及び「日帰り客」では「1,000円未満」の割合が、「名古屋市外からの宿泊客」では「1,000～3,000円未満」の割合が最も多くなっている。

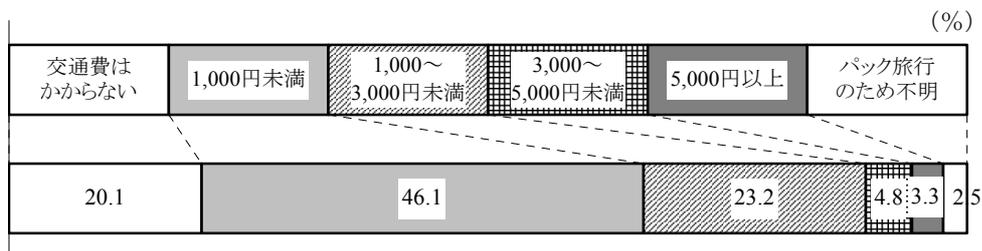


図 2-1-6 入込客の市内交通費

表 2-1-10 入込客の市内交通費（地点・地域×宿泊別）

(単位：%)

市内交通費		交通費はかからない	1,000円未満	1,000～3,000円未満	3,000～5,000円未満	5,000円以上	パック旅行のため不明	合計	平均額(円)
観光地点	名古屋城	22.7	28.5	29.8	8.4	9.0	1.6	100.0	1,780
	熱田神宮	15.2	63.1	16.7	2.8	1.7	0.5	100.0	898
	ノリタケの森	23.7	44.1	17.3	5.2	2.6	7.1	100.0	1,044
	イタリア村	12.9	46.4	26.2	5.3	3.4	5.8	100.0	1,293
	名古屋まつり	37.3	49.7	11.0	1.3	0.7	0.0	100.0	571
	イベント会場	9.3	45.4	37.6	5.6	2.1	0.0	100.0	1,361
地域×宿泊	名古屋市	38.0	52.7	8.2	0.9	0.1	0.1	100.0	473
	宿泊客	25.0	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0	100.0	1,188
	日帰り客	38.1	53.0	8.0	0.7	0.1	0.1	100.0	465
	名古屋市外	9.2	42.2	32.2	7.2	5.2	4.0	100.0	1,593
宿泊客	9.1	24.9	37.7	13.8	12.0	2.5	100.0	2,391	
日帰り客	9.3	49.0	30.1	4.6	2.5	4.5	100.0	1,276	
全体		20.1	46.1	23.2	4.8	3.3	2.5	100.0	1,160

注：平均額の計算式： $\{(0 \text{円}) \times (\text{「交通費はかからない」の回答者数}) + (500 \text{円}) \times (\text{「1,000円未満」の回答者数}) + (2,000 \text{円}) \times (\text{「1,000～3,000円未満」の回答者数}) + (4,000 \text{円}) \times (\text{「3,000～5,000円未満」の回答者数}) + (7,500 \text{円}) \times (\text{「5,000円以上」の回答者数})\} / \{(全回答者数) - (\text{「パック旅行のため不明」の回答者数})\}$

d. 市内での土産代

「名古屋市内で土産を購入する」という回答が全体では 42.3%であり、支出額としては、「2,000 円未満」(18.4%) や「2,000～5,000 円未満」(15.5%) の割合が多い。土産代の平均額は 1,724 円であり、昨年度 (2,325 円) と比較すると 601 円の減額となっている。

観光地点別にみると、「土産を購入する」割合は、「名古屋城」(63.6%)、「ノリタケの森」(56.0%)、「イタリア村」(54.9%) の入込客では 6 割前後を占める。一方、「名古屋まつり」の入込客では購入する割合は 12.9%と低く、平均額は 299 円と低額である。

地域・宿泊別にみると、「土産を購入する」割合は、「名古屋市」居住者より「名古屋市外」からの入込客の方が、「日帰り客」より「宿泊客」の方がかなり多く、特に「名古屋市外からの宿泊客」では「購入する」割合は 8 割を超え、平均額は 4,806 円と高額である。

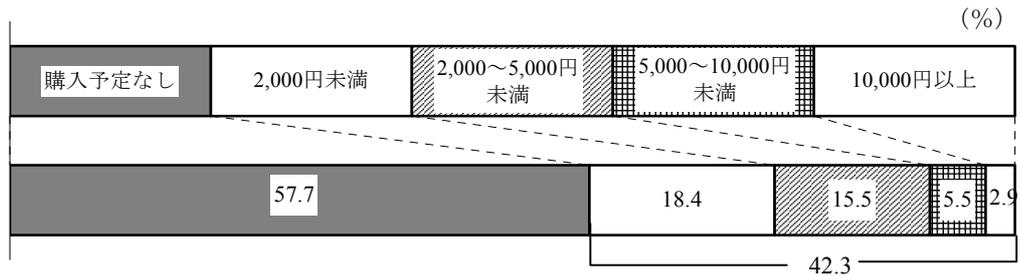


図 2-1-7 入込客の市内での土産代

表 2-1-11 入込客の市内での土産代 (地点・地域×宿泊別)

(単位: %)

地点・地域×宿泊		土産代					合計	平均額 (円)
		買わない	2,000円未満	2,000～5,000円未満	5,000～10,000円未満	10,000円以上		
観光地点	名古屋城	36.4	22.5	24.8	10.8	5.5	100.0	3,009
	熱田神宮	63.8	19.2	12.2	2.9	1.9	100.0	1,213
	ノリタケの森	44.0	18.1	21.6	11.0	5.3	100.0	2,819
	イタリア村	45.1	25.5	20.2	5.4	3.8	100.0	2,133
	名古屋まつり	87.1	7.6	4.3	1.0	0.0	100.0	299
	イベント会場	70.2	17.4	9.3	2.1	1.0	100.0	850
地域×宿泊	名古屋市	79.3	13.5	5.2	1.3	0.7	100.0	557
	宿泊客	43.7	18.8	25.0	12.5	0.0	100.0	2,000
	日帰り客	79.7	13.4	5.0	1.2	0.7	100.0	540
	名古屋市外	44.6	21.4	21.6	8.1	4.3	100.0	2,425
	宿泊客	15.7	20.6	36.1	17.4	10.2	100.0	4,806
日帰り客	55.8	21.7	16.0	4.5	2.0	100.0	1,504	
全体		57.7	18.4	15.5	5.5	2.9	100.0	1,724

注: 平均額の計算式: $\{(0 \text{ 円}) \times (\text{「買わない」の回答者数}) + (1,000 \text{ 円}) \times (\text{「2,000 円未満」の回答者数}) + (3,500 \text{ 円}) \times (\text{「2,000 ～5,000 円未満」の回答者数}) + (7,500 \text{ 円}) \times (\text{「5,000～10,000 円未満」の回答者数}) + (20,000 \text{ 円}) \times (\text{「10,000 円以上」の回答者数})\} / (\text{全回答者数})$

e. 市内での食事代

市内での食事に係る支出をみると、全体では「2,000 円未満」(42.4%) が最も多く、次いで「2,000～5,000 円未満」が 26.1%、「ジュース程度」が 19.6%となっている。なお、食事代の平均額は 2,809 円であり、昨年度 (3,955 円) と比較すると 1,146 円の減額となっている。

観光地点別にみると、「名古屋城」、「ノリタケの森」、「イタリア村」の入込客では「2,000 円未満」と「2,000～5,000 円未満」の割合がそれぞれほぼ同じ割合となっている。一方、「名古屋まつり」と「イベント会場」の入込客では「2,000 円未満」の割合が過半数を占める。

地域・宿泊別にみると、「名古屋市外からの宿泊客」では 2,000 円未満の割合が少なく、平均額は 7,913 円と高額になっている。

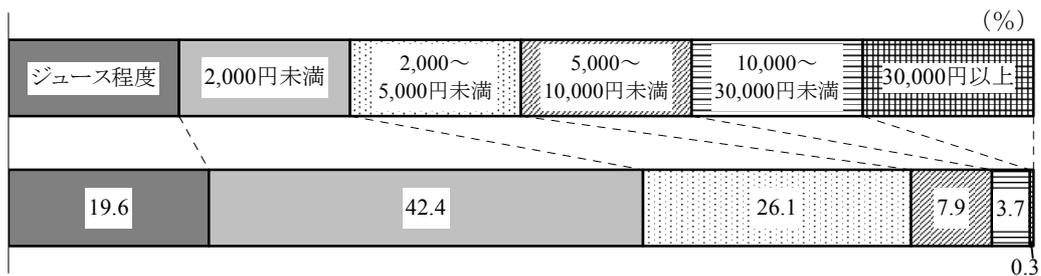


図 2-1-8 入込客の市内での食事代

表 2-1-12 入込客の市内での食事代 (地点・地域×宿泊別)

(単位：%)

市内食事代		ジュース程度	2,000円未満	2,000～5,000円未満	5,000～10,000円未満	10,000～30,000円未満	30,000円以上	合計	平均額 (円)
観光地点	名古屋城	13.1	32.0	30.3	15.9	7.9	0.8	100.0	4,468
	熱田神宮	25.4	40.0	20.2	8.5	5.6	0.3	100.0	2,996
	ノリタケの森	19.0	32.8	34.4	8.6	4.4	0.8	100.0	3,379
	イタリア村	7.7	38.7	40.2	10.0	3.4	0.0	100.0	3,217
	名古屋まつり	35.0	51.9	11.2	1.5	0.2	0.2	100.0	1,121
	イベント会場	17.4	59.1	20.3	2.7	0.5	0.0	100.0	1,603
	全体	19.6	42.4	26.1	7.9	3.7	0.3	100.0	2,809
地域×宿泊	名古屋市	31.3	48.1	17.5	2.7	0.4	0.0	100.0	1,367
	宿泊客	31.4	48.2	17.3	2.7	0.4	0.0	100.0	1,938
	日帰り客	12.4	38.9	31.3	11.1	5.7	0.6	100.0	1,360
	名古屋市外	25.0	37.4	31.3	6.3	0.0	0.0	100.0	3,679
	宿泊客	3.8	14.1	33.4	28.3	18.4	2.0	100.0	7,913
	日帰り客	15.8	48.4	30.6	4.4	0.8	0.0	100.0	2,040

注：平均額の計算式： $\{(0 \text{ 円}) \times (\text{「ジュース程度」の回答者数}) + (1,000 \text{ 円}) \times (\text{「2,000 円未満」の回答者数}) + (3,500 \text{ 円}) \times (\text{「2,000～5,000 円未満」の回答者数}) + (7,500 \text{ 円}) \times (\text{「5,000～10,000 円未満」の回答者数}) + (20,000 \text{ 円}) \times (\text{「10,000～30,000 円未満」の回答者数}) + (40,000 \text{ 円}) \times (\text{「30,000 円以上」の回答者数})\} / (\text{全回答者数})$

f. 宿泊代

「名古屋市内に宿泊する」と回答した割合は 17.9%であり、1泊あたりの宿泊代は、「5,000～15,000 円未満」（9.8%）の割合が多い。

なお、名古屋市内の宿泊施設に宿泊する方の1泊あたりの宿泊代の平均額は11,340円であり、昨年度（12,177円）と比較すると837円の減額となっている。

観光地点別にみると、「名古屋市内に宿泊する」割合は、「名古屋城」の入込客では47.1%と多い。また、「ノリタケの森」（21.6%）、「熱田神宮」（18.5%）の入込客でも2割程度であるが、「名古屋まつり」と「イベント会場」の入込客では大半が「宿泊しない」としている。

宿泊客の宿泊代は、各階層とも「5,000～15,000 円未満」が中心である。

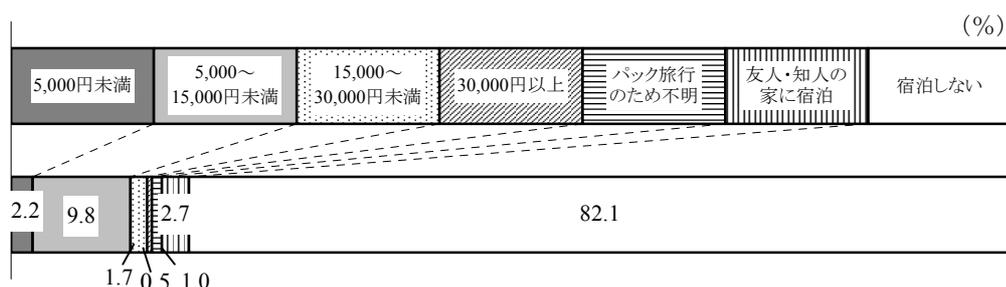


図 2-1-9 入込客の宿泊代

表 2-1-13 入込客の宿泊代（地点・地域×宿泊別）

（単位：%）

市内宿泊代		市内宿泊代							合計	平均額 (円)
		5,000円 未満	5,000～ 15,000円 未満	15,000～ 30,000円 未満	30,000円 以上	パック 旅行の ため不明	友人・知人 の家に 宿泊	宿泊 しない		
観光 地点	名古屋城	6.5	26.5	5.5	1.6	2.7	4.3	52.9	100.0	11,693
	熱田神宮	0.8	12.1	1.1	0.5	0.5	3.5	81.5	100.0	11,522
	ノリタケの森	2.1	11.6	2.6	0.8	1.9	2.6	78.4	100.0	12,382
	イタリア村	2.2	5.4	0.5	0.0	0.6	3.3	88.0	100.0	8,676
	名古屋まつり	0.5	1.5	0.0	0.0	0.2	1.2	96.6	100.0	8,125
	イベント会場	0.8	1.1	0.2	0.0	0.0	1.3	96.6	100.0	8,077
	全体	2.2	9.8	1.7	0.5	1.0	2.7	82.1	100.0	11,340
地域× 宿泊	名古屋市	0.2	0.4	0.2	0.0	0.0	0.4	98.8	100.0	11,364
	宿泊客	18.8	31.2	18.8	0.0	0.0	31.2	0.0	100.0	11,364
	日帰り客	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	—
	名古屋市外	3.3	15.5	2.5	0.8	1.6	4.1	72.2	100.0	11,339
	宿泊客	12.0	55.6	9.1	2.8	5.7	14.8	0.0	100.0	11,339
日帰り客	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	—	

注：平均額の計算式：{(2,500 円) × (「5,000 円未満」の回答者数) + (10,000 円) × (「5,000～15,000 円未満」の回答者数) + (22,500 円) × (「15,000～30,000 円未満」の回答者数) + (40,000 円) × (「30,000 円以上」の回答者数)} / {(全回答者数) - (「パック旅行のため不明」の回答者数) - (「友人・知人の家に宿泊」の回答者数) - (「宿泊しない」の回答者数)}

④来名回数（市外居住者が名古屋を訪れた回数）

名古屋市外に居住する方（全体の62.4%）の来名回数としては、「10回以上」が62.2%と最も多く、「今回はじめて」訪れた割合は14.5%である。

「10回以上」の割合は、「名古屋まつり」と「イベント会場」の入込客や「愛知県（名古屋市を除く）」居住者では9割以上を占める。一方、「今回はじめて」訪れた割合は、「名古屋城」（39.6%）の入込客や「東海以外」（36.1%）からの入込客では比較的多い。

表 2-1-14 名古屋市外からの入込客の来名回数（地点・地域別）

（単位：%）

観光地点・地域		回数					合計
		はじめて	2回目	3回目	4～9回目	10回以上	
観光地点	名古屋城	39.6	15.0	11.8	9.9	23.7	100.0
	熱田神宮	14.3	7.7	5.7	10.4	61.9	100.0
	ノリタケの森	9.9	7.5	7.0	16.1	59.5	100.0
	イタリア村	9.9	4.4	6.5	13.1	66.1	100.0
	名古屋まつり	3.0	0.6	0.0	4.9	91.5	100.0
	イベント会場	0.9	1.1	1.5	5.4	91.1	100.0
地域	東海	1.0	1.0	2.1	5.9	90.0	100.0
	愛知県（名古屋市を除く）	0.4	0.7	0.8	2.4	95.7	100.0
	岐阜県・三重県・静岡県	2.1	1.5	4.3	11.8	80.3	100.0
	東海以外	36.1	16.0	12.6	17.8	17.5	100.0
全 体		14.5	6.7	6.1	10.5	62.2	100.0

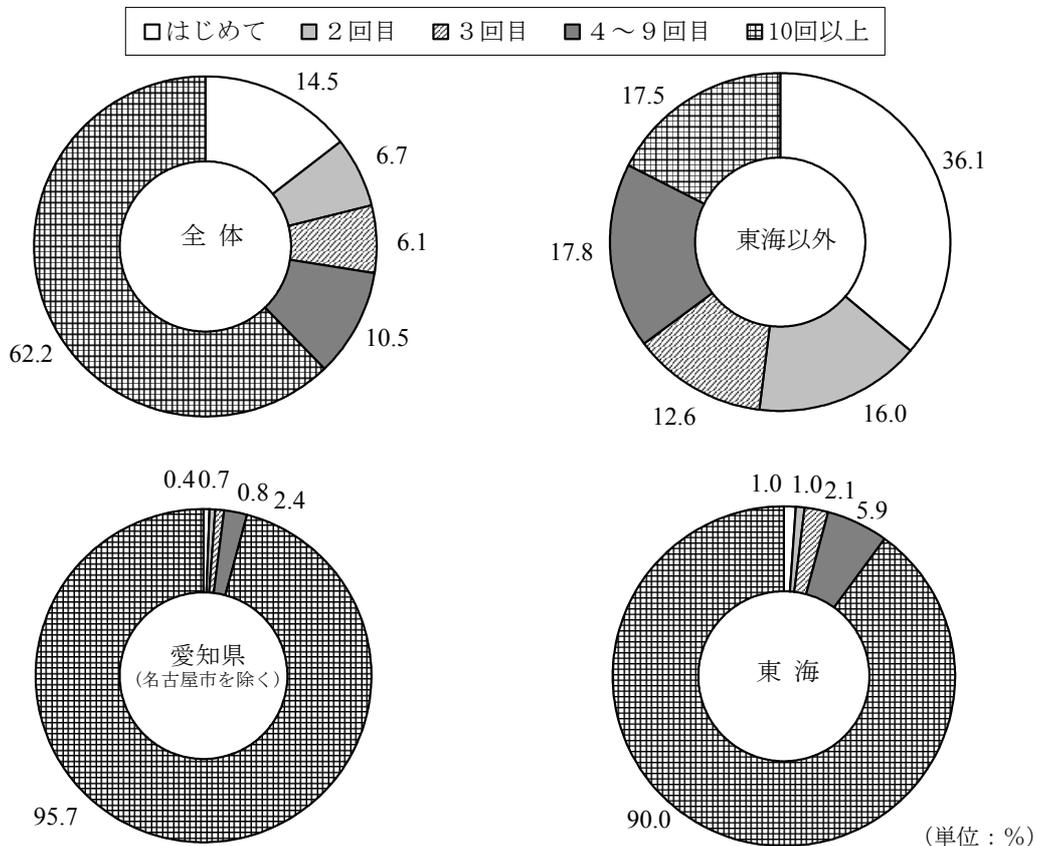


図 2-1-10 入込客の来名回数（地域別）

⑤交通機関

名古屋市外居住者の名古屋市内への主な交通手段は、全体では「自家用車」が47.2%と最も多い。次いで「JR」（27.4%）、「名鉄電車」（14.5%）となっている。

観光地点別にみると、「ノリタケの森」の入込客では「JR」の割合が最も高いが、そのほかでは「自家用車」の割合が最も高く、特に「イベント会場」の入込客では7割に達している。また、「名古屋城」、「熱田神宮」の入込客では「JR」の割合が、「名古屋まつり」の入込客では「名鉄電車」の割合がそれぞれ3割前後と比較的多い。

居住地別にみると、「東海」内の各地域とも「自家用車」が最も多い。また、「愛知県（名古屋市を除く）」では「名鉄電車」、「岐阜県」と「静岡県」では「JR」、「三重県」では「近鉄電車」も比較的多い。一方、「東海以外」からの入込客では「JR」を利用する割合が42.1%と最も高くなっている。

旅行形態別にみると、「幼児・小学生連れ」など「家族連れ」では「自家用車」の割合が、「団体旅行」では「観光バス」の割合がそれぞれかなり高い。「ひとり」などでは「JR」が最も多く、「友人・知人」では「自家用車」や「JR」が多い。

表 2-1-15 名古屋市外からの入込客の交通機関（地点・地域・旅行形態別）

（単位：％）

交通機関		交通機関									
		J R	名 鉄 電 車	近 鉄 電 車	自 家 用 車	航 空 機	路 線 バ ス	観 光 バ ス	そ の 他	合 計	
地点・地域・旅行形態											
観 光 地 点	名古屋城	33.3	11.0	5.9	38.3	6.5	1.6	8.1	4.5	109.2	
	熱田神宮	34.8	14.6	2.4	42.9	4.5	1.2	1.5	1.5	103.4	
	ノリタケの森	38.7	18.5	8.7	22.1	4.1	1.4	15.4	1.2	110.1	
	イタリア村	15.8	10.3	4.0	61.2	2.1	1.5	12.9	1.7	109.5	
	名古屋まつり	24.4	28.7	7.9	35.4	0.0	3.0	0.0	3.7	103.1	
	イベント会場	18.4	13.7	3.5	72.5	0.2	0.9	0.2	1.3	110.7	
	地 域	東 海	18.2	21.5	4.3	57.5	0.0	1.3	4.3	1.0	108.1
愛知県（名古屋市を除く）		15.1	28.5	1.4	58.4	0.0	1.5	1.5	0.9	107.3	
岐阜県		33.2	19.1	0.0	52.7	0.0	0.0	5.0	1.8	111.8	
三重県		5.2	1.9	22.9	65.2	0.0	1.9	8.6	1.4	107.1	
静岡県		40.2	4.9	1.0	44.1	0.0	1.0	18.6	0.0	109.8	
東海以外		42.1	3.2	6.5	30.8	8.3	1.7	12.1	4.1	108.8	
旅 行 形 態	ひとり	45.5	22.0	5.6	21.1	4.7	2.1	1.2	4.7	106.9	
	友人・知人	30.4	18.8	6.5	40.6	2.3	2.0	5.5	2.8	108.9	
	家 族	幼児・小学生連れ	10.7	7.7	4.7	83.3	0.0	0.9	0.4	0.0	107.7
		夫婦	20.5	9.6	4.6	66.2	2.7	1.6	1.6	0.7	107.5
		その他	27.7	11.5	4.9	57.0	5.2	0.5	1.4	1.1	109.3
		団体旅行	10.6	4.3	0.0	9.2	4.3	0.0	74.5	4.3	107.2
	その他	48.3	20.7	3.4	20.7	13.8	0.0	17.2	3.4	127.5	
全 体		27.4	14.5	5.2	47.2	3.2	1.5	7.3	2.2	108.5	

（複数回答）

⑥名古屋市以外の訪問地

名古屋市外に居住する入込客のうち、「名古屋市以外にも訪問する」方の割合は全体では21.0%である。その訪問先としては、「知多・常滑・セントレア」(5.0%)が最も多く、以下、「豊田・岡崎・足助」(3.7%)、「伊勢・志摩」(3.3%)、「長島温泉・湯の山・鈴鹿」(3.2%)、「明治村・犬山」(2.8%)、「岐阜・関ヶ原」(1.6%)、「下呂・高山」(1.6%)となっている。

観光地点別にみると、「名古屋市以外にも訪問する」という割合は、「名古屋城」の入込客では39.1%と高く、「ノリタケの森」の入込客でも24.0%と相対的に多い。一方「名古屋まつり」、「イベント会場」の入込客では1割と少ない。

宿泊客では、「名古屋市以外にも訪問する」という割合が34.9%と高い。

表 2-1-16 名古屋市外からの入込客の訪問地

(単位：%)

訪問地		名古屋市内のみ	知多・常滑・セントレア	豊田・岡崎・足助	伊勢・志摩	長島温泉・湯の山・鈴鹿	明治村・犬山	岐阜・関ヶ原	下呂・高山	蒲郡・西浦・三谷	多治見・恵那・中津川	豊橋・伊良湖	瀬戸・小原	豊川・鳳来寺	その他	訪問地合計
		観光地点・宿泊														
観光地点	名古屋城	60.9	8.1	6.5	7.5	4.1	6.5	2.8	3.0	1.2	2.0	1.0	1.4	0.6	6.9	51.6
	熱田神宮	83.0	4.5	1.8	2.4	0.3	2.4	1.2	0.9	0.9	0.3	0.0	0.6	0.0	5.4	20.7
	ノリタケの森	76.0	5.3	8.2	3.1	2.6	2.4	1.9	1.7	0.5	0.5	0.7	0.2	0.2	2.4	29.7
	イタリア村	84.2	4.9	1.7	2.1	2.5	0.6	0.6	0.6	0.8	0.2	0.4	0.0	0.2	1.9	16.5
	名古屋まつり	89.6	4.3	0.6	3.0	5.5	4.9	2.4	2.4	0.6	1.2	1.2	0.6	0.6	1.2	28.5
	イベント会場	89.2	2.4	1.3	0.9	4.6	1.1	0.9	1.1	0.4	0.4	0.2	0.2	0.7	0.7	14.9
宿泊	宿泊客	65.1	8.3	5.7	7.6	3.4	4.7	2.1	2.8	0.8	1.2	0.8	0.9	0.3	6.6	45.2
	日帰り客	84.4	3.8	3.0	1.6	3.1	2.1	1.4	1.1	0.8	0.6	0.5	0.4	0.4	2.0	20.8
全体		79.0	5.0	3.7	3.3	3.2	2.8	1.6	1.6	0.8	0.8	0.6	0.5	0.4	3.2	27.5

(複数回答)

⑦旅行日程

名古屋市以外からの入込客の旅行日程としては、「日帰り」が66.6%であり、「2日」(22.7%)、「3日」(6.9%)など「2日以上」の割合は合わせて33.4%となっている。

観光地点別にみると、「2日以上」の割合は、「名古屋城」の入込客では71.0%と高く、「熱田神宮」(40.8%)、「ノリタケの森」(35.4%)でも比較的高い。一方、「イベント会場」、「名古屋まつり」の入込客では「日帰り」の割合が9割前後を占める。

居住地別にみると、「東海」居住者では大半が「日帰り」である。一方、「その他」(97.5%)、「関東」(91.7%)からの入込客では大半が「2日以上」であり、「甲信越」(72.7%)、「北陸」(65.1%)、「近畿」(55.8%)からの入込客でも「2日以上」の割合はそれぞれ過半数を占めている。

表 2-1-17 名古屋市外からの入込客の旅行日程（地点・地域別）

(単位：%)

観光地点・地域		日 程					
		日帰り	2日	3日	4日	5日以上	合 計
観 光 地 点	名古屋城	29.0	46.0	15.2	5.3	4.5	100.0
	熱田神宮	59.2	28.9	7.1	2.1	2.7	100.0
	ノリタケの森	64.6	24.3	7.7	1.7	1.7	100.0
	イタリア村	78.5	16.9	3.8	0.0	0.8	100.0
	名古屋まつり	86.0	9.8	1.2	0.6	2.4	100.0
	イベント会場	94.4	2.4	2.4	0.4	0.4	100.0
地 域	東 海	93.9	4.6	1.2	0.2	0.1	100.0
	関 東	8.3	64.1	17.6	5.2	4.8	100.0
	近 畿	44.2	42.5	10.7	1.3	1.3	100.0
	北 陸	34.9	57.2	7.9	0.0	0.0	100.0
	甲信越	27.3	50.0	12.5	1.1	9.1	100.0
	その他	2.5	44.1	28.0	12.4	13.0	100.0
全 体		66.6	22.7	6.9	1.8	2.0	100.0

⑧市内での宿泊数

名古屋市以外からの入込客の中で「日帰り」を除いた方（全体の20.9%）のうち、名古屋市内に宿泊する割合は83.9%である。その泊数としては、「1泊」する割合が62.6%と最も高く、「2泊」する割合が15.3%となっている。

各階層とも「1泊」の割合が最も高い。

居住地別にみると、「その他」からの入込客では「2泊以上」する割合が合わせて35.6%と比較的多い。

表 2-1-18 名古屋市外からの入込客の名古屋市内における宿泊数（地点・地域別）

（単位：％）

観光地点・地域		市内宿泊数					合 計
		宿泊しない	1 泊	2 泊	3 泊	4 泊以上	
観 光 地 点	名古屋城	14.6	67.4	12.6	4.0	1.4	100.0
	熱田神宮	13.1	62.8	13.9	5.1	5.1	100.0
	ノリタケの森	15.0	61.2	20.4	0.7	2.7	100.0
	イタリア村	24.5	55.9	15.7	1.0	2.9	100.0
	名古屋まつり	13.0	56.7	13.0	4.3	13.0	100.0
	イベント会場	26.9	38.5	30.8	0.0	3.8	100.0
地 域	東 海	33.7	51.7	13.5	0.0	1.1	100.0
	関 東	15.4	65.4	13.9	2.3	3.0	100.0
	近 畿	13.2	67.6	15.0	2.4	1.8	100.0
	北 陸	14.6	70.8	14.6	0.0	0.0	100.0
	甲信越	20.3	65.7	10.9	3.1	0.0	100.0
	その他	8.9	55.5	21.0	7.6	7.0	100.0
全 体		16.1	62.6	15.3	3.1	2.9	100.0

2-2 宿泊客の現状

(1) 調査の概要

①調査の目的

市内に宿泊する人の来名目的や遊覧状況等について把握するためアンケート調査を実施した。

②調査日時等

平成19年11月1日～11月30日

③調査方法

この調査は、予め調査票を宿泊施設の客室等に設置し、宿泊者が記入した上でフロントに提出するという方法で行った。

④調査宿泊施設

施設の区分（登録ホテル、ホテル、旅館）や施設の規模、立地場所を勘案して、以下の20施設に協力していただきました。

・登録ホテル 11施設

ウェスティンナゴヤキャッスル、名鉄グランドホテル、ホテルアソシア名古屋ターミナル、ホテルキャッスルプラザ、ロイヤルパークイン名古屋、名鉄ニューグランドホテル、名古屋観光ホテル、名古屋国際ホテル、名古屋東急ホテル、サイプレスガーデンホテル、名古屋マリオットアソシアホテル

・ホテル 7施設

東京第一ホテル錦、名古屋ガーデンパレス、全日空ホテルズホテルグランコート名古屋、ナゴヤローレンホテル、名古屋笠寺ワシントンホテルプラザ、ホテルサンルートプラザ名古屋、ホテル大名古屋温泉

・旅館 2施設

つちやホテル、旅館浅野屋

⑤調査件数

●合計：405サンプル

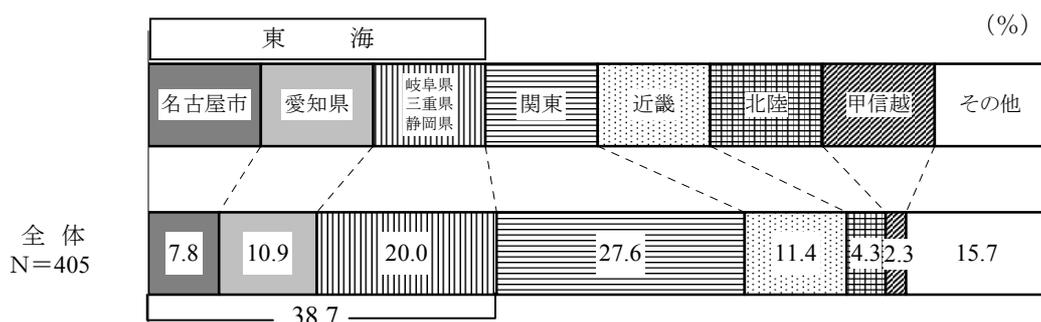
(2) 調査結果

①居住地構成、性・年齢構成

a. 居住地構成

宿泊客の居住地構成としては、全体では「名古屋市」が 7.8%、「愛知県（名古屋市を除く）」が 10.9%、「岐阜県、三重県、静岡県」が 20.0%であり、合わせて「東海」地域が 38.7%となっている。

「東海」地域外では、「関東」地域が 27.6%と多く、「近畿」地域は 11.4%、「北陸」地域は 4.3%、「甲信越」地域は 2.3%である。



注：愛知県は名古屋市を除く

図 2-2-1 宿泊客の居住地構成

b. 性・年齢構成

年齢は、全体では「20～29歳」(30.3%)と「30～39歳」(29.6%)が多く、以下「40～49歳」(15.1%)、「50～59歳」(13.5%)、「60～69歳」(8.2%)となっている。

性別は、男性が 53.8%、女性が 46.2%と、男性の方が女性より若干多い。

性別に宿泊客の年齢をみると、男性では「30～39歳」(31.3%)を中心に 20歳代～60歳代に分散しているが、女性では「20～29歳」(39.3%)、「30～39歳」(29.0%)の割合が多い。

表 2-2-1 宿泊客の性・年齢構成

(単位：%)

	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
全体	1.0	30.3	29.6	15.1	13.5	8.2	2.3	100.0
男性	1.0	23.7	31.3	20.3	13.0	9.7	1.0	53.8
女性	1.1	39.3	29.0	9.1	13.6	4.5	3.4	46.2

注：男性、女性別の合計の列は、性別の構成比率である。

②旅行の内容

a. 今回の主な目的

宿泊客の旅行目的としては、「観光施設の見学」(19.8%)をはじめ「ショッピング」(9.9%)、「観劇・コンサート」(8.9%)などの「観光・娯楽」の割合が合わせて54.4%と過半数を占め、「商用・公用」が14.6%、「帰省・冠婚葬祭」が13.6%、「大会・会議に参加」が8.7%となっている。

時系列にみると、この3年間では「観光・娯楽」、「帰省・冠婚葬祭」の割合がそれぞれ増加し、「商用・公用」の割合が減少している。

性別にみると、男性では「商用・公用」の割合が24.2%と比較的多い。女性では「観劇・コンサート」(13.6%)、「帰省・冠婚葬祭」(16.4%)の割合が男性に比べ多い。

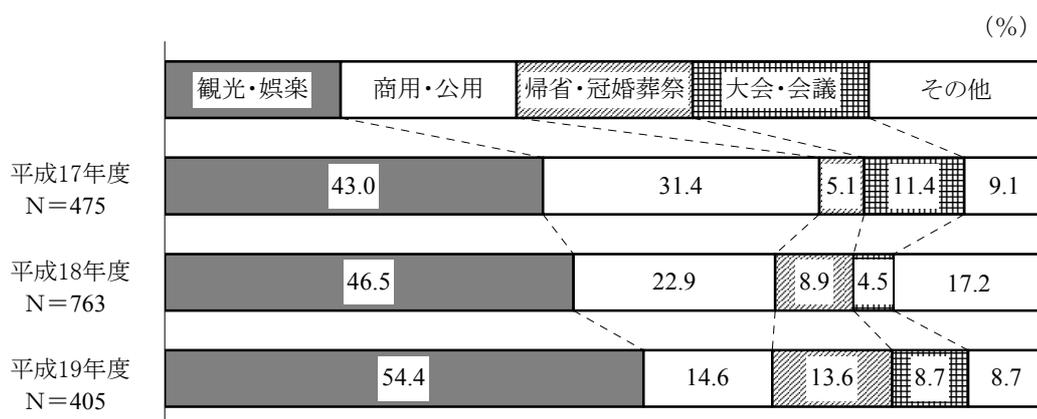


図 2-2-2 宿泊客の主な旅行目的と構成比の推移

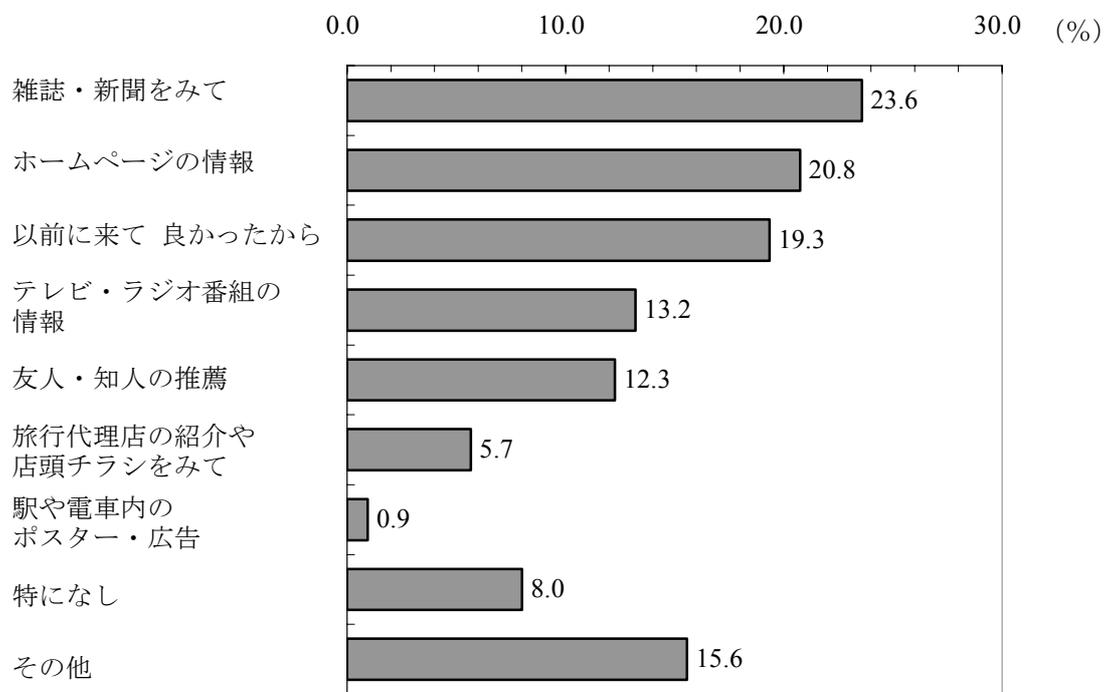
表 2-2-2 宿泊客の旅行目的（性別）

(単位：%)

旅行目的	観光・娯楽						商用・公用	帰省・冠婚葬祭	大会・会議に参加	その他	合計
	観光施設の見学	ショッピング	観劇・コンサート	イベント	飲食	その他の娯楽行為					
性別											
男性	17.9	10.1	4.8	6.8	3.9	5.8	24.2	11.1	8.2	7.2	100.0
女性	20.9	10.7	13.6	5.1	5.6	2.8	4.0	16.4	9.6	11.3	100.0
全体	19.8	9.9	8.9	6.4	5.2	4.2	14.6	13.6	8.7	8.7	100.0

b. 名古屋を選んだきっかけ

「観光・娯楽」を目的として訪れた宿泊客（220人）の名古屋を選んだきっかけとしては、「雑誌・新聞をみて」（23.6%）が最も多く、次いで「ホームページの情報」（20.8%）、「以前に来て良かったから」（19.3%）、「テレビ・ラジオ番組の情報」（13.2%）、「友人・知人の推薦」（12.3%）となっている。



(複数回答)

図 2-2-3 宿泊客の「観光・娯楽」で訪れたきっかけ

c. 訪問する主な観光施設

観光施設等を訪問するとした回答者は、405 人中 304 人 (75.1%) であり、全体では「名古屋城」が 28.9%と最も多く、次いで「名古屋港水族館」(16.0%)、「イタリア村」(14.3%)、「テレビ塔」(13.1%)、「熱田神宮」(12.8%)、「徳川美術館」(8.1%)、「徳川園」(7.7%)、「東山動植物園」(7.4%) となっている。

居住地別にみると、「東海」からの宿泊客では観光施設等を訪問する割合が 79.1%と高く、「名古屋城」(22.2%)、「イタリア村」(18.3%)、「名古屋港水族館」(17.6%) を訪れる割合が多い。一方、「東海以外」からの宿泊客では「名古屋城」(32.9%) を訪れる割合が高く、「熱田神宮」(14.9%) を訪れる割合も東海地域に比べ高い。

なお、宿泊客 1 人あたりの平均訪問施設数は 1.38 施設である。

表 2-2-3 宿泊客の訪問先

(単位：%)

訪問施設	名古屋城	産業技術記念館	ノリタケの森	徳川美術館	徳川園	熱田神宮	東山動植物園	テレビ塔	名古屋港水族館	イタリア村	その他	なし	平均訪問施設数
地域													
東海	22.2	3.9	5.2	9.2	8.5	9.2	9.2	13.7	17.6	18.3	26.8	20.9	1.44
東海以外	32.9	2.8	3.6	7.6	7.2	14.9	6.0	12.4	14.9	12.0	19.3	27.7	1.34
全体	28.9	3.2	4.2	8.1	7.7	12.8	7.4	13.1	16.0	14.3	22.2	24.9	1.38

(複数回答)

注：平均訪問施設数の計算式：{訪れた施設の回答数及び訪れる予定の施設の回答数（「なし」の回答は除く）の合計数} / (全回答者数)

d. 旅行形態

全体では「友人・知人」が34.7%と最も多く、「ひとり」は27.7%で、「家族連れ」の割合は「家族（夫婦）」（16.5%）など合わせて32.8%である。

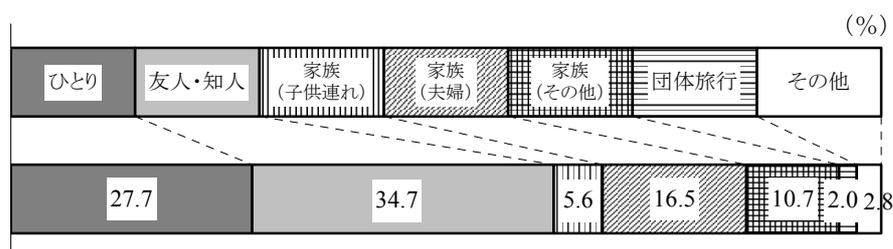


図 2-2-4 宿泊客の旅行形態

「パッケージ旅行」の割合は、全体では11.6%となっている。

居住地別にみると「その他」からの宿泊客では30.4%が、「関東」、「甲信越」、「近畿」からの宿泊客ではそれぞれ1割程度が、パッケージ旅行を利用している。

表 2-2-4 宿泊客のパッケージ旅行利用有無（居住地別）

(単位：%)

地 域	旅行形態	パッケージ旅行	パッケージ旅行ではない	合 計
東 海		4.8	95.2	100.0
名古屋市		0.0	100.0	100.0
愛知県(名古屋市を除く)		2.4	97.6	100.0
岐阜県・三重県・静岡県		8.0	92.0	100.0
関 東		13.7	86.3	100.0
近 畿		9.5	90.5	100.0
北 陸		0.0	100.0	100.0
甲信越		11.1	88.9	100.0
その他		30.4	69.6	100.0
全 体		11.6	88.4	100.0

③旅行費用

a. 旅行予算

宿泊客の旅行予算は、「10,000～30,000 円未満」が 46.1%と最も多く、次いで「30,000～50,000 円未満」(27.8%)、「50,000 円以上」(15.3%)となっている。

居住地別にみると、「その他」からの宿泊客では「50,000 円以上」の割合が最も多い。そのほかの地域では「10,000～30,000 円未満」が最も多いものの、「東海」以外の地域では「30,000～50,000 円未満」も 3 割台みられ、遠方からの宿泊客では高額な予算となっている割合が多い。

なお、旅行予算の平均額は 32,493 円であり、昨年度 (31,153 円) と比較して 1,340 円の増額となっている。

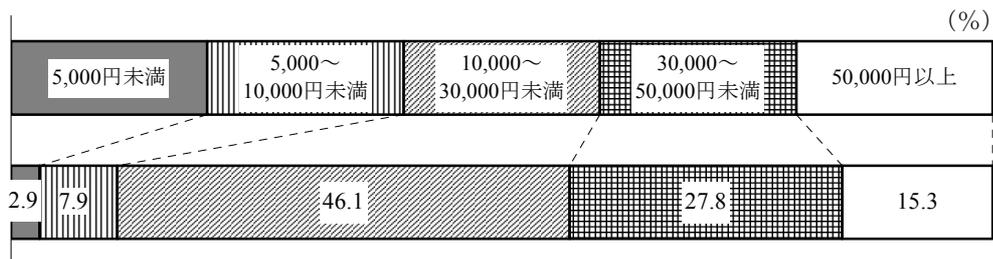


図 2-2-5 宿泊客の旅行予算

表 2-2-5 宿泊客の旅行予算 (居住地別)

(単位: %)

地域	旅行予算					合計	平均額 (円)
	5,000円未満	5,000～10,000円未満	10,000～30,000円未満	30,000～50,000円未満	50,000円以上		
東海	6.8	14.9	56.7	12.8	8.8	100.0	24,358
名古屋市	13.3	23.3	33.4	23.3	6.7	100.0	23,083
愛知県(名古屋市を除く)	7.3	19.5	61.0	7.3	4.9	100.0	20,427
岐阜県・三重県・静岡県	3.9	9.1	63.6	11.7	11.7	100.0	26,948
関東	1.0	5.0	40.5	38.6	14.9	100.0	35,099
近畿	0.0	4.8	47.6	38.1	9.5	100.0	32,262
北陸	0.0	6.7	53.3	33.3	6.7	100.0	29,500
甲信越	0.0	0.0	55.6	33.3	11.1	100.0	32,778
その他	0.0	0.0	20.4	38.9	40.7	100.0	50,185
全体	2.9	7.9	46.1	27.8	15.3	100.0	32,493

注: 平均額の計算式: $\{(2,500 \text{ 円}) \times (\text{「5,000 円未満」の回答者数}) + (7,500 \text{ 円}) \times (\text{「5,000～10,000 円未満」の回答者数}) + (20,000 \text{ 円}) \times (\text{「10,000～30,000 円未満」の回答者数}) + (40,000 \text{ 円}) \times (\text{「30,000～50,000 円未満」の回答者数}) + (75,000 \text{ 円}) \times (\text{「50,000 円以上」の回答者数})\} / (\text{全回答者数})$

b. 名古屋市内予算

宿泊客に名古屋市内で使う金額を具体的に尋ねたところ、「20,000～30,000 円未満」(31.5%)、「10,000～20,000 円未満」(31.3%)が多く、以下「30,000～50,000 円未満」(14.6%)、「50,000 円以上」(10.4%)、「5,000～10,000 円未満」(9.8%)となっており、平均額は22,154 円である。

居住地別にみると、平均額は、「東海」、「関東」、「北陸」からの宿泊客では約 20,000 円であり、「近畿」(26,571 円)、「その他」(28,469 円)からの宿泊客では消費額は高額となっている。

なお、平均額は、昨年度(24,223 円)と比較して2,069 円の減額となっている。

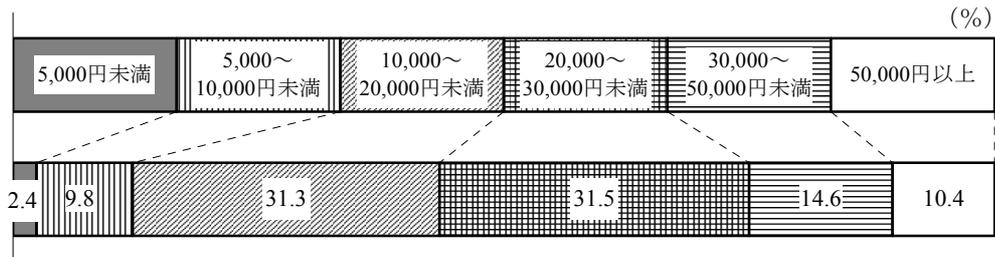


図 2-2-6 宿泊客の名古屋市内予算

表 2-2-6 宿泊客の名古屋市内予算 (居住地別)

(単位: %)

地域	旅行予算	5,000円未満	5,000～10,000円未満	10,000～20,000円未満	20,000～30,000円未満	30,000～50,000円未満	50,000円以上	合計	平均額 (円)
東海		5.3	11.4	31.1	30.3	13.6	8.3	100.0	19,871
名古屋市		11.1	18.5	26.0	22.2	11.1	11.1	100.0	20,685
愛知県 (名古屋市を除く)		2.9	8.8	29.4	41.2	11.8	5.9	100.0	18,559
岐阜県・三重県・静岡県		4.2	9.9	33.7	28.2	15.5	8.5	100.0	20,190
関東		1.1	13.5	35.9	29.2	12.4	7.9	100.0	20,489
近畿		0.0	8.6	31.4	25.7	14.3	20.0	100.0	26,571
北陸		0.0	0.0	40.0	46.7	13.3	0.0	100.0	20,333
甲信越		0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	100.0	16,857
その他		0.0	2.0	20.4	38.8	20.4	18.4	100.0	28,469
全体		2.4	9.8	31.3	31.5	14.6	10.4	100.0	22,154

c. 市内交通費

宿泊客の市内交通費は、全体では「1,000～3,000円未満」が44.0%と最も多く、次いで「1,000円未満」(24.4%)、「3,000～5,000円未満」(13.5%)、「5,000円以上」(9.3%)、「交通費はかからない」(7.7%)となっている。

居住地別にみると、「名古屋市」居住の宿泊客では「1,000円未満」が最も多く、そのほかの地域では「1,000～3,000円未満」が最も多い。「北陸」、「甲信越」、「その他」からの宿泊客では「3,000円以上」の割合も比較的多い。

なお、市内交通費の平均額は2,264円であり、昨年度(2,440円)と比較して176円の減額となっている。

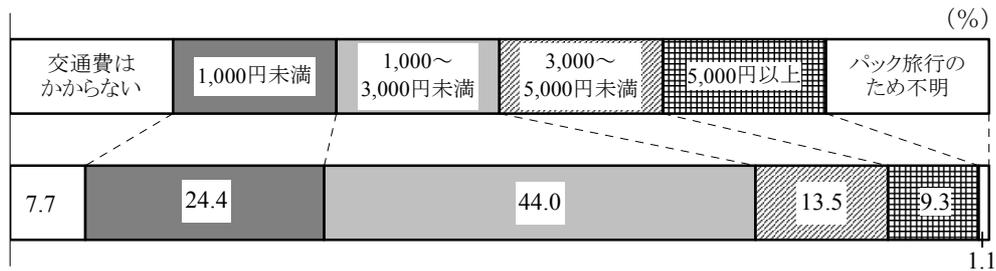


図 2-2-7 宿泊客の市内交通費

表 2-2-7 宿泊客の市内交通費 (居住地別)

(単位：%)

地域	市内交通費						合計	平均額 (円)
	交通費はかからない	1,000円未満	1,000～3,000円未満	3,000～5,000円未満	5,000円以上	パック旅行のため不明		
東海	7.4	36.5	44.6	6.1	4.7	0.7	100.0	1,684
名古屋市	6.7	53.4	33.3	3.3	0.0	3.3	100.0	1,103
愛知県(名古屋市を除く)	2.4	39.0	51.3	4.9	2.4	0.0	100.0	1,598
岐阜県・三重県・静岡県	10.4	28.6	45.4	7.8	7.8	0.0	100.0	1,948
関東	7.0	22.0	42.0	21.0	8.0	0.0	100.0	2,390
近畿	4.8	9.5	59.5	16.7	7.1	2.4	100.0	2,500
北陸	0.0	13.3	46.7	13.3	26.7	0.0	100.0	3,533
甲信越	0.0	25.0	37.5	25.0	12.5	0.0	100.0	2,813
その他	14.5	10.9	34.6	18.2	18.2	3.6	100.0	2,943
全体	7.7	24.4	44.0	13.5	9.3	1.1	100.0	2,264

注：平均額の計算式：{(0円)×(「交通費はかからない」の回答者数)+(500円)×(「1,000円未満」の回答者数)+(2,000円)×(「1,000～3,000円未満」の回答者数)+(4,000円)×(「3,000～5,000円未満」の回答者数)+(7,500円)×(「5,000円以上」の回答者数)} / {(全回答者数)-(「パック旅行のため不明」の回答者数)}

d. 市内での土産代

市内で土産を「購入する」割合は74.7%であり、購入額は「2,000～5,000円未満」が32.6%と最も多く、以下「2,000円未満」(19.5%)、「5,000～10,000円未満」(18.4%)、「10,000円以上」(4.2%)となっている。

居住地別にみると、「購入しない」と回答した割合は、「名古屋市」(62.2%)、「愛知県(名古屋市を除く)」(46.3%)居住の宿泊客では多く、遠方からの宿泊客の方が土産を購入している割合は多い。

購入額としては、「北陸」、「その他」の地域からの宿泊客では「5,000～10,000円未満」が最も多く、平均額は高い。

なお、土産代の平均額は3,561円である。昨年度と比較すると購入する割合(昨年度72.5%)は微増しているものの、平均額(同3,971円)は410円の減額となっている。

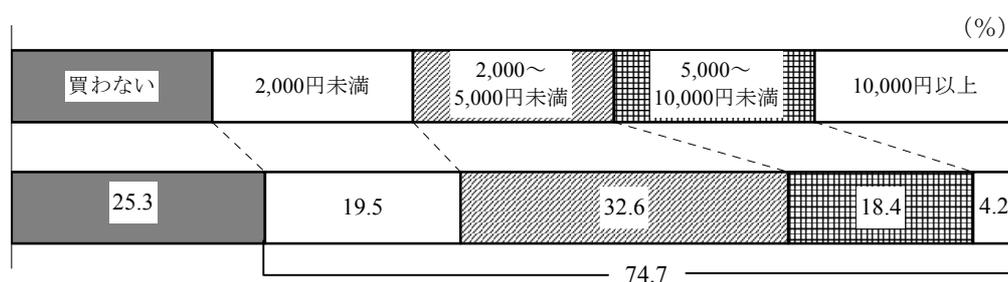


図 2-2-8 宿泊客の市内での土産代

表 2-2-8 宿泊客の市内での土産代 (居住地別)

(単位：%)

地域	土産代					合計	平均額 (円)
	買わない	2,000円未満	2,000～5,000円未満	5,000～10,000円未満	10,000円以上		
東海	39.9	22.3	27.7	10.1	0.0	100.0	1,953
名古屋市	62.2	10.3	17.2	10.3	0.0	100.0	1,483
愛知県(名古屋市を除く)	46.3	22.0	19.5	12.2	0.0	100.0	1,817
岐阜県・三重県・静岡県	28.2	26.9	35.9	9.0	0.0	100.0	2,199
関東	25.7	20.8	35.7	15.8	2.0	100.0	3,040
近畿	7.1	23.8	47.6	16.7	4.8	100.0	4,107
北陸	13.3	6.7	20.0	46.7	13.3	100.0	6,933
甲信越	22.2	11.1	44.5	22.2	0.0	100.0	3,333
その他	7.1	10.7	32.1	37.6	12.5	100.0	6,545
全体	25.3	19.5	32.6	18.4	4.2	100.0	3,561

注：平均額の計算式： $\{(0 \text{円}) \times (\text{「買わない」の回答者数}) + (1,000 \text{円}) \times (\text{「2,000円未満」の回答者数}) + (3,500 \text{円}) \times (\text{「2,000～5,000円未満」の回答者数}) + (7,500 \text{円}) \times (\text{「5,000～10,000円未満」の回答者数}) + (20,000 \text{円}) \times (\text{「10,000円以上」の回答者数})\} / (\text{全回答者数})$

e. 市内での食事代

市内での食事に係る支出は、全体では「2,000～5,000 円未満」が 36.2%と最も多く、次いで「5,000～10,000 円未満」(29.0%)、「10,000～30,000 円未満」(17.0%)、「2,000 円未満」(14.9%)となっている。

居住地別にみると、「北陸」と「甲信越」からの宿泊客では「5,000～10,000 円未満」が最も多い。

なお、食事代の平均額は 7,844 円であり、昨年度 (7,860 円) と比較して 16 円の減額となっている。

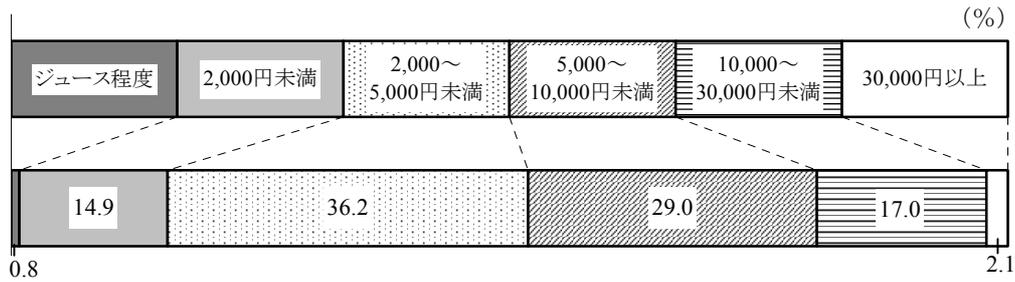


図 2-2-9 宿泊客の市内での食事代

表 2-2-9 宿泊客の市内での食事代 (居住地別)

(単位: %)

地域	市内食事代						合計	平均額 (円)
	ジュース程度	2,000円未満	2,000～5,000円未満	5,000～10,000円未満	10,000～30,000円未満	30,000円以上		
東海	1.4	19.7	38.7	25.2	14.3	0.7	100.0	6,571
名古屋市	3.3	20.0	40.0	16.7	20.0	0.0	100.0	6,850
愛知県 (名古屋市を除く)	2.4	17.1	43.9	29.3	7.3	0.0	100.0	5,366
岐阜県・三重県・静岡県	0.0	21.1	35.5	26.3	15.8	1.3	100.0	7,112
関東	1.0	8.9	36.6	32.7	17.8	3.0	100.0	8,574
近畿	0.0	12.2	36.6	31.7	14.6	4.9	100.0	8,659
北陸	0.0	6.7	33.3	46.7	13.3	0.0	100.0	7,400
甲信越	0.0	12.5	12.5	50.0	25.0	0.0	100.0	9,313
その他	0.0	14.5	32.8	25.5	23.6	3.6	100.0	9,382
全体	0.8	14.9	36.2	29.0	17.0	2.1	100.0	7,844

注: 平均額の計算式: $\{(0 \text{ 円}) \times (\text{「ジュース程度」の回答者数}) + (1,000 \text{ 円}) \times (\text{「2,000 円未満」の回答者数}) + (3,500 \text{ 円}) \times (\text{「2,000～5,000 円未満」の回答者数}) + (7,500 \text{ 円}) \times (\text{「5,000～10,000 円未満」の回答者数}) + (20,000 \text{ 円}) \times (\text{「10,000～30,000 円未満」の回答者数}) + (40,000 \text{ 円}) \times (\text{「30,000 円以上」の回答者数})\} / (\text{全回答者数})$

f. 宿泊代

1泊あたりの宿泊代としては、「5,000～15,000円未満」が66.0%を占めていて、次いで「15,000～30,000円未満」(22.0%)となっている。

どの地域においても「5,000～15,000円未満」が最も多い。

なお、1泊あたりの宿泊代の平均額は13,576円であり、昨年度(13,046円)と比較して530円の増額となっている。

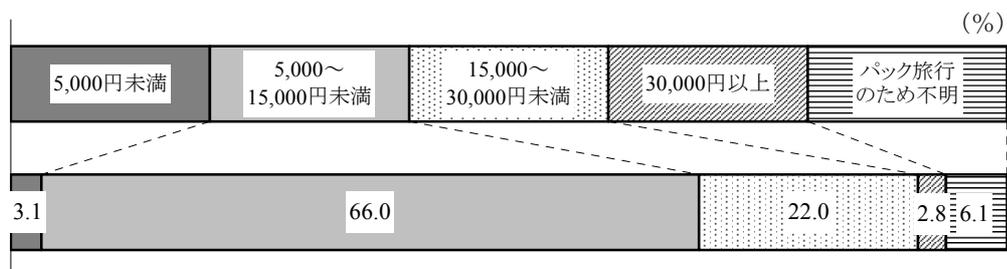


図 2-2-10 宿泊客の宿泊代

表 2-2-10 宿泊客の宿泊代 (居住地別)

(単位: %)

地域	市内宿泊代					合計	平均額 (円)
	5,000円未満	5,000～15,000円未満	15,000～30,000円未満	30,000円以上	パック旅行のため不明		
東海	3.0	68.6	22.4	3.0	3.0	100.0	13,577
名古屋市	8.0	64.0	24.0	4.0	0.0	100.0	13,600
愛知県 (名古屋市を除く)	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0	100.0	11,786
岐阜県・三重県・静岡県	2.7	62.1	25.7	4.1	5.4	100.0	14,464
関東	4.0	64.2	24.8	2.0	5.0	100.0	13,568
近畿	4.9	65.9	24.4	2.4	2.4	100.0	13,500
北陸	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	12,500
甲信越	12.5	75.0	0.0	0.0	12.5	100.0	8,929
その他	0.0	55.8	19.2	3.8	21.2	100.0	14,512
全体	3.1	66.0	22.0	2.8	6.1	100.0	13,576

注: 平均額の計算式: $\{(2,500 \text{ 円}) \times (\text{「5,000円未満」の回答者数}) + (10,000 \text{ 円}) \times (\text{「5,000～15,000円未満」の回答者数}) + (22,500 \text{ 円}) \times (\text{「15,000～30,000円未満」の回答者数}) + (40,000 \text{ 円}) \times (\text{「30,000円以上」の回答者数})\} / \{(全回答者数) - (\text{「パック旅行のため不明」の回答者数})\}$

④来名回数（市外居住者が名古屋を訪れた回数）

居住地が名古屋市外の宿泊客 374 人の来名回数としては、「10 回以上」の割合が 31.6%と最も多く、次いで「4～9 回目」（19.3%）、「2 回目」（17.6%）となっていて、今回「はじめて」の割合は 17.0%である。

居住地別にみると、「東海」では「10 回以上」（50.4%）が半数を占め、「はじめて」の割合は 7.7%であるが、「東海以外」からの宿泊客では 22.0%が今回「はじめて」の来名である。

表 2-2-11 名古屋市外からの宿泊客の来名回数

(単位：%)

地 域	回 数						合 計
	はじめて	2回目	3回目	4～9回目	10回以上		
東 海	7.7	13.7	12.0	16.2	50.4	100.0	
愛知県（名古屋市を除く）	2.6	10.3	5.1	17.9	64.1	100.0	
岐阜県・三重県・静岡県	10.3	15.4	15.4	15.4	43.5	100.0	
東海以外	22.0	19.8	15.5	21.1	21.6	100.0	
全 体	17.0	17.6	14.5	19.3	31.6	100.0	

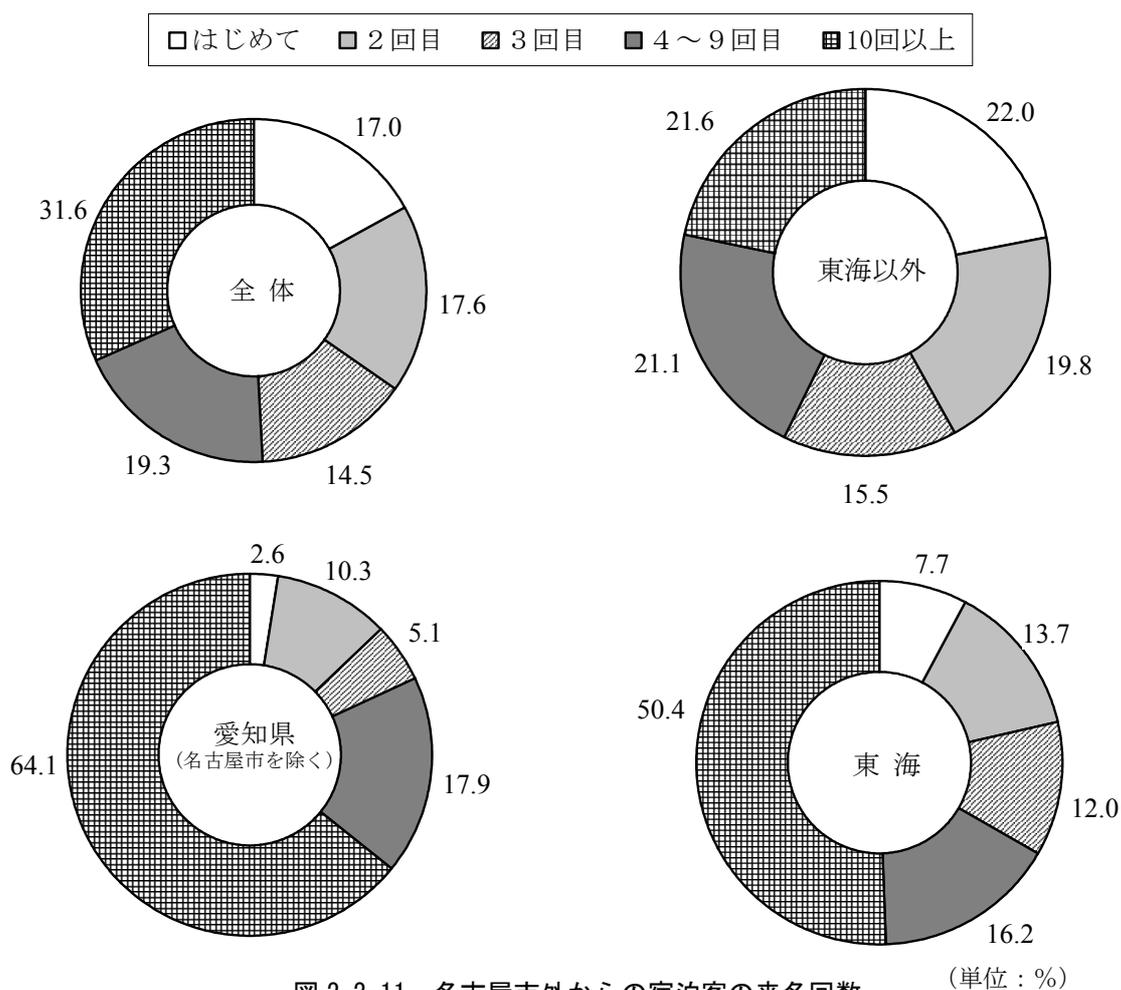


図 2-2-11 名古屋市外からの宿泊客の来名回数

(単位：%)

⑤交通機関

居住地が名古屋市外の宿泊客の名古屋市までの主な交通手段は、「JR」が最も多く 63.1%を占めている。次いで「自家用車」(20.7%)、「名鉄電車」(10.2%)、「近鉄電車」(7.4%)、「航空機」(7.1%)となっている。

居住地別にみると、「愛知県」からの宿泊客では「名鉄電車」(41.5%)、「三重県」からの宿泊客では「近鉄電車」(61.9%)が最も多く、また、「岐阜県」からの宿泊客では「自家用車」(45.5%)が比較的多い。

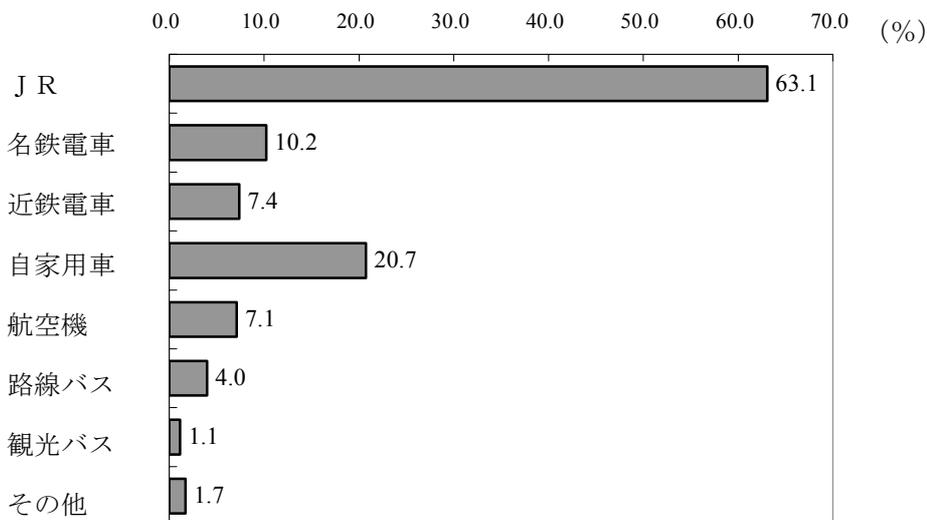
旅行形態別にみると、「幼児・小学生連れの家族」では「自家用車」(59.1%)が最も多い。

表 2-2-12 名古屋市外からの宿泊客の交通機関（居住地別・旅行形態別）

(単位：%)

地域・旅行形態		交通機関								合計
		J R	名鉄電車	近鉄電車	自家用車	航空機	路線バス	観光バス	その他	
地域	東海	51.3	16.8	10.9	26.9	0.0	6.7	0.8	0.0	113.4
	愛知県(名古屋市を除く)	41.5	41.5	0.0	29.3	0.0	4.9	0.0	0.0	117.2
	岐阜県	54.5	9.1	0.0	45.5	0.0	4.5	0.0	0.0	113.6
	三重県	28.6	0.0	61.9	4.8	0.0	4.8	4.8	0.0	104.9
	静岡県	74.3	2.9	0.0	25.7	0.0	11.4	0.0	0.0	114.3
	東海以外	69.1	6.5	5.7	17.8	10.9	2.6	1.3	2.6	116.5
旅行形態	ひとり	74.4	8.9	6.7	6.7	5.6	4.4	0.0	4.4	111.1
	友人・知人	63.8	15.5	8.6	20.7	4.3	2.6	0.9	0.0	116.4
	家	36.4	9.1	0.0	59.1	4.5	0.0	0.0	0.0	109.1
	族	61.9	4.8	6.3	22.2	11.1	7.9	0.0	1.6	115.8
	その他	58.5	7.3	7.3	29.3	7.3	0.0	0.0	2.4	112.1
	団体旅行	33.3	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	133.3
その他	50.0	12.5	12.5	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0	150.0	
全体		63.1	10.2	7.4	20.7	7.1	4.0	1.1	1.7	115.3

(複数回答)



(複数回答)

図 2-2-12 名古屋市外からの宿泊客の交通機関

⑥名古屋以外の訪問地

居住地が名古屋市外の宿泊客（374 人）のうち、「名古屋市以外にも訪問する」という回答が 123 人（32.9%）あった。その方たちの訪問地としては、「明治村・犬山」（35.0%）が最も多く、「下呂・高山」（29.3%）、「知多・常滑・セントレア」（28.5%）、「伊勢・志摩」（28.5%）、「長島温泉・湯の山・鈴鹿」（26.0%）が 2 割台後半で続き、「岐阜・関ヶ原」（18.7%）、「豊田・岡崎・足助」（17.9%）、「多治見・恵那・中津川」（13.8%）、「蒲郡・西浦・三谷」（12.2%）、「豊橋・伊良湖」（10.6%）は 1 割台となっている。

表 2-2-13 名古屋市外からの宿泊客の名古屋市以外の訪問地

(単位：%)

訪問地	明治村・犬山	下呂・高山	知多・常滑・セントレア	伊勢・志摩	長島温泉・湯の山・鈴鹿	岐阜・関ヶ原	豊田・岡崎・足助	多治見・恵那・中津川	蒲郡・西浦・三谷	豊橋・伊良湖	豊川・鳳来寺	瀬戸・小原	その他
	35.0	29.3	28.5	28.5	26.0	18.7	17.9	13.8	12.2	10.6	6.5	4.1	5.7

(複数回答)

⑦旅行日程

居住地が名古屋市外の宿泊客のうち、旅行日程が、「2日」である割合は 75.6%と最も多く、次いで「3日」が 19.4%、「4日」が 2.6%、「5日以上」が 2.4%となっている。

居住地別にみると、「北陸」、「東海」からの宿泊客では「2日」の割合は 9 割以上を占めている。一方、「3日以上」の割合は、「その他」からの宿泊客では 44.7%、「関東」（30.1%）、「近畿」（26.8%）からの宿泊客では 3 割程度である。

表 2-2-14 名古屋市外からの宿泊客の旅行日程

(単位：%)

地域	日程					合計
	2日	3日	4日	5日以上		
東海	90.7	9.3	0.0	0.0	100.0	
関東	69.9	23.3	2.9	3.9	100.0	
近畿	73.2	26.8	0.0	0.0	100.0	
北陸	93.3	6.7	0.0	0.0	100.0	
甲信越	77.8	22.2	0.0	0.0	100.0	
その他	55.3	30.4	10.7	3.6	100.0	
全体	75.6	19.4	2.6	2.4	100.0	

⑧市内での宿泊日数

居住地が名古屋市の外からの宿泊客の名古屋市内での宿泊日数は、「1泊」が77.5%と多く、「2泊」が19.8%、「3泊」が1.8%、「4泊以上」が0.9%となっている。

居住地別にみると、「東海」居住の宿泊客では名古屋市内で「1泊」の割合が88.8%を占める。一方、名古屋市内で「2泊以上」する割合は、「その他」からの宿泊客では39.3%、そのほかの地域では20~25%となっており、遠方からの宿泊客では名古屋市内に長く滞在する割合が多い。

表 2-2-15 名古屋市の外からの宿泊客の市内での宿泊日数

(単位：%)

地域	市内宿泊数	1泊	2泊	3泊	4泊以上	合計
東海		88.8	11.2	0.0	0.0	100.0
関東		75.2	20.8	3.0	1.0	100.0
近畿		76.2	23.8	0.0	0.0	100.0
北陸		80.0	20.0	0.0	0.0	100.0
甲信越		77.8	22.2	0.0	0.0	100.0
その他		60.7	32.1	3.6	3.6	100.0
全体		77.5	19.8	1.8	0.9	100.0

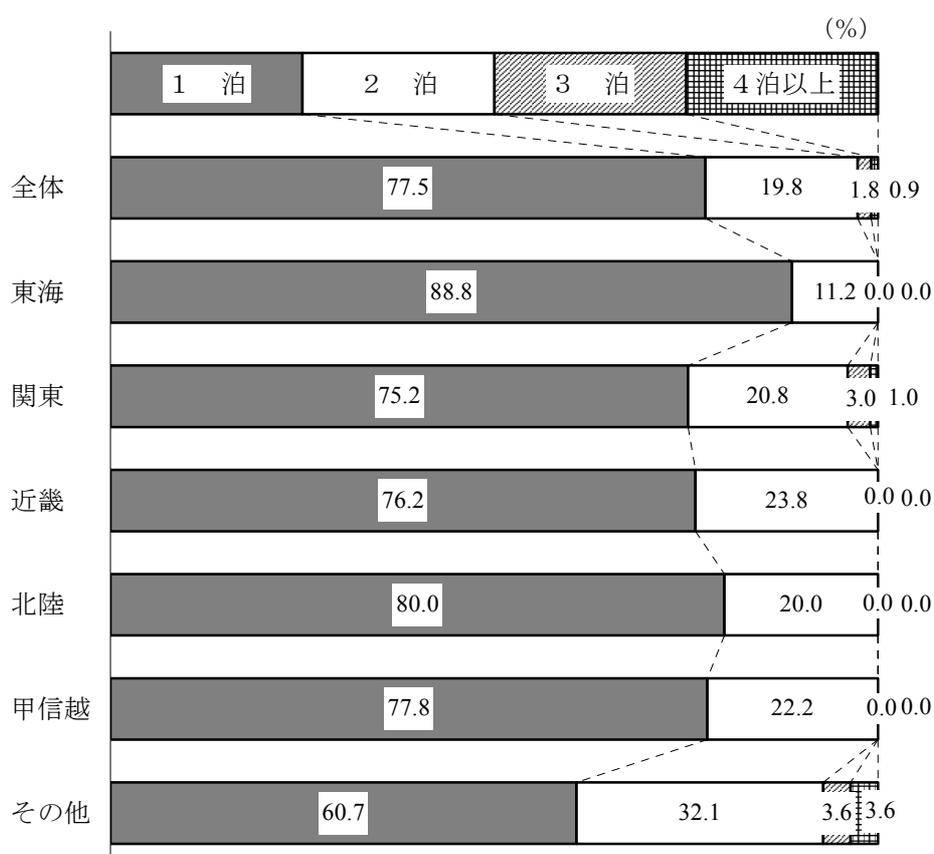


図 2-2-13 名古屋市の外からの宿泊客の市内での宿泊日数

2-3 宿泊施設調査

(1) 調査の概要

①調査の目的

市内宿泊施設の概要ならびに宿泊者数を把握することにより、今後の本市観光推進のための基礎資料とすることを目的に、平成19年度における市内宿泊施設の現況を調査した。

②調査対象・方法

平成18年度調査により把握した市内宿泊施設185施設から廃止した6施設を除き、平成19年度新規開業した3施設を加えた182施設を今回の調査対象とした。

なお、旅館業法にもとづく許可施設のうち、簡易宿所、下宿営業の施設、風俗関連営業の施設や宿泊客を受け入れていない料理旅館などを除いたものを調査対象とした。

調査にあたっては、対象施設に対して調査票を郵送し、回収した上で電話による補足調査を行った。

③調査項目（巻末調査票参照）

- 施設のタイプ（ホテル、旅館、簡易宿所、下宿）
- タイプ別（和・洋室）の室数及び定員数
- 平成19年度の宿泊客数（実人数、延べ人数、外国人宿泊客を含む）
- 国別、宿泊客数
- 修学旅行団体の受入内容

④調査時期及び回答状況

- 調査時期：平成20年5月～6月
- 回答状況：回収数 182施設
有効回答数 182施設
(全問回答 42施設、準全問回答 67施設、部分回答 73施設)
廃休業数 6施設
新規開業数 3施設

(2) 宿泊施設の現状

①回答状況及び集計方法

今回の調査対象とした182（平成19年度新規開業した3施設を含む）施設全てを有効回答数とした。

有効回答数のうち、全問回答が得られたのは42施設（対有効回答数比23.1%）、準全問回答（宿泊者数の回答有り）が得られたのは67施設（対有効回答数比36.8%）、部分回答が得られたのは73施設（対有効回答数比40.1%）であった。

施設のタイプについては、以下の分類区分を基本とした。

- ・登録ホテル：国際観光ホテル整備法に基づく登録ホテル
- ・ホテル：洋室の収容人数もしくは室数のいずれかが全体の過半数を占める施設で、上記登録ホテルを除いた施設
- ・旅館：和室の収容人数並びに室数が全体の過半数を占める施設

また、ホテルについて、室数（規模）をもとに以下の区分を行った。

- ・ホテル：100室以上、50室以上100室未満、50室未満の3区分

表 2-3-1 回答状況（タイプ、規模別）

施設規模	回答状況	有効回答数				廃休業等 (施設)	新規開業 (施設)	対象施設数 (施設)
		計 (施設)	全問回答 (施設)	準全問回答 (施設)	部分回答 (施設)			
登録ホテル		20	12	6	2	0	(0)	20
ホテル (登録 ホテル を除く)	100室以上	58	11	31	16	0	(2)	58
	50室以上100室未満	30	3	18	9	0	(0)	30
	50室未満	20	5	4	11	0	(1)	20
計		108	19	53	36	0	(3)	108
旅館		54	11	8	35	0	(0)	54
全体		182	42	67	73	0	(3)	182
下段：(%)		100.0	23.1	36.8	40.1	0.0	(1.6)	100.0

注：新規開業は内数値のため、() となっている。

②施設の室数及び収容人数

今回の調査結果から得られた施設分類別の宿泊施設数、室数、収容人数は下表の通りである。

施設数では、登録ホテルが20施設、登録ホテルを除くホテルは108施設、旅館は54施設となっている。また、室数の合計は20,690室、収容人数の合計は28,466人で、昨年度調査時点より合計施設数では3施設の減少、部屋数では466室、収容人数では489人の増加となった。

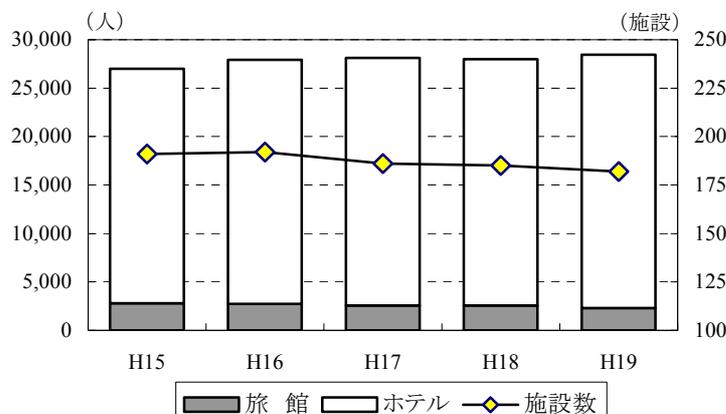
表 2-3-2 市内宿泊施設の規模別にみた室数及び収容人数（タイプ、規模別）

施設規模	室・人員 回答数 (施設)	和 室		洋 室		合 計		
		室数 (室)	収容人数 (人)	室数 (室)	収容人数 (人)	室数 (室)	収容人数 (人)	
登録ホテル	20	26	84	5,926	8,911	5,952	8,995	
ホテル (登録ホテル を除く)	100室以上	58	18	72	11,014	13,210	11,032	13,282
	50室以上100室未満	30	32	115	2,252	2,844	2,284	2,959
	50室未満	20	61	184	517	729	578	913
計	108	111	371	13,783	16,783	13,894	17,154	
旅館	54	742	2,161	102	156	844	2,317	
全 体	182	879	2,616	19,811	25,850	20,690	28,466	

表 2-3-3 市内宿泊施設の収容能力の推移

施設区分	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	室数	収容人数								
登録ホテル	6,034	9,085	6,032	9,082	6,028	9,044	5,974	8,963	5,952	8,995
ホテル	12,103	15,113	13,021	16,085	13,410	16,515	13,305	16,446	13,894	17,154
旅館	1,050	2,806	1,021	2,750	951	2,560	945	2,568	844	2,317
全 体	19,187	27,004	20,074	27,917	20,389	28,119	20,224	27,977	20,690	28,466
施設数	191		192		186		185		182	

図 2-3-1 市内ホテル・旅館収容人数及び施設数推移



(3) 宿泊客数

①年間宿泊者数

ア：宿泊者数

平成 19 年度の全施設の年間総延べ宿泊者数は約 638 万人泊であった。

タイプ別にみると、登録ホテルが約 203 万人泊、ホテル（登録ホテルを除く）が約 406 万人泊、旅館が約 29 万人泊である。

また、全施設の年間総実人数は約 485 万人となっており、一人あたりの宿泊日数は約 1.3 日と推計される。

外国人宿泊者については、年間総延べ宿泊者数は約 69 万人泊、実人数は約 38 万人である。実人数を参照すると宿泊者の 7.8%が外国人で構成されており、一人あたりの宿泊日数は約 1.8 日と推計される。

また、外国人宿泊者の宿泊日数を施設別にみると、ホテル（登録ホテルを除く）が宿泊者一人あたりの宿泊数 3.6 泊と最も多く、次いで、旅館が 2.8 泊、登録ホテルが 1.4 泊となっている。

表 2-3-4 年間宿泊者数（推計値）

		全施設の年間 総延べ宿泊者数	うち全施設の 年間外国人 総延べ宿泊者数	全施設の 年間総実人数	うち全施設の 年間外国人 総実人数
		(人泊)	(人泊)	(人)	(人)
登録ホテル		2,032,035	445,016	1,538,250	310,727
ホテル (登録ホテル を除く)	100 室以上	3,239,404	213,801	2,474,905	56,923
	50 室以上 100 室未満	694,307	13,192	574,192	4,594
	50 室未満	129,133	3,487	73,993	1,702
計		4,062,844	230,480	3,123,090	63,219
旅館		289,323	13,309	184,009	4,784
全 体		6,384,202	688,805	4,845,349	378,730

イ：宿泊者数の推移

宿泊者数の過去5年間の推移をみると、年間総実人数はこの5年間で最大の値に、年間総延べ宿泊者数は「愛・地球博」が開催された平成17年度が最大のもののそれに次ぐ値となっている。

年間定員稼働率については、平成17年度をピークとしていて、昨年度と比べほぼ横ばいである。

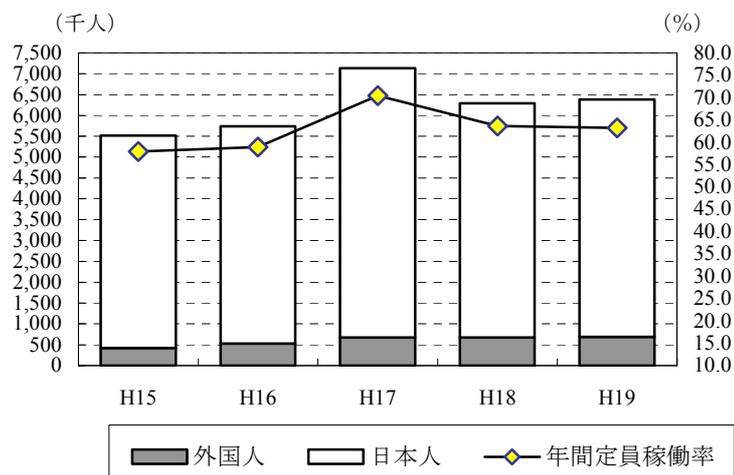
外国人宿泊者数については、総実人数、総延べ宿泊者数ともにこの5年間で最大の値となっている。

表 2-3-5 年間宿泊者数及び年間定員稼働率の推移（推計値）

区 分		年 度				
		平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
年間総実人数（人）		4,190,469	4,651,625	4,472,967	4,752,837	4,845,349
	うち外国人	244,861	333,857	272,539	286,704	378,730
年間総延べ宿泊者数（人泊）		5,514,738	5,738,330	7,135,833	6,288,947	6,384,202
	うち外国人	420,207	528,769	671,905	675,238	688,805
年間定員稼働率（％）		57.9	58.9	70.4	63.6	63.2

注：年間定員稼働率とは、定員に占める宿泊者数の割合を示す。客室稼働率とは異なる。
 年間定員稼働率＝年間延べ宿泊者数÷年間収容可能人数（表 2-3-6 参照）

図 2-3-2 市内延べ宿泊者数の推移



推計方法

宿泊者数の推計にあたっては、各施設から得られた回答結果を最大限に活かし、推計に必要な回答が得られている施設（回答あり施設）の内容をもとに、稼働率や比率などの算定基準となる数値を推計し、全施設の推計値を算出した。

また、年間の収容可能人数（最大収容容量）は、各施設の一日あたりの収容可能人数に、その施設の平成19年度の営業日数（通年営業施設は366日）を乗じて算出した。

なお、計や全体は、施設分類別推計値や規模別推計値の積み上げ値とした。

a. 全施設の年間総延べ宿泊者数（推計値）

ア：回答あり施設の年間延べ宿泊者数（実績値）及び年間定員稼働率

年間定員稼働率は、回答あり施設を対象として63.2%の値を得た。区分別にみると、ホテル及び登録ホテルでは6～7割であるが、旅館では34.1%とホテルより低い値となった。

なお、ここでの稼働率は、年間収容可能人数に対する宿泊者数であり、客室稼働率とは異なる。

表 2-3-6 回答あり施設の年間延べ宿泊者数の実績値及び年間定員稼働率

		回答数 (施設)	① 年間延べ 宿泊者数 (人泊)	② 回答あり施設 の1日収容可 能人数 (人)	③ 回答あり施設 の年間収容 可能人数 (人)	④ 年間定員 稼働率 (%)
登録ホテル		18	1,994,549	8,829	3,231,414	61.7
ホテル (登録ホテル を除く)	100室以上	42	2,455,681	10,133	3,611,202	68.0
	50室以上 100室未満	21	507,213	2,164	789,174	64.3
	50室未満	9	63,232	456	160,552	39.4
計		72	3,026,126	12,753	4,560,928	66.3
旅館		19	110,102	881	322,446	34.1
全 体		109	5,130,777	22,463	8,114,788	63.2

注：③＝②×366日（年度内の開館、閉館施設や休業分は営業日数に準じて算出）

④＝①÷③

イ：回答なし施設の年間延べ宿泊者数

回答なし施設の年間延べ宿泊者数については、回答なし施設の年間収容可能人数に、回答あり施設で求めた施設分類別・規模別の稼働率を乗じて推計値（1,253,425人泊）を算出した。

表 2-3-7 回答なし施設の年間延べ宿泊者数の推計値

		回答数 (施設)	① 回答なし施設の1日収容 可能人数 (人)	② 回答なし施設の年間収容 可能人数 (人)	③ 回答あり施設 で求めた 稼働率 (%)	④ 回答なし施設の年間延べ 宿泊者数の推計値 (人泊)
登録ホテル		2	166	60,756	61.7	37,486
ホテル (登録ホテル を除く)	100室以上	16	3,149	1,152,534	68.0	783,723
	50室以上100室未満	9	795	290,970	64.3	187,094
	50室未満	11	457	167,262	39.4	65,901
計		36	4,401	1,610,766		1,036,718
旅館		35	1,436	525,576	34.1	179,221
全 体		73	6,003	2,197,098		1,253,425

注：②＝①×366日（年度内の開館、閉館施設や休業分は営業日数に準じて算出）

$$④＝②×③$$

年間延べ宿泊者数の推計値の計及び全体は内訳を積み上げた数値

ウ：全施設の年間総延べ宿泊者数

全施設の年間総延べ宿泊者数は、前出のアの項で算出した回答あり施設の年間延べ宿泊者数の実績値に、イの項で算出した回答なし施設の年間延べ宿泊者数の推計値を加算して求めた（6,384,202人泊）。

表 2-3-8 全施設の年間総延べ宿泊者数の推計値

		①回答あり施設		②回答なし施設		③全施設	
		回答数 (施設)	年間延べ 宿泊者数 (人泊)	回答数 (施設)	年間延べ 宿泊者数 (人泊)	回答数 (施設)	年間総延べ 宿泊者数 (人泊)
登録ホテル		18	1,994,549	2	37,486	20	2,032,035
ホテル (登録ホテル を除く)	100室以上	42	2,455,681	16	783,723	58	3,239,404
	50室以上100室未満	21	507,213	9	187,094	30	694,307
	50室未満	9	63,232	11	65,901	20	129,133
計		72	3,026,126	36	1,036,718	108	4,062,844
旅館		19	110,102	35	179,221	54	289,323
全 体		109	5,130,777	73	1,253,425	182	6,384,202

注：③＝①＋②

b. 全施設の年間総実人数（推計値）

全施設の年間総実人数の推計値は、年間の延べ宿泊者数及び実人数ともに回答が得られた施設をもとに、延べ宿泊者数に対する実人数の割合を求め、実人数比率とし、その数値を前出 a のウ（表 2-3-8）で求めた全施設の年間総延べ宿泊者数の推計値に乗じて算出した（4,845,349 人）。

表 2-3-9 全施設の年間総実人数の推計値

		回答数	①	②	③	④	⑤
		(施設)	回答あり 施設の年間 実人数 (人)	回答あり 施設の年間 延べ宿泊者数 (人泊)	回答あり 施設の 実人数比率 (%)	全施設の 年間総延べ 宿泊者数 推計値 (人泊)	全施設の年間 総実人数 推計値 (人)
登録ホテル		12	1,144,356	1,512,660	75.7	2,032,035	1,538,250
ホテル (登録ホテル を除く)	100 室以上	11	416,808	545,731	76.4	3,239,404	2,474,905
	50 室以上 100 室未満	3	56,294	68,107	82.7	694,307	574,192
	50 室未満	5	27,639	48,263	57.3	129,133	73,993
計		19	500,741	662,101		4,062,844	3,123,090
旅館		11	38,532	60,625	63.6	289,323	184,009
全 体		42	1,683,629	2,235,386		6,384,202	4,845,349

注：③＝①÷②

⑤＝④×③

全施設の年間総実人数の推計値の計及び全体は内訳を積み上げた数値

c. 全施設の年間外国人の宿泊者数（推計値）

外国人の宿泊者数については、外国人及び外国人を含めた宿泊者数ともに回答が得られた施設をもとに割合を求め、全施設の宿泊者数の推計値に乗じて算出した。

ア：全施設の年間外国人総延べ宿泊者数（推計値）

全施設の年間外国人総延べ宿泊者数の推計値については、年間の延べ宿泊者数及び外国人延べ宿泊者数ともに回答が得られた施設をもとに、延べ宿泊者数に対する外国人延べ宿泊者数の割合を求め、外国人延べ宿泊者数比率とし、その数値を前出 a のウ（表 2-3-8）で求めた全施設の年間総延べ宿泊者数の推計値に乗じて算出した。

表 2-3-10 全施設の年間外国人総延べ宿泊者数の推計値

		①	②	③	④	⑤	
回答数		回答あり 施設の年間 外国人延べ 宿泊者数	回答あり 施設の 年間延べ 宿泊者数	回答あり 施設の 外国人延べ 宿泊者数 比率	全施設の 年間総延べ 宿泊者数 推計値	全施設の 年間外国人 総延べ宿泊 者数推計値	
(施設)		(人泊)	(人泊)	(%)	(人泊)	(人泊)	
登録ホテル		18	436,160	1,994,549	21.9	2,032,035	445,016
ホテル (登録ホテル を除く)	100室以上	31	116,895	1,768,100	6.6	3,239,404	213,801
	50室以上 100室未満	12	5,013	268,768	1.9	694,307	13,192
	50室未満	7	1,551	57,810	2.7	129,133	3,487
計		50	123,459	2,094,678		4,062,844	230,480
旅館		15	4,026	87,454	4.6	289,323	13,309
全 体		83	563,645	4,176,681		6,384,202	688,805

注：③＝①÷②

⑤＝④×③

全施設の年間外国人総延べ宿泊者数の推計値の計及び全体は内訳を積み上げた数値

イ：全施設の年間外国人総実人数（推計値）

全施設の年間外国人総実人数の推計値については、年間の実人数及び外国人実人数ともに回答が得られた施設をもとに、実人数に対する外国人実人数の割合を求め、外国人実人数比率とし、その数値を前出bで求めた全施設の年間総実人数の推計値（表 2-3-9）に乗じて算出した。

表 2-3-11 全施設の年間外国人総実人数の推計値

		①	②	③	④	⑤	
回答数		回答あり 施設の年間 外国人 実人数	回答あり 施設の年間 実人数	回答あり 施設の 外国人 実人数比率	全施設の 年間 総実人数 推計値	全施設の 年間外国人 総実人数 推計値	
(施設)		(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	
登録ホテル		12	231,009	1,144,356	20.2	1,538,250	310,727
ホテル (登録ホテル を除く)	100室以上	11	9,480	416,808	2.3	2,474,905	56,923
	50室以上 100室未満	3	477	56,294	0.8	574,192	4,594
	50室未満	5	627	27,639	2.3	73,993	1,702
計		19	10,584	500,741		3,123,090	63,219
旅館		10	1,003	38,352	2.6	184,009	4,784
全 体		41	242,596	1,683,449		4,845,349	378,730

注：③＝①÷②

⑤＝④×③

全施設の年間外国人総実人数の推計値の計及び全体は内訳を積み上げた数値

②国別外国人宿泊数

国別に外国人宿泊者数の回答が得られた施設は 85 施設で、そのうち外国人の宿泊があった施設は 76 施設であり、その割合は 89.4%であった。なお、外国人の宿泊が無かったのは、旅館が 6 施設、ホテル（登録ホテルを除く）が 3 施設であった。

国別の外国人宿泊者数をみると、台湾が全体の 30.5%（85,535 人）と最も多く、次いで米国が 23.3%（65,377 人）となっている。以下、韓国 16.3%（45,804 人）、中国 15.4%（43,223 人）、オーストラリア 3.4%（9,630 人）、香港 3.2%（9,099 人）、ドイツ 2.3%（6,436 人）と続いている。

施設分類別にみると、登録ホテルでは台湾と米国が、ホテル（登録ホテルを除く）では台湾と中国が多くなっている。

表 2-3-12 国別、外国人宿泊者数

	登録ホテル	ホテル（登録ホテルを除く）				旅館	全 体	
		100室以上	50室以上 100室未満	50室未満	計		人数（人）	割合（%）
回答数（施設）	18	31	14	7	52	15	85	
中国	27,747	13,286	1,868	160	15,314	162	43,223	15.4
香港	8,180	852	32	-	884	35	9,099	3.2
台湾	65,438	19,482	276	82	19,840	257	85,535	30.5
米国	60,487	3,441	1,107	38	4,586	304	65,377	23.3
韓国	36,267	8,220	637	157	9,014	523	45,804	16.3
オーストラリア	3,879	5,340	180	20	5,540	211	9,630	3.4
ドイツ	5,690	567	33	25	625	121	6,436	2.3
英国	3,062	563	129	2	694	159	3,915	1.4
フランス	2,389	778	158	5	941	57	3,387	1.2
カナダ	2,132	674	25	5	704	137	2,973	1.1
タイ	2,489	63	10	-	73	-	2,562	0.9
シンガポール	2,069	8	-	2	10	-	2,079	0.7
ジャマイカ	-	-	228	-	228	-	228	0.1
ブラジル	150	10	19	4	33	4	187	0.1
マレーシア	77	102	4	-	106	-	183	0.1
フィリピン	-	1	84	-	85	25	110	0.0
スペイン	-	9	7	-	16	71	87	0.0
オランダ	-	3	-	-	3	68	71	0.0
スウェーデン	-	-	27	-	27	18	45	0.0
ベトナム	-	40	-	-	40	-	40	0.0
ロシア	-	4	26	-	30	7	37	0.0
イタリア	-	2	26	2	30	4	34	0.0
スイス	-	4	22	-	26	8	34	0.0
アイスランド	-	-	27	4	31	-	31	0.0
インドネシア	-	20	-	-	20	9	29	0.0
インド	-	6	3	4	13	15	28	0.0
ニュージーランド	-	7	-	-	7	20	27	0.0
フィンランド	-	7	-	-	7	5	12	0.0
ノルウェー	-	-	12	-	12	-	12	0.0
メキシコ	4	-	1	-	1	-	5	0.0
モンゴル	-	4	1	-	5	-	5	0.0
ポルトガル	-	-	1	-	1	4	5	0.0
ベルギー	-	-	-	-	-	5	5	0.0
スリランカ	-	-	4	-	4	-	4	0.0
ルーマニア	-	-	-	-	-	4	4	0.0
サウジアラビア	-	3	-	-	3	-	3	0.0
ポーランド	-	-	-	-	-	2	2	0.0
パラグアイ	-	1	-	-	1	-	1	0.0
合 計	220,060	53,497	4,947	510	58,954	2,235	281,249	100.0

③修学旅行団体の受入状況

ア：修学旅行学校数及び宿泊者数

平成 19 年度に修学旅行を受け入れた宿泊施設は 12 施設（対有効回答 182 施設比 6.6%）で、昨年度より 2 施設増加している。学校数は 59 校、宿泊者数は 5,165 人であり、昨年度（73 校、5,969 人）に比べ、学校数は 14 校減少し、宿泊者数は 804 人減少している。

学校分類別では、その他が昨年度に比べ学校数は 14 校、宿泊者数は 2,101 人減少している。

表 2-3-13 修学旅行団体の受入実績

		修学旅行 受入施設数 (施設)	① 学校数 (校)	② 宿泊者数 (人)	③ 1校あたり修学 旅行宿泊者数 (人)
登録ホテル		4	22	2,634	120
ホテル (登録ホテ ルを除く)	100 室以上	3	7	1,278	183
	50 室以上 100 室未満	1	1	25	25
	50 室未満	0	0	0	0
	計	4	8	1,303	163
旅 館		4	29	1,228	42
全 体		12	59	5,165	88

注：③=②÷①

表 2-3-14 修学旅行団体の受入実績（年度推移）

年度 区分	15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度	
	学校数	宿泊者数	学校数	宿泊者数	学校数	宿泊者数	学校数	宿泊者数	学校数	宿泊者数
小学校	27	1,294	21	1,096	41	2,072	26	1,464	25	1,411
中学校	5	353	7	595	36	3,733	6	371	9	696
高 校	11	639	4	303	31	2,886	16	1,028	14	2,053
その他	15	1,936	16	2,874	27	3,165	25	3,106	11	1,005
全 体	58	4,222	48	4,868	135	11,856	73	5,969	59	5,165

イ：地域別の受入学校数

下表は、修学旅行団体の受入学校数を地域別・学校分類別に整理したものである。

合計では 59 校中 19 校 (32.2%) が近畿地域からの修学旅行団体であり、次いで東海・北陸地域 (17 校、28.8%)、関東・甲信越地域 (10 校、16.9%) の順となった。昨年度と比較すると、関東・甲信越地域が 9 校、近畿地域が 6 校、東海・北陸地域が 4 校、北海道・東北地域が 1 校それぞれ減少し、中国・四国地域が 2 校、九州・沖縄地域が 1 校それぞれ増加している。また、中国からが 3 校となっている。

学校分類別では、小学校 (25 校、42.4%) が最も多く、次いで高校 (14 校、23.7%となっている。以下、その他 (11 校、18.6%)、中学校 (9 校、15.3%) となっている。

表 2-3-15 施設別、地域別修学旅行団体受入状況

施設区分	回答状況	地域 (施設)	計 (校)	小学校 (校)	中学校 (校)	高校 (校)	その他 (校)
登録ホテル		北海道・東北	2			2	
		関東・甲信越	5	1	1		3
		東海・北陸	7		3	3	1
		近畿	3	2			1
		中国・四国	1			1	
		九州・沖縄	4			4	
		中国・台湾・韓国	0				
ホテル(登録ホテルを含まず)		北海道・東北	0				
		関東・甲信越	2			1	1
		東海・北陸	2	1			1
		近畿	0				
		中国・四国	1			1	
		九州・沖縄	0				
		中国・台湾・韓国	3	1	2		
旅館		北海道・東北	0				
		関東・甲信越	3	1			2
		東海・北陸	8	3	2	1	2
		近畿	16	16			
		中国・四国	2		1	1	
		九州・沖縄	0				
		中国・台湾・韓国	0				
全体		北海道・東北	2	0	0	2	0
		関東・甲信越	10	2	1	1	6
		東海・北陸	17	4	5	4	4
		近畿	19	18	0	0	1
		中国・四国	4	0	1	3	0
		九州・沖縄	4	0	0	4	0
		中国・台湾・韓国	3	1	2	0	0
	計	59	25	9	14	11	

表 2-3-16 地域別修学旅行団体受入状況

	小学校		中学校		高等学校		その他		計	
	校数	人員	校数	人員	校数	人員	校数	人員	校数	人員
北海道					1	145			1	145
青森県					1	290			1	290
秋田県										
岩手県										
山形県										
宮城県										
福島県										
東京都	1	45					4	708	5	753
神奈川県							1	33	1	33
千葉県	1	100	1	196			1	105	3	401
埼玉県										
群馬県										
栃木県										
茨城県										
新潟県					1	200			1	200
長野県										
山梨県										
愛知県										
岐阜県	1	10	3	373			1	64	5	447
三重県			1	14					1	14
静岡県	3	300	1	22			2	16	6	338
福井県					1	66	1	25	2	91
石川県										
富山県					3	359			3	359
滋賀県										
京都府	18	876							18	876
大阪府							1	54	1	54
奈良県										
和歌山県										
兵庫県										
鳥取県					1	238			1	238
島根県										
岡山県			1	11	1	53			2	64
広島県										
山口県										
香川県										
徳島県										
愛媛県										
高知県					1	40			1	40
福岡県					1	119			1	119
大分県					1	43			1	43
宮崎県										
熊本県										
佐賀県										
長崎県					2	500			2	500
鹿児島県										
沖縄県										
中国	1	80	2	80					3	160
合計	25	1,411	9	696	14	2,053	11	1,005	59	5,165

2-4 全国から見た名古屋の観光に関する評価 (名古屋の観光に対するインターネットアンケート結果)

(1) 調査の概要

① 調査目的

名古屋への訪問実績や観光資源の認知度、観光に対する評価など名古屋の観光実態を把握するため、インターネットを用いてアンケートを実施した。

② 調査対象

東海、東京圏、大阪圏、北陸・甲信越、東北・北海道、中国・四国、九州・沖縄に住む18～69歳の男女1,000名とした。

③ 調査日時等

平成20年7月12日(土)～13日(日)

④ サンプルング方法

国勢調査における都道府県人口割合と性・年齢別人口割合をもとに、各カテゴリーのサンプル数を求めた。(下表参照)。

インターネット調査の対象者

性・年齢 地域	男 性							女 性							合 計
	男性 計	19歳 以下	20歳 代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	60歳 以上	女性 計	19歳 以下	20歳 代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	60歳 以上	
東海	71	4	18	18	14	8	9	47	0	8	9	10	10	10	118
東京圏	157	5	26	15	32	38	41	182	4	16	34	37	47	44	339
大阪圏	71	2	10	8	11	23	17	94	3	4	11	13	35	28	165
北陸・甲信越	29	1	8	5	7	5	3	35	1	4	11	6	7	6	64
東北・北海道	61	2	14	16	10	14	5	55	1	15	16	14	5	4	116
中国・四国	55	1	8	12	6	17	11	33	3	11	7	9	2	1	88
九州・沖縄	56	1	7	32	10	4	2	54	3	30	16	1	3	1	110
合 計	500	16	91	106	90	109	88	500	15	88	104	90	109	94	1000

(2) 名古屋への訪問状況と観光資源の認知度等

① 名古屋への訪問状況

1) 過去5年間の名古屋への訪問回数

過去5年以内に名古屋を訪れたことがある割合は 44.4%である。訪問回数としては、「1回」が 20.0%と多く、以下「11回以上」(7.8%)、「2回」(7.5%)、「3～5回」(7.4%)と続いている。

性別にみると、男性の方が訪れた割合が高く、49.2%とほぼ半数を占める。

年齢別にみると、訪れた割合は 30歳代(47.6%)、40歳代(46.0%)が相対的に高い。

地域別にみると、「東海」では9割以上が訪れており、うち「11回以上」(52.5%)が過半数を占めている。次いで訪れた割合が高いのは、「北陸・甲信越」(53.1%)で、以下「大阪圏」(47.2%)、「東京圏」(40.5%)、「中国・四国」(35.1%)、「九州・沖縄」(26.3%)、「東北・北海道」(23.3%)となっている。訪問回数は、「東海」以外では「1回」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

図 2-4-1 過去5年間の名古屋への訪問回数

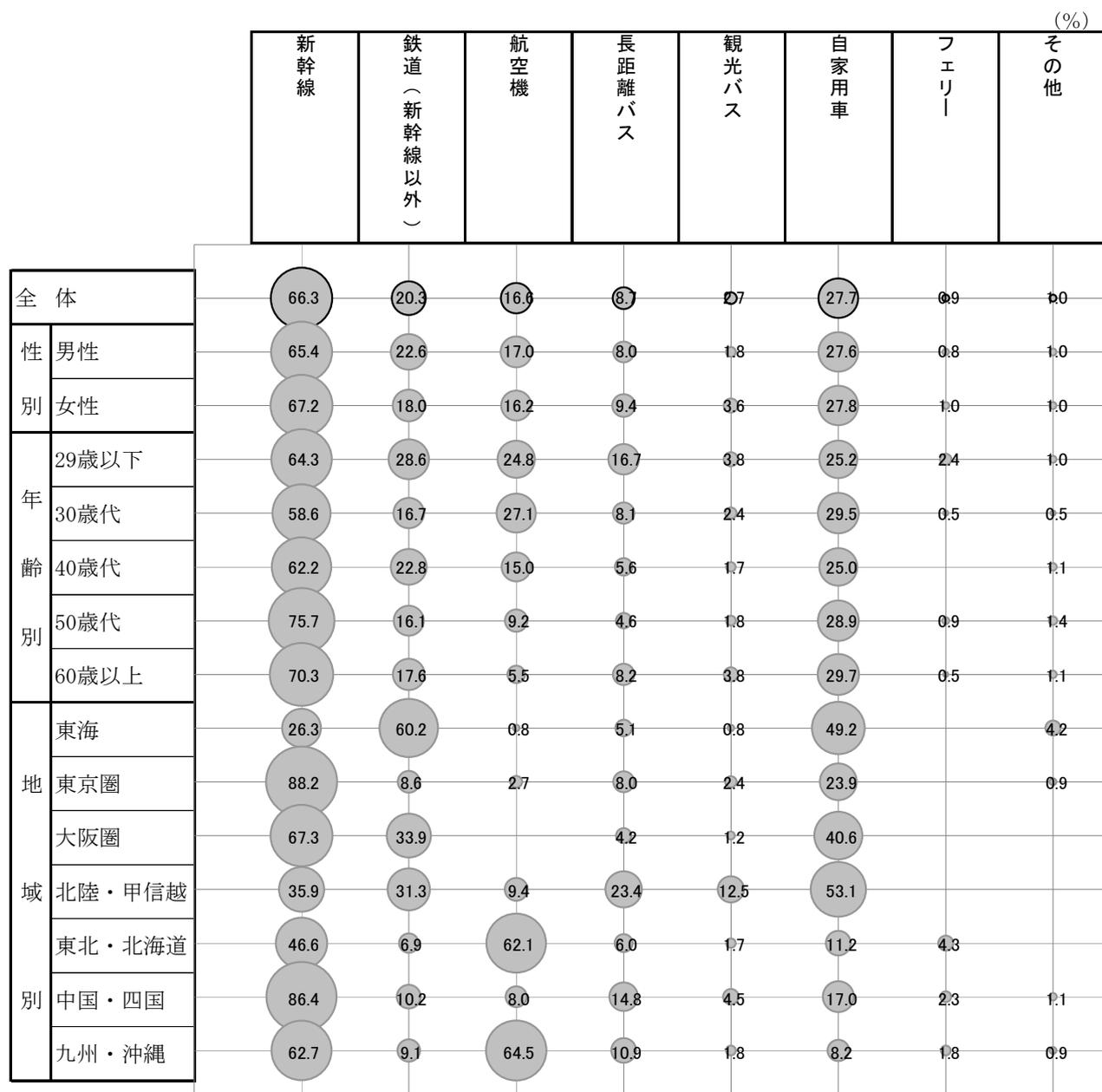


2) 名古屋への交通機関

名古屋を訪れる場合の交通機関は、「新幹線」が 66.3%と最も多く、次いで「自家用車」(27.7%)、「鉄道(新幹線以外)」(20.3%)、「航空機」(16.6%)となっている。

地域別にみると、「東海」では「鉄道(新幹線以外)」と「自家用車」の割合が高い。「東京圏」、「大阪圏」、「中国・四国」では「新幹線」、「北陸・甲信越」では「自家用車」、「東北・北海道」、「九州・沖縄」では「航空機」の割合がそれぞれ最も多くなっている。また、「北陸・甲信越」では他の地域と比べ「長距離バス」の割合が相対的に高い。

図 2-4-2 名古屋への交通機関(複数回答)



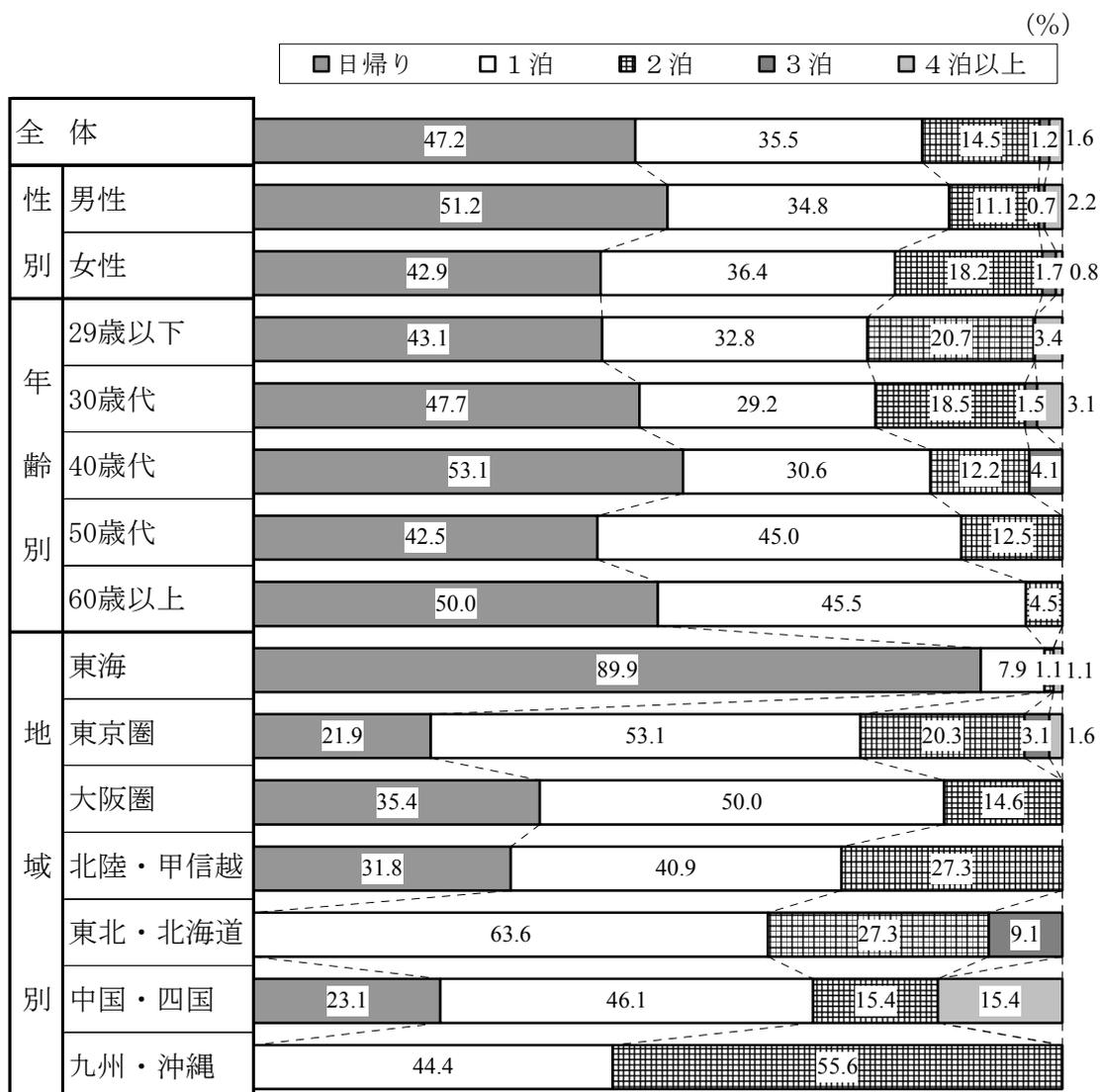
4) 名古屋への訪問日程

観光等が目的で名古屋を訪れた方（P58 図 2-4-3 で「観光施設の見学」「観劇・コンサート」「スポーツ観戦」「まつり・イベント」と回答した方 256 人）の直近の訪問日程としては、「日帰り」が 47.2% とほぼ半数を占め、「1泊」が 35.5%、「2泊」が 14.5% となっている。

「日帰り」の割合は、男性や 40 歳代が多い。

地域別にみると、「東海」では「日帰り」が 9 割を占めている。一方、「東北・北海道」、「九州・沖縄」では全員が、「東京圏」、「中国・四国」では 7~8 割の方が宿泊している。

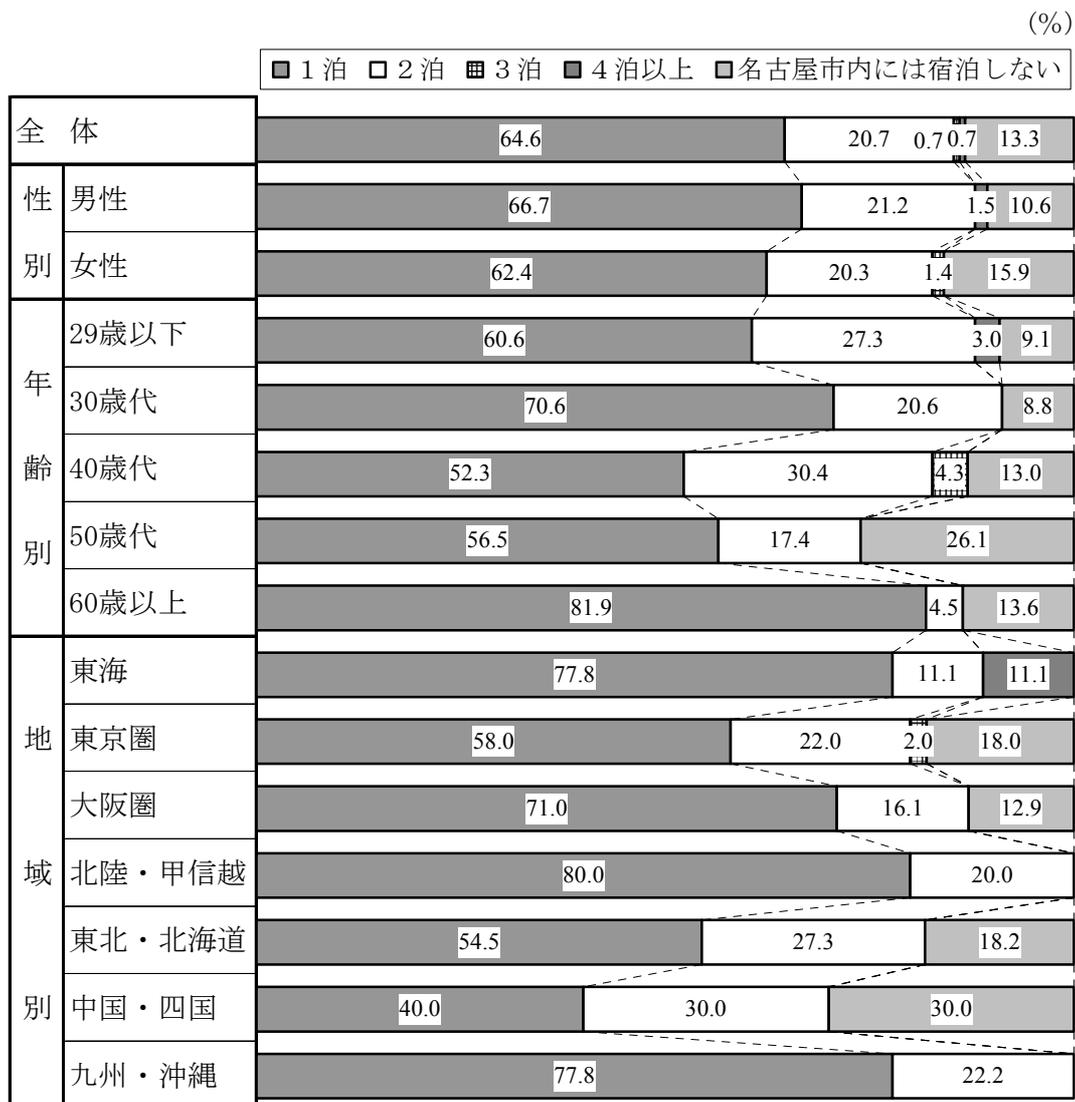
図 2-4-4 名古屋への訪問日程



5) 名古屋市内的の宿泊数

観光等が目的で名古屋を訪れた方(256人)のうち、1泊以上の日程で名古屋を訪れた方(135人)の名古屋市内での宿泊数は、「1泊」が64.6%と最も多く、次いで「2泊」(20.7%)、「名古屋市内には宿泊しない」(13.3%)となっている。

図 2-4-5 名古屋市内での宿泊数



6) 名古屋への旅行形態

観光等が目的で名古屋を訪れた方（256人）の直近の訪問は、「友人・知人」が29.3%と最も多く、次いで「ひとり（同行者なし）」と「夫婦のみ」が各々21.1%となっている。また、「幼児や小学生連れの家族」、「夫婦のみ」、「その他の家族連れ」の割合を合わせた家族連れが45.7%である。

性別にみると、男性では「友人・知人」（31.9%）や「ひとり（同行者なし）」（31.8%）の割合が、女性では「夫婦のみ」（27.4%）の割合が高くなっている。

年齢別にみると、40歳代以下では「友人・知人」の割合が最も高い。また、家族連れの割合は高年齢層ほど高くなっている。

地域別にみると、「東北・北海道」では「友人・知人」の割合が高い。一方、「東京圏」、「大阪圏」では家族連れが過半数を占めている。

図 2-4-6 名古屋への旅行形態



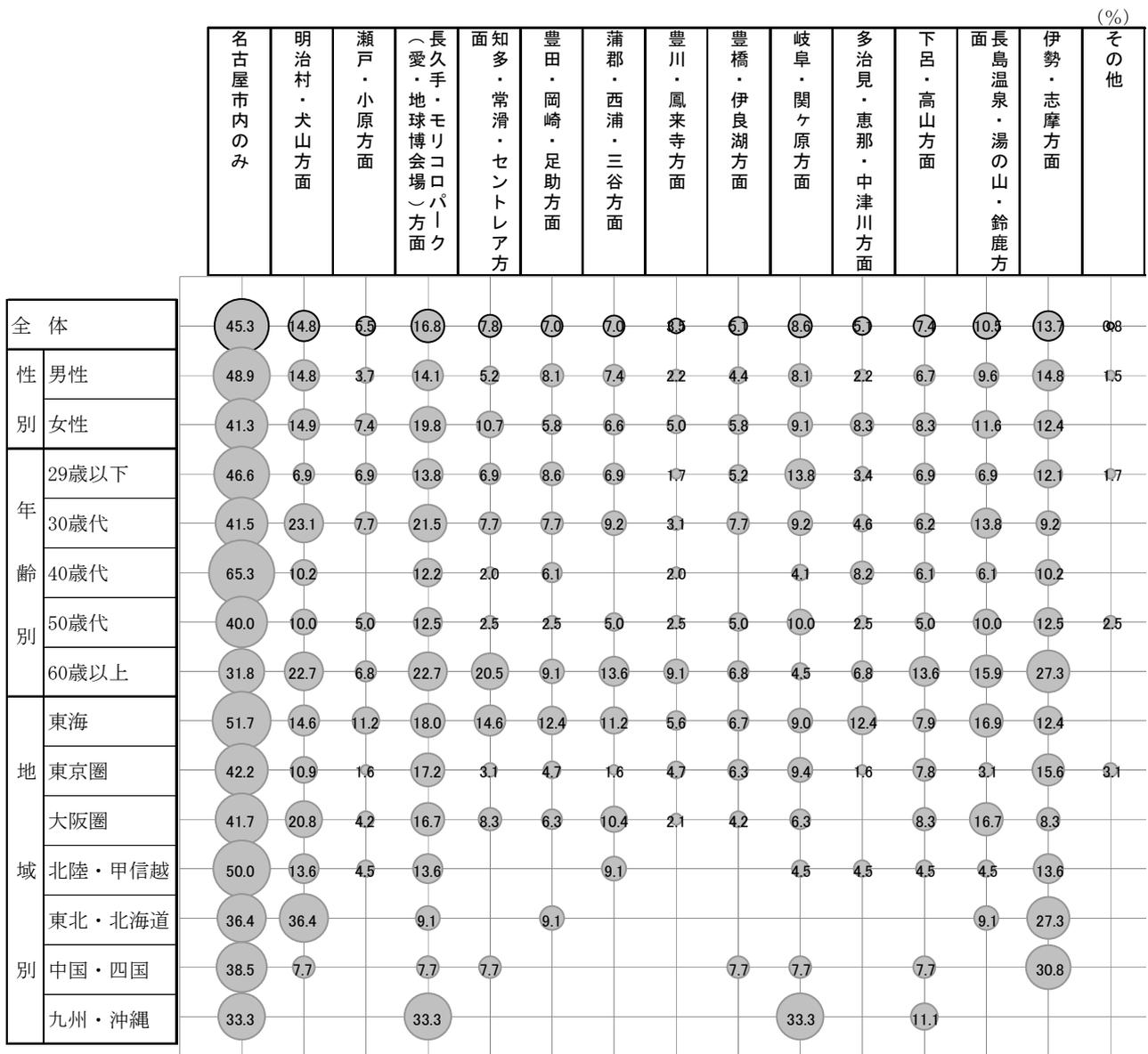
7) 名古屋市以外の訪問地

観光等が目的で名古屋を訪れた方(256人)が、「名古屋市以外にも訪問した」割合は54.7%であった。訪問地は、「長久手・モリコロパーク(愛・地球博会場)方面」(16.8%)が最も多く、以下「明治村・犬山方面」(14.8%)、「伊勢・志摩方面」(13.7%)、「長島温泉・湯の山・鈴鹿方面」(10.5%)と続いている。

「名古屋市以外にも訪問した」割合は、女性や50歳代以上で高く、60歳以上では「伊勢・志摩方面」(27.3%)、「明治村・犬山方面」(22.7%)、「長久手・モリコロパーク(愛・地球博会場)方面」(22.7%)、「知多・常滑・セントレア方面」(20.5%)などに比較的数量多く訪問している。

地域別にみると、「九州・沖縄」、「東北・北海道」、「中国・四国」など遠方からの訪問者の「名古屋市以外にも訪問した」割合が6~7割と高い。

図2-4-7 名古屋市以外の訪問地(複数回答)

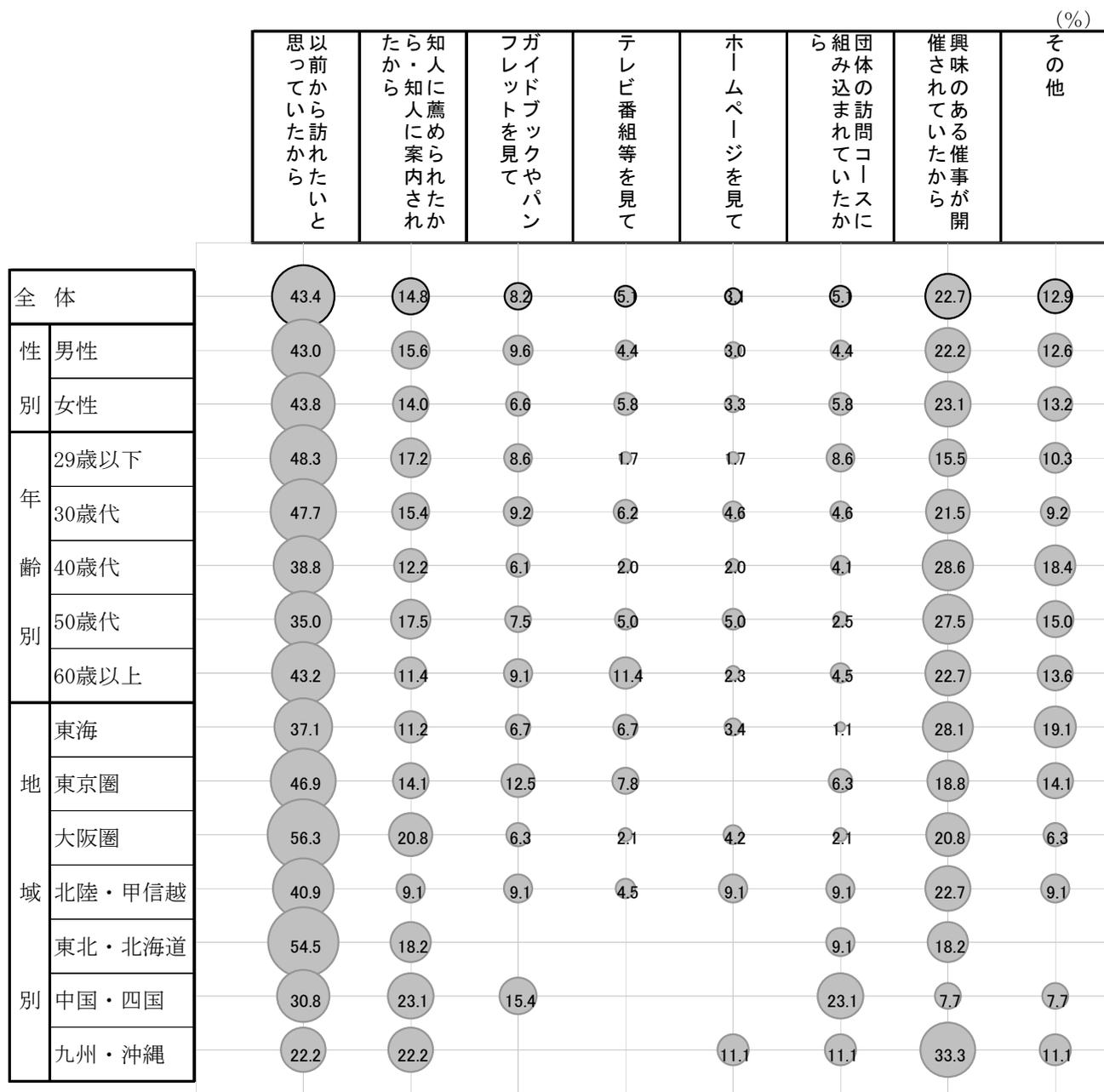


8) 名古屋への訪問のきっかけ

観光等が目的で名古屋を訪れた方(256人)のきっかけは、「以前から訪れたいと思っていたから」が43.4%で最も多く、次いで「興味のある催事が開催されていたから」(22.7%)、「知人に薦められたから・知人に案内されたから」(14.8%)となっている。

地域別にみると、「九州・沖縄」では「興味のある催事が開催されていたから」が最も多い。

図 2-4-8 名古屋への訪問のきっかけ(複数回答)



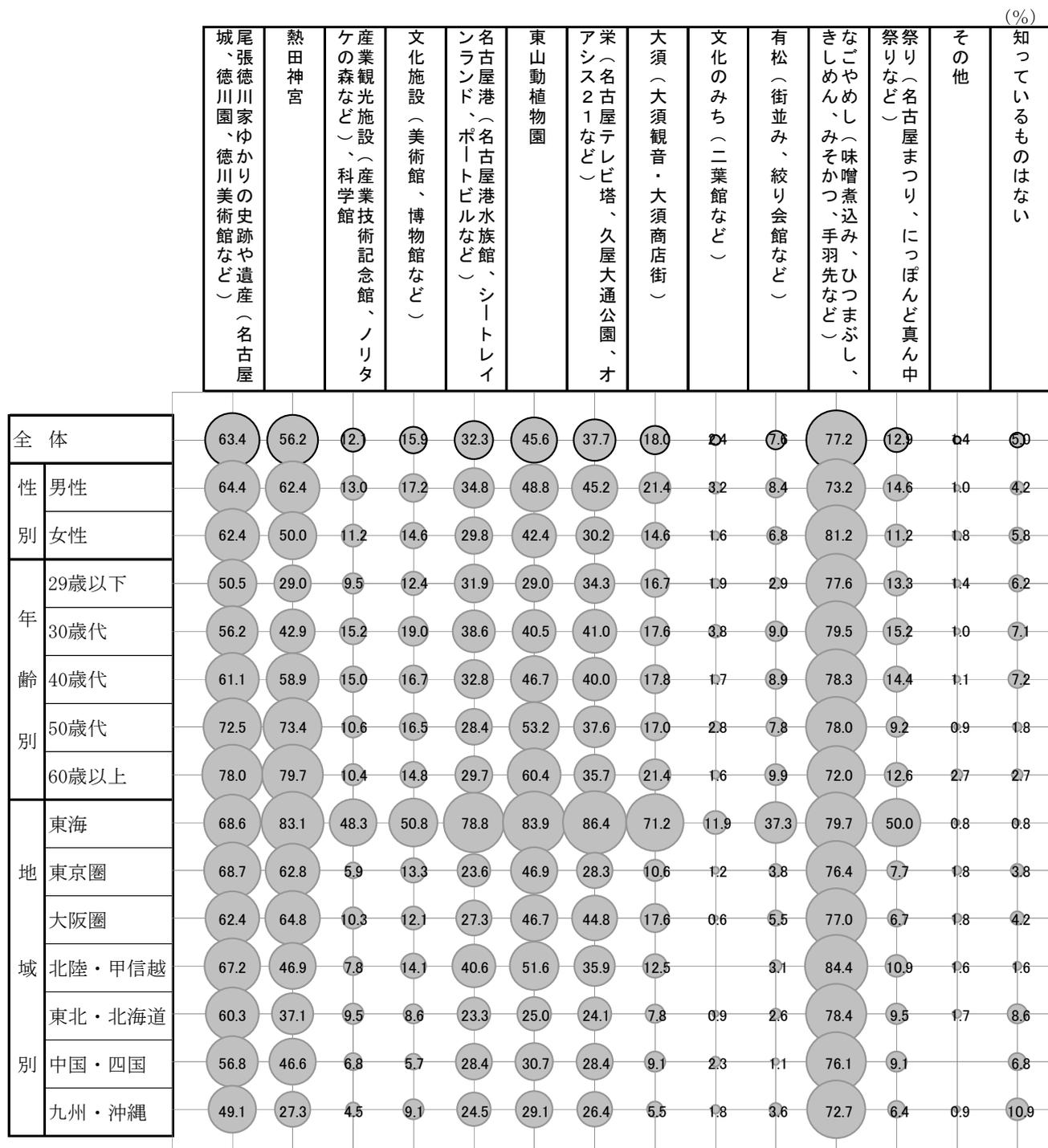
② 名古屋の観光資源の認知度と訪問・体験状況

1) 名古屋の観光資源の認知度

名古屋の観光資源の中で知っているものとしては、「なごやめし」(77.2%)が最も多い。「尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産」(63.4%)、「熱田神宮」(56.2%)の認知度も6割前後と高い。

60歳以上では「熱田神宮」や「尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産」、「東海」では「栄」や「東山動植物園」、「熱田神宮」の方が「なごやめし」の認知度を上回っている。

図 2-4-9 名古屋の観光資源の認知度（複数回答）

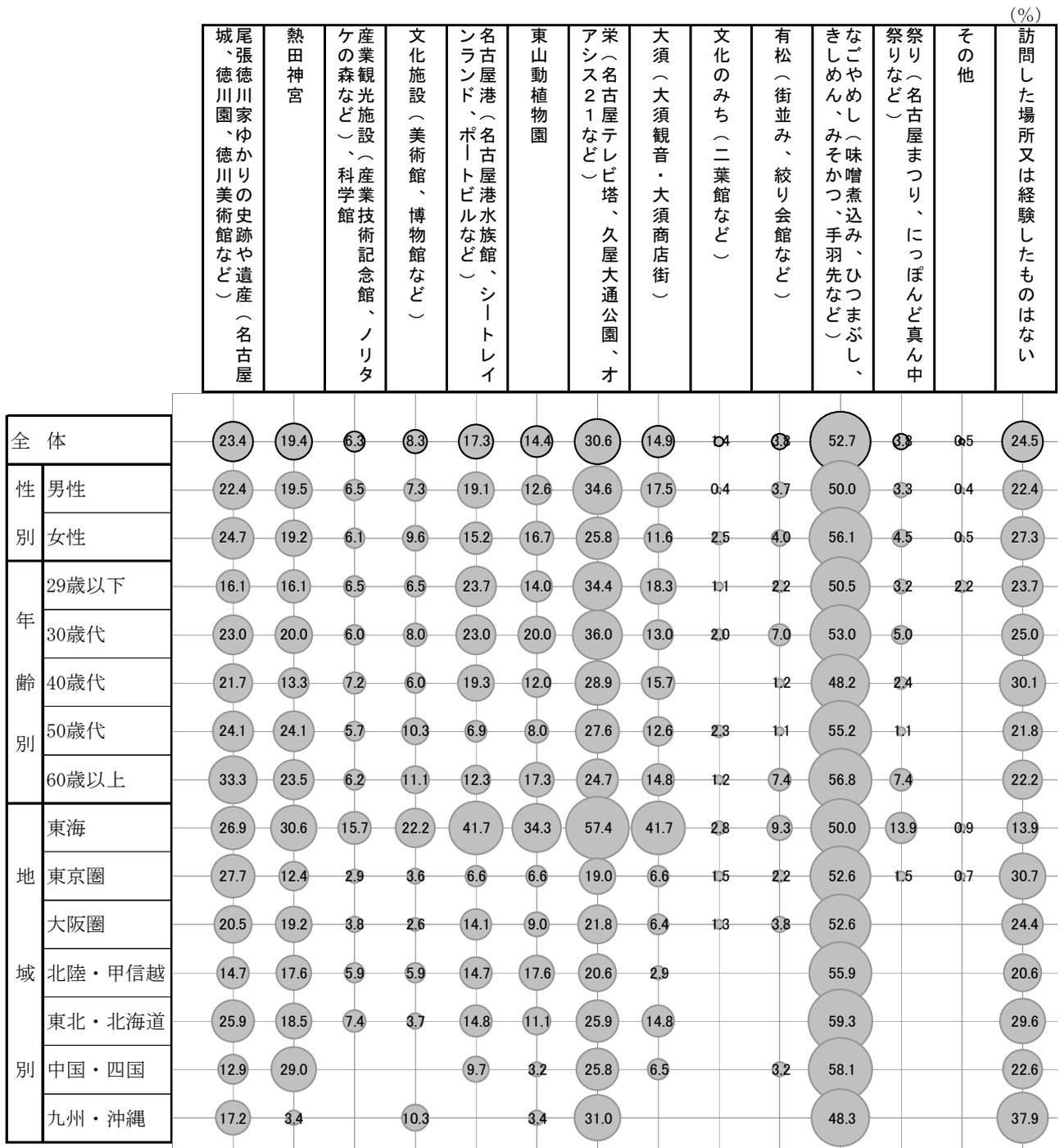


2) 名古屋の観光資源の訪問・体験状況

過去5年以内に名古屋を訪れた方(444人)が訪問した場所又は経験したものとしては、「なごやめし」(52.7%)は過半数が経験している。次いで「栄」(30.6%)、「尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産」(23.4%)、「熱田神宮」(19.4%)、「名古屋港」(17.3%)となっていて、「訪問した場所又は経験したものはなし」割合は24.5%である。

「東海」では「栄」(57.4%)が最も多く、そのほかの階層では「なごやめし」が最も多い。また、60歳以上では「尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産」が、「中国・四国」では「熱田神宮」がそれぞれ第2位となっている。

図 2-4-10 名古屋の観光資源の訪問・体験状況(複数回答)

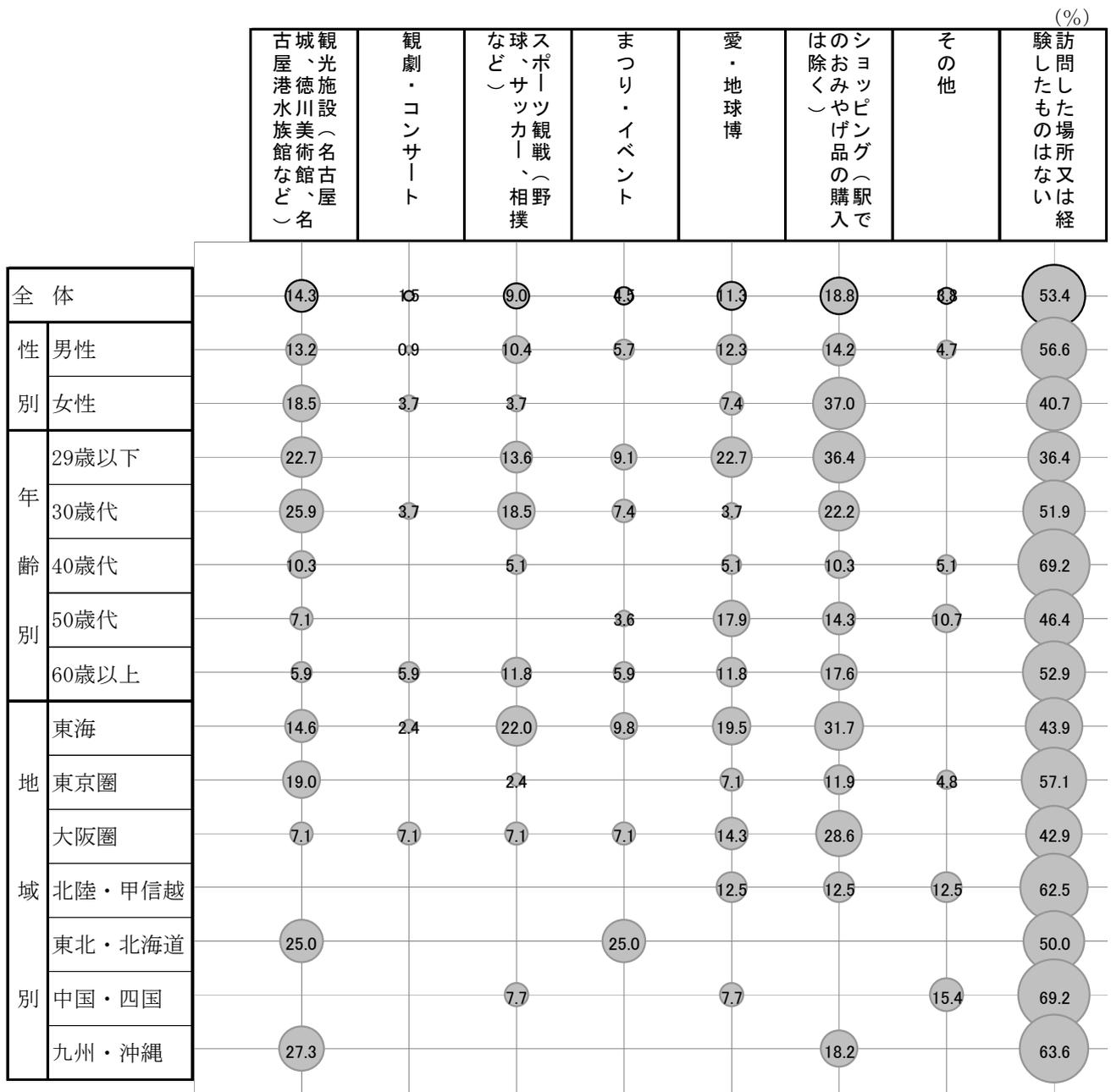


3) 仕事目的での訪問時における観光資源の訪問・体験状況

過去5年間以内に仕事目的で名古屋を訪れた方（133人）の直近の訪問で、そのときあわせて「訪問した場所又は経験したものがあある」割合は46.6%とほぼ半数である。訪問した場所又は経験したものとしては、「ショッピング（駅でのおみやげ品の購入は除く）」が18.8%、「観光施設」が14.3%、「愛・地球博」が11.3%、「スポーツ観戦」が9.0%となっている。

「訪問した場所又は経験したものがあある」割合は、女性や29歳以下、50歳代、「東海」、「大阪圏」では過半数を占めている。

図 2-4-11 仕事目的での訪問時における観光資源の訪問・体験状況（複数回答）



(3) 名古屋に対する評価

① 名古屋に対する印象

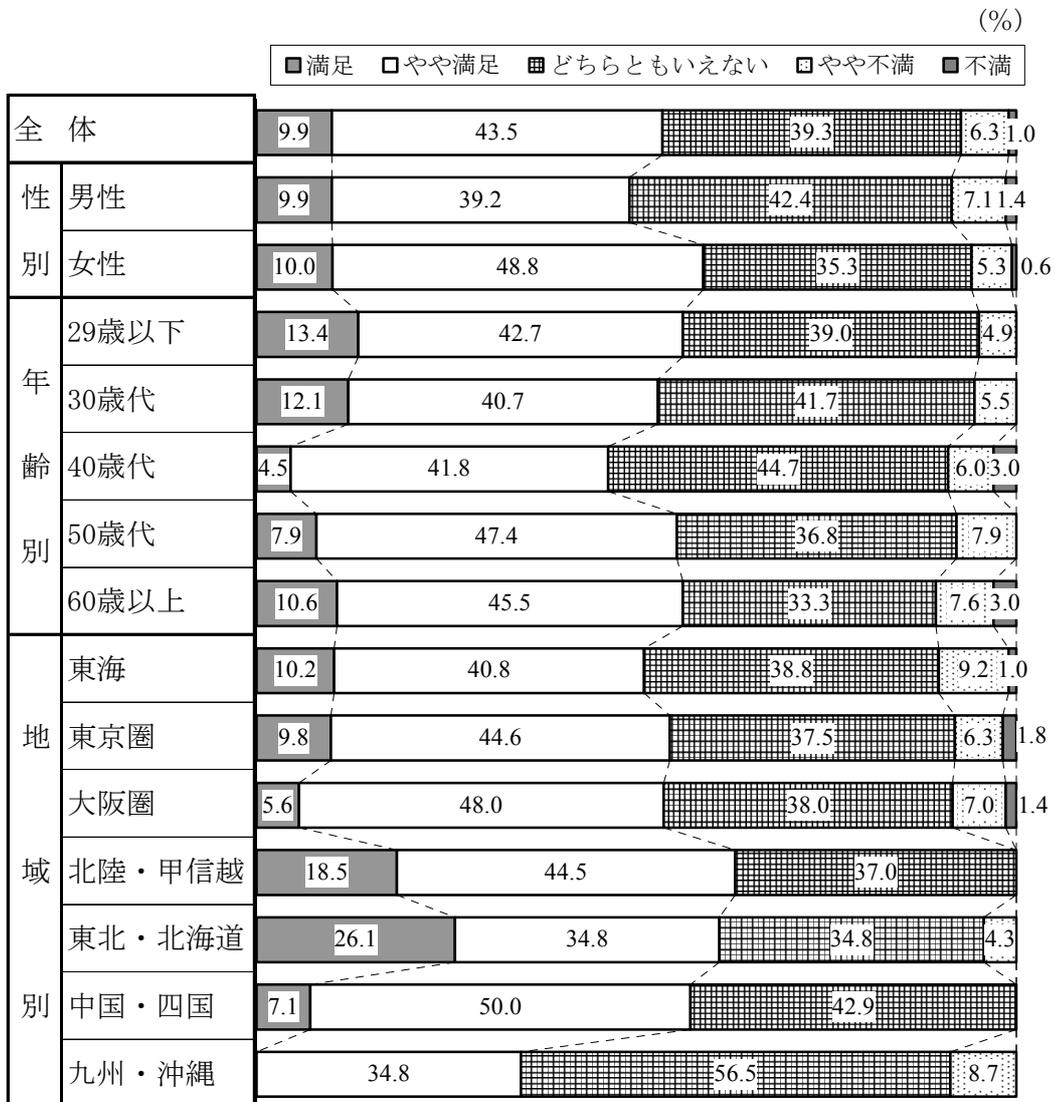
1) 観光施設等の評価

過去5年以内に名古屋を訪れた方(444人)の印象として観光施設等については、「満足」(9.9%)と「やや満足」(43.5%)を合わせ53.4%と半数強が満足と感じており、「やや不満」(6.3%)と「不満」(1.0%)を合わせ7.3%が不満と感じている。

「仕事」目的での訪問の割合が高い男性(P58 図2-4-3 参照)や40歳代では、満足度が相対的にやや低くなっている。

地域別にみると、「北陸・甲信越」、「東北・北海道」では満足と感じた人の割合が6割を超え、満足度は高い。一方、「九州・沖縄」では満足度は比較的低い。

図2-4-12 観光施設等の評価



2) 係員、店員の親切さ、親しみやすさの評価

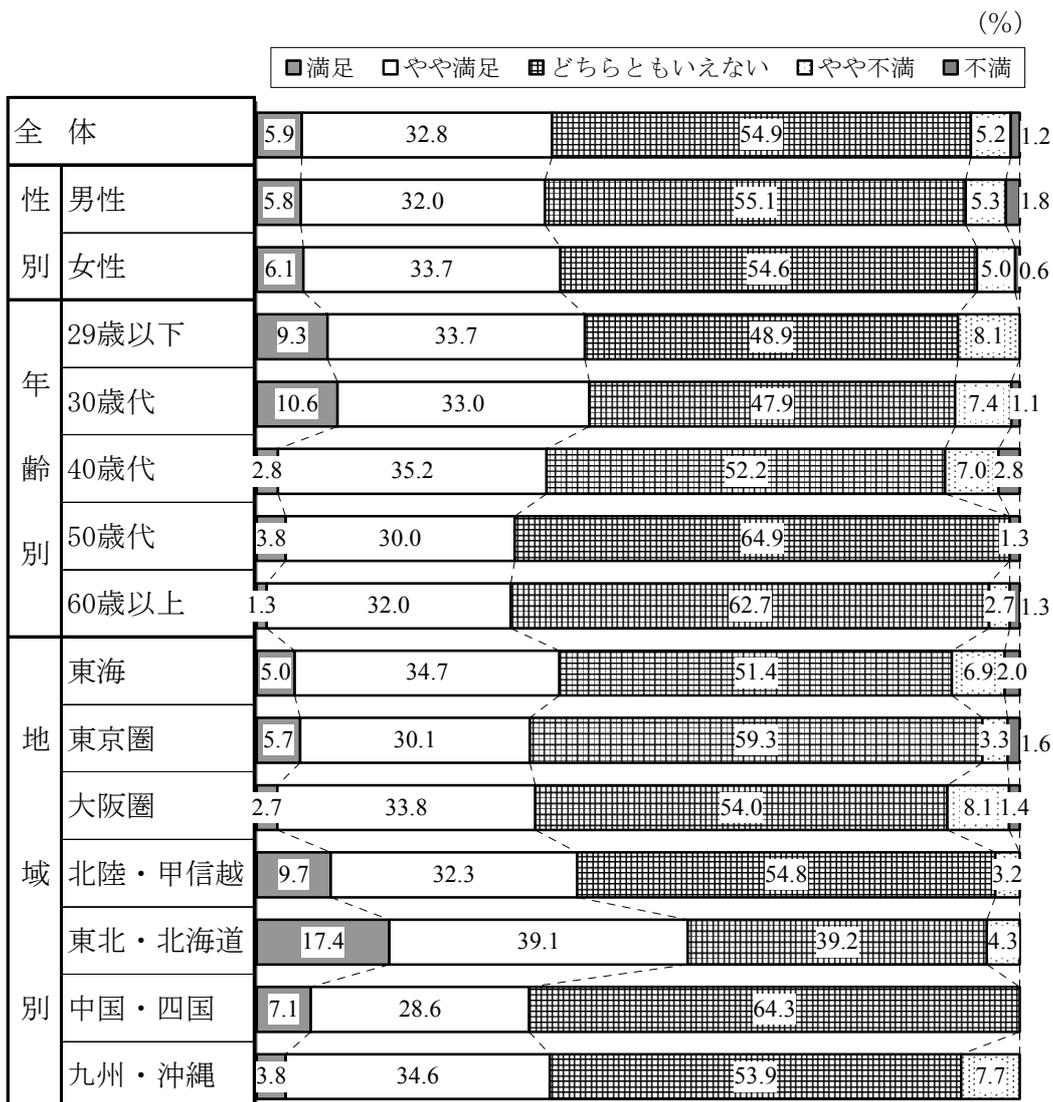
係員、店員の親切さ、親しみやすさについては、「満足」(5.9%)と「やや満足」(32.8%)を合わせ38.7%が満足と感じており、「やや不満」(5.2%)と「不満」(1.2%)を合わせ6.4%が不満と感じている。

性別による大きな差はみられない。

年齢別にみると、29歳以下と30歳代の若年層の方が満足と感じる割合が多くなっている。

地域別にみると、「東北・北海道」では満足度が高い。

図 2-4-13 係員、店員の親切さ、親しみやすさの評価

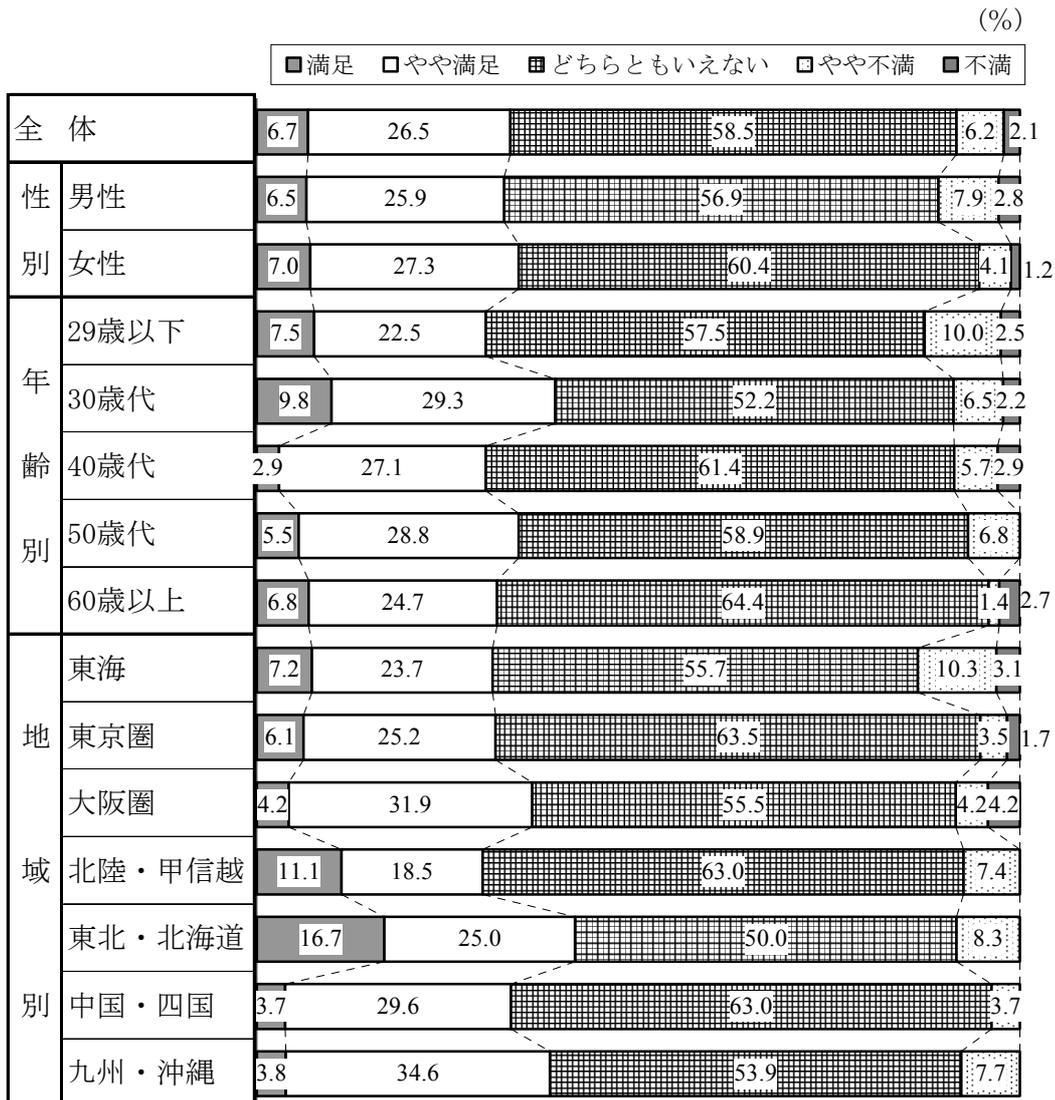


3) 市民の親切さ、親しみやすさの評価

市民の親切さ、親しみやすさについては、「満足」(6.7%)と「やや満足」(26.5%)を合わせ33.2%が満足と感じている。「どちらともいえない」が58.5%を占めており、「やや不満」(6.2%)と「不満」(2.1%)を合わせ8.3%が不満と感じている。

満足と感じた割合は、女性や30歳代、「東北・北海道」では相対的に高い。一方、不満と感じた割合は、29歳以下と「東海」では13%程度みられる。

図 2-4-14 市民の親切さ、親しみやすさの評価



4) おみやげ品の評価

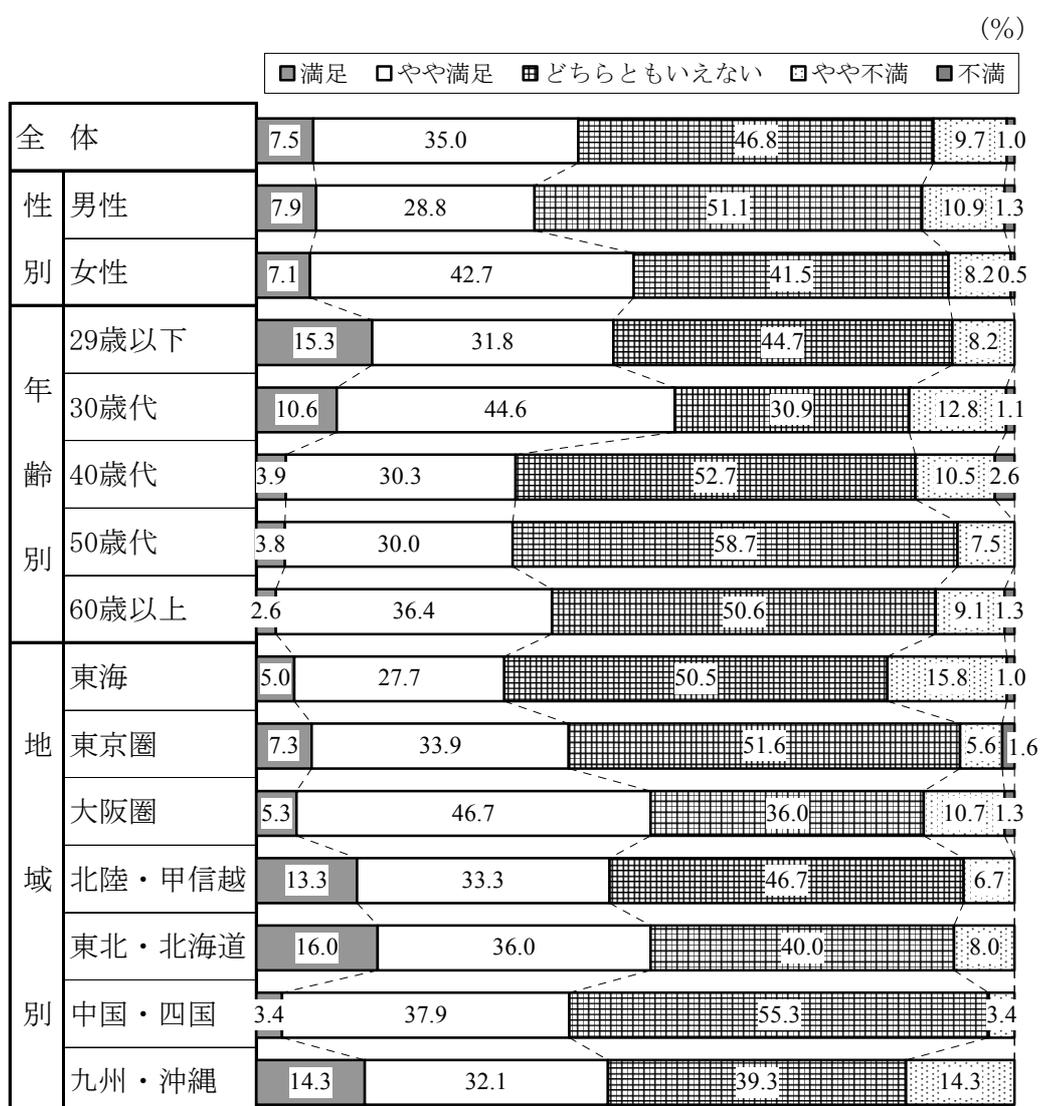
おみやげ品については、「満足」(7.5%)と「やや満足」(35.0%)を合わせ42.5%が満足と感じているものの、「やや不満」(9.7%)と「不満」(1.0%)を合わせて10.7%が不満と感
じている。

性別にみると、女性の方が満足度は高く、半数が満足と感じている。

年齢別にみると、30歳代では満足と感じた割合が過半数を占めているが、40歳代以上の中高年齢層では満足と感じた割合はそれぞれ3割台にとどまっている。

地域別にみると、満足と感じた割合は、「大阪圏」、「東北・北海道」では半数を超えているが、「東海」では比較的lowく、不満と感じた割合が16.8%みられる。

図 2-4-15 おみやげ品の評価



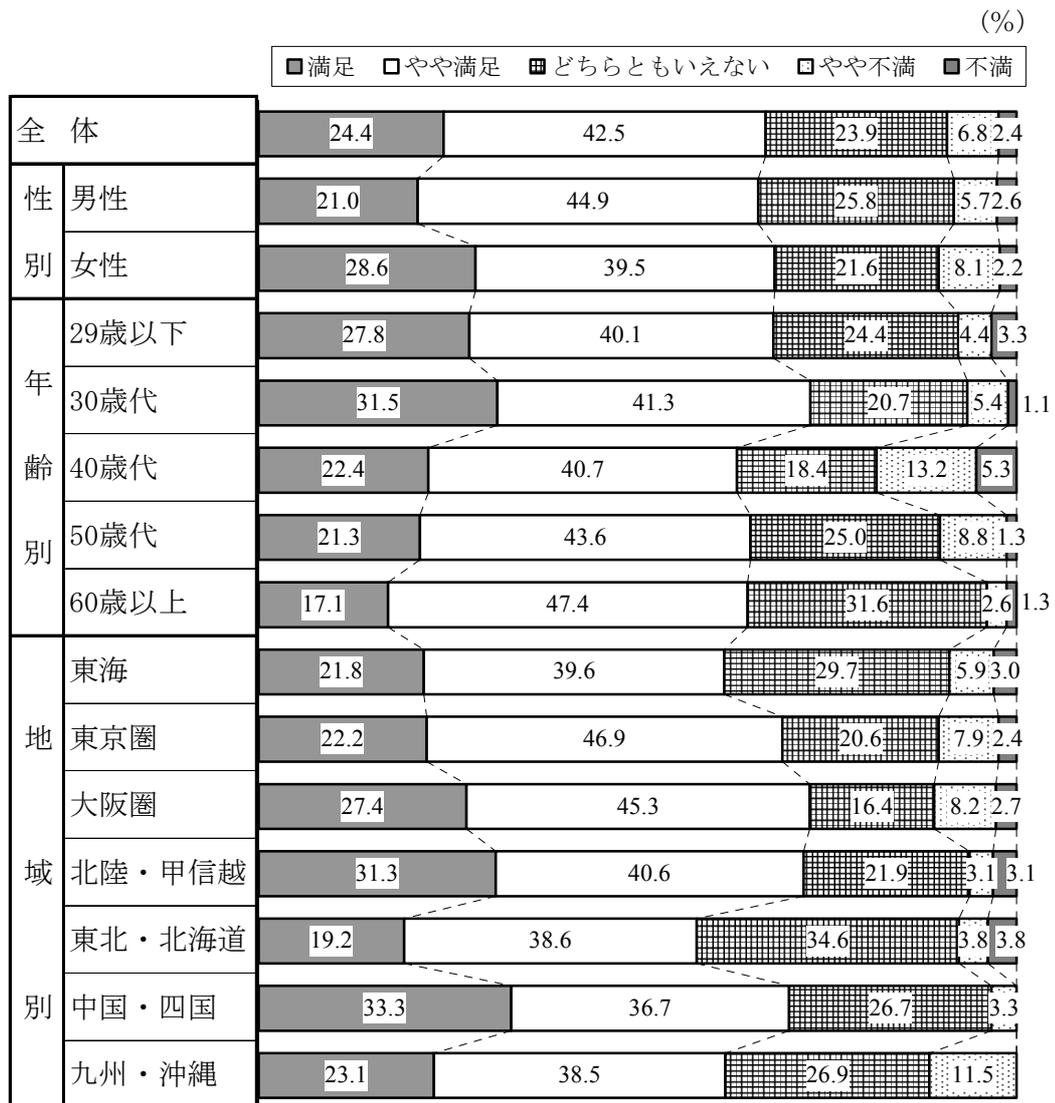
5) なごやめしなどの食事の評価

なごやめしなどの食事については、「満足」が24.4%で「やや満足」(42.5%)を合わせて66.9%と7割弱が満足と感じていて、かなり高い評価を得ている。一方、「やや不満」(6.8%)と「不満」(2.4%)を合わせ9.2%が不満と知っている。

各階層別にみても満足度は高く、特に30歳代や「大阪圏」、「北陸・甲信越」、「中国・四国」ではそれぞれ7割以上が満足と知っている。

不満と感じた割合は、40歳代で「やや不満」(13.2%)と「不満」(5.3%)を合わせて18.5%とほかの層に比べやや多い。

図 2-4-16 なごやめしなどの食事の評価



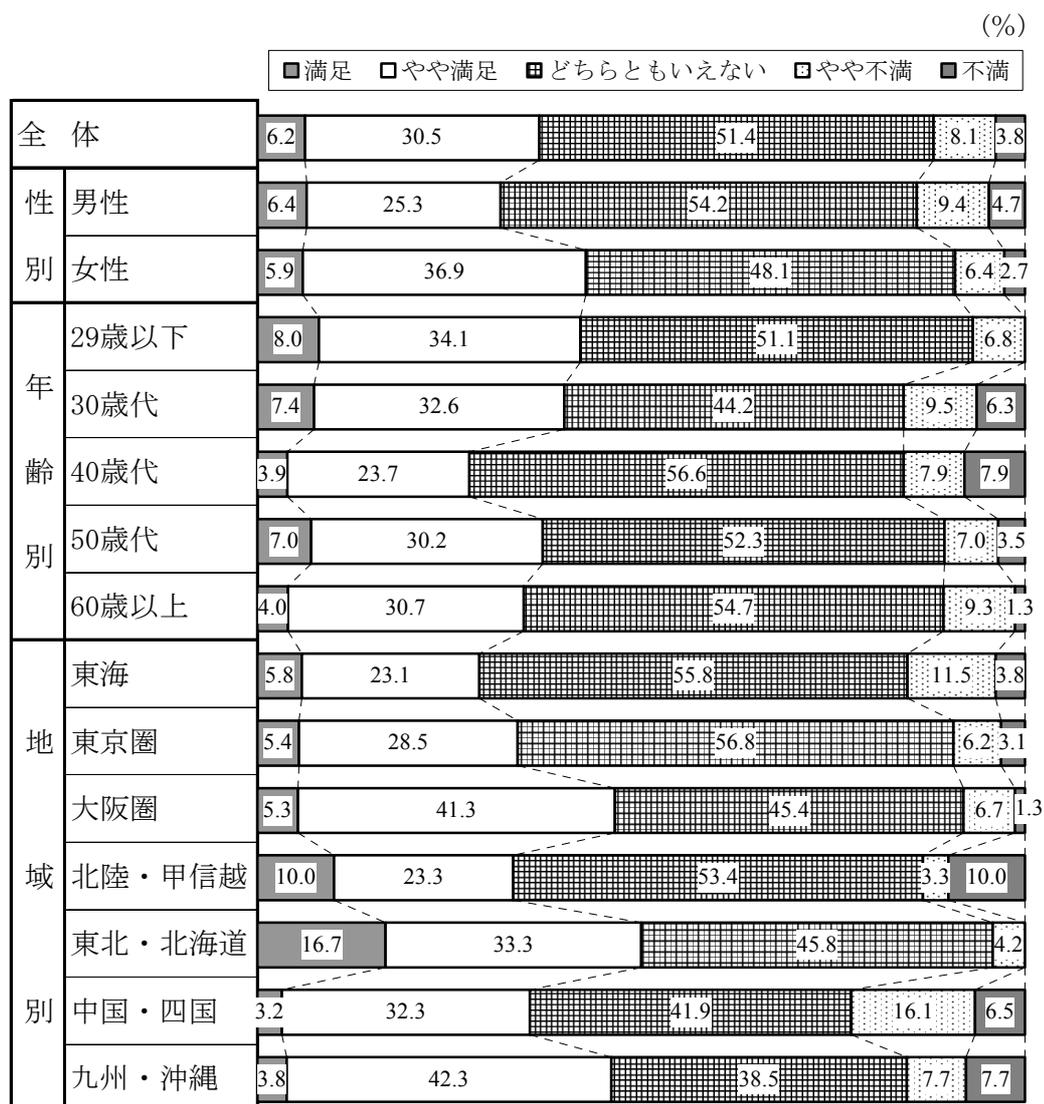
6) 案内表示等のわかりやすさの評価

案内表示等のわかりやすさについては、「満足」(6.2%)と「やや満足」(30.5%)を合わせ36.7%が満足と感じている。一方、「やや不満」(8.1%)と「不満」(3.8%)を合わせて11.9%が不満と感じており、評価項目のうちで最も高くなっている。

女性や29歳以下では比較的満足度は高い。一方、不満と感じた割合は、男性や30歳代、40歳代で相対的に高い。

地域別にみると、「東北・北海道」、「大阪圏」では満足度は高い。一方、「東海」では満足と感じた割合は3割に満たない。

図 2-4-17 案内表示等のわかりやすさの評価



7) 総合的な魅力の評価

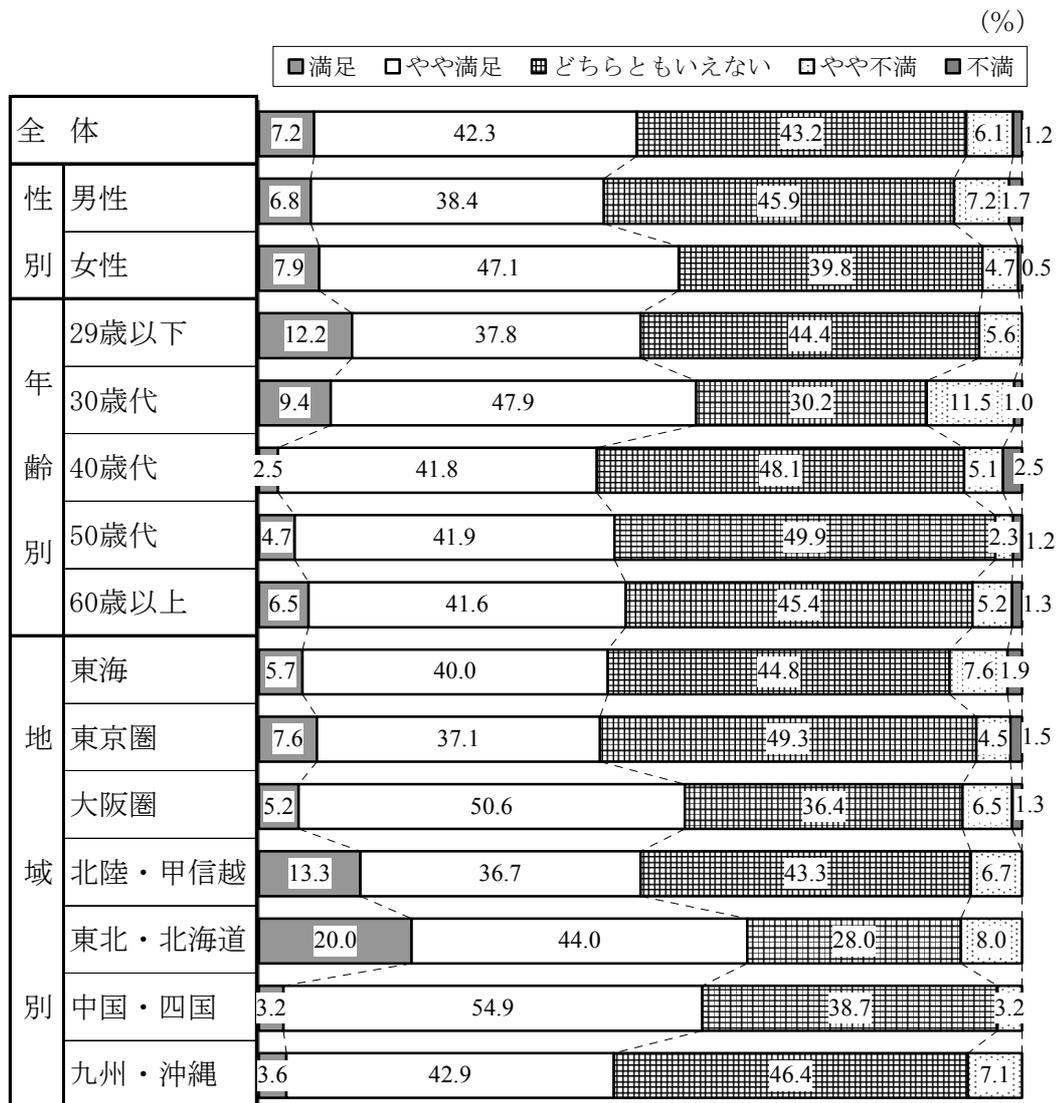
総合的な魅力としては、「満足」(7.2%)と「やや満足」(42.3%)を合わせて49.5%と半数が満足と感じており、「やや不満」(6.1%)と「不満」(1.2%)を合わせ7.3%が不満と感じている。

性別にみると、女性の方が満足度は高くなっている。

年齢別にみると、30歳代では満足と感じた割合が高いものの、不満と感じた割合も相対的に高い。

地域別にみると、「東北・北海道」の満足度は高くなっている。

図 2-4-18 総合的な魅力の評価



② 名古屋への今後の訪問について

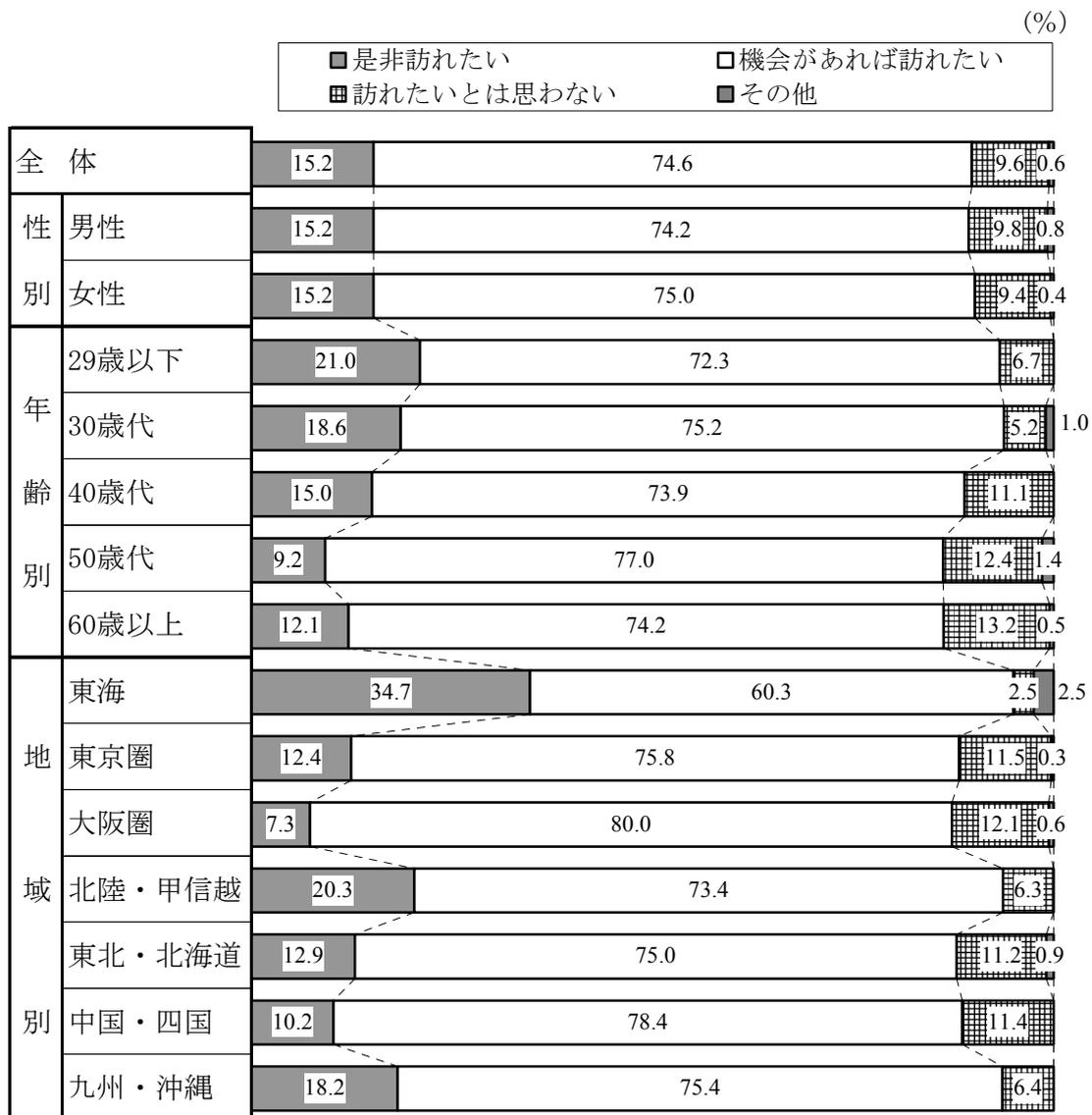
1) 名古屋への訪問意向

今後、名古屋への訪問意向としては、「機会があれば訪れたい」が74.6%を占め、「是非訪れたい」(15.2%)を合わせて9割と大半が訪れたいと考えている。

どの階層も9割前後が訪問意向を持っている。

「是非訪れたい」という強い訪問意向の割合は、「東海」で多く、そのほか29歳以下や「北陸・甲信越」でも2割以上みられる。

図 2-4-19 名古屋への訪問意向

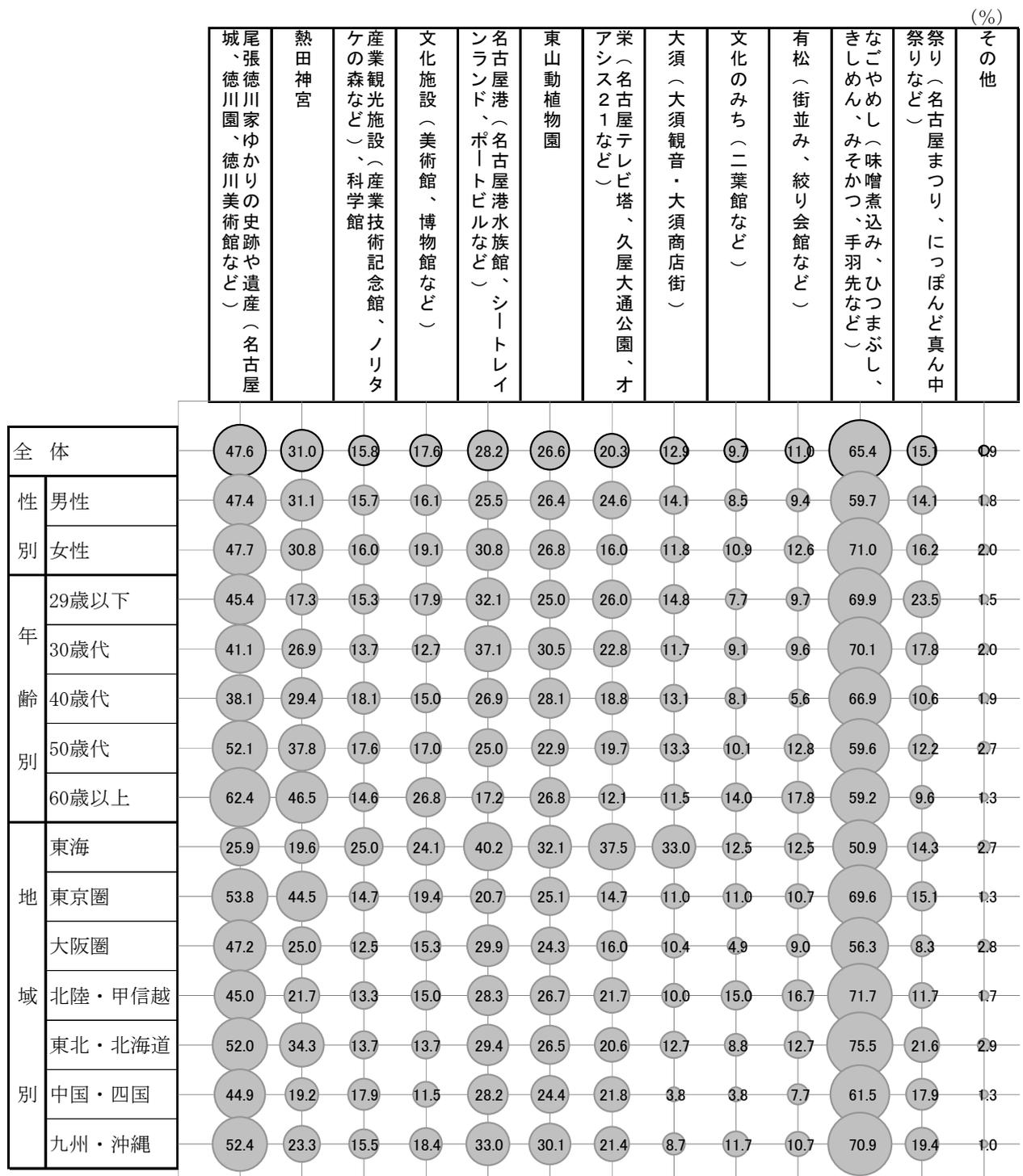


2) 訪れたい名古屋の観光資源

今後名古屋へ訪れたいと思う方(898人)が訪問したい場所又は経験したいものとしては、「なごやめし」が65.4%と最も多く、次いで「尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産」(47.6%)、「熱田神宮」(31.0%)、「名古屋港」(28.2%)、「東山動植物園」(26.6%)、「栄」(20.3%)となっている。

60歳以上では「尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産」の割合が最も高いが、そのほかの階層では全て「なごやめし」が最も高くなっている。また、「東海」では「名古屋港」「栄」「大須」「東山動植物園」などの割合も比較的高い。

図 2-4-20 訪れたい名古屋の観光資源（複数回答）



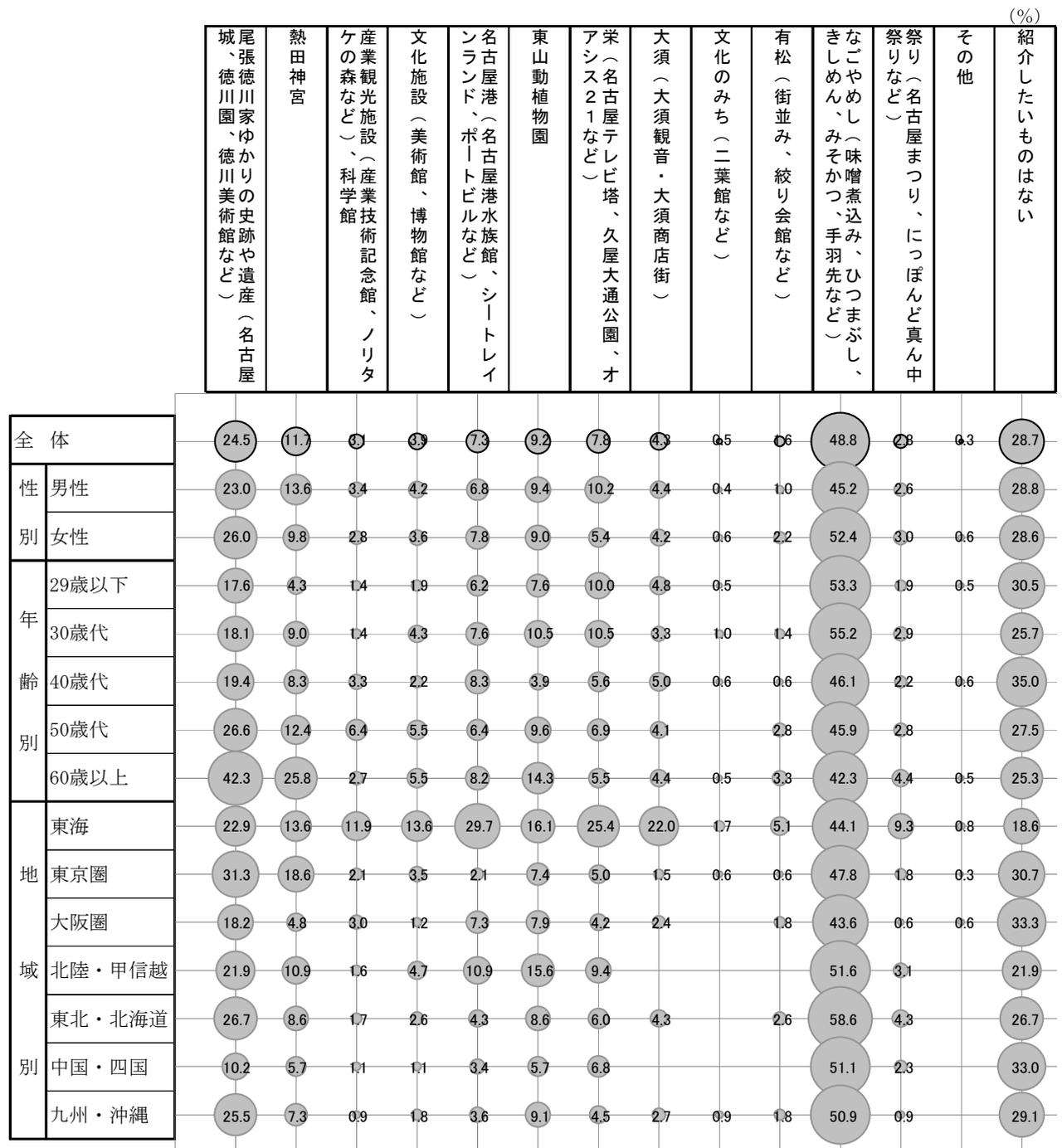
3) 紹介したい名古屋の観光資源

友人・知人などに紹介したい名古屋の観光資源がある割合は71.3%であり、「なごやめし」が48.8%で最も高く、次いで「尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産」が24.5%となっている。

「なごやめし」の割合は総じて高く、特に30歳代や「東北・北海道」で相対的に高くなっている。

地域別にみると、「東海」では、上記のほか「名古屋港」「栄」「大須」の割合も2割以上となっている。

図 2-4-21 紹介したい名古屋の観光資源（複数回答）



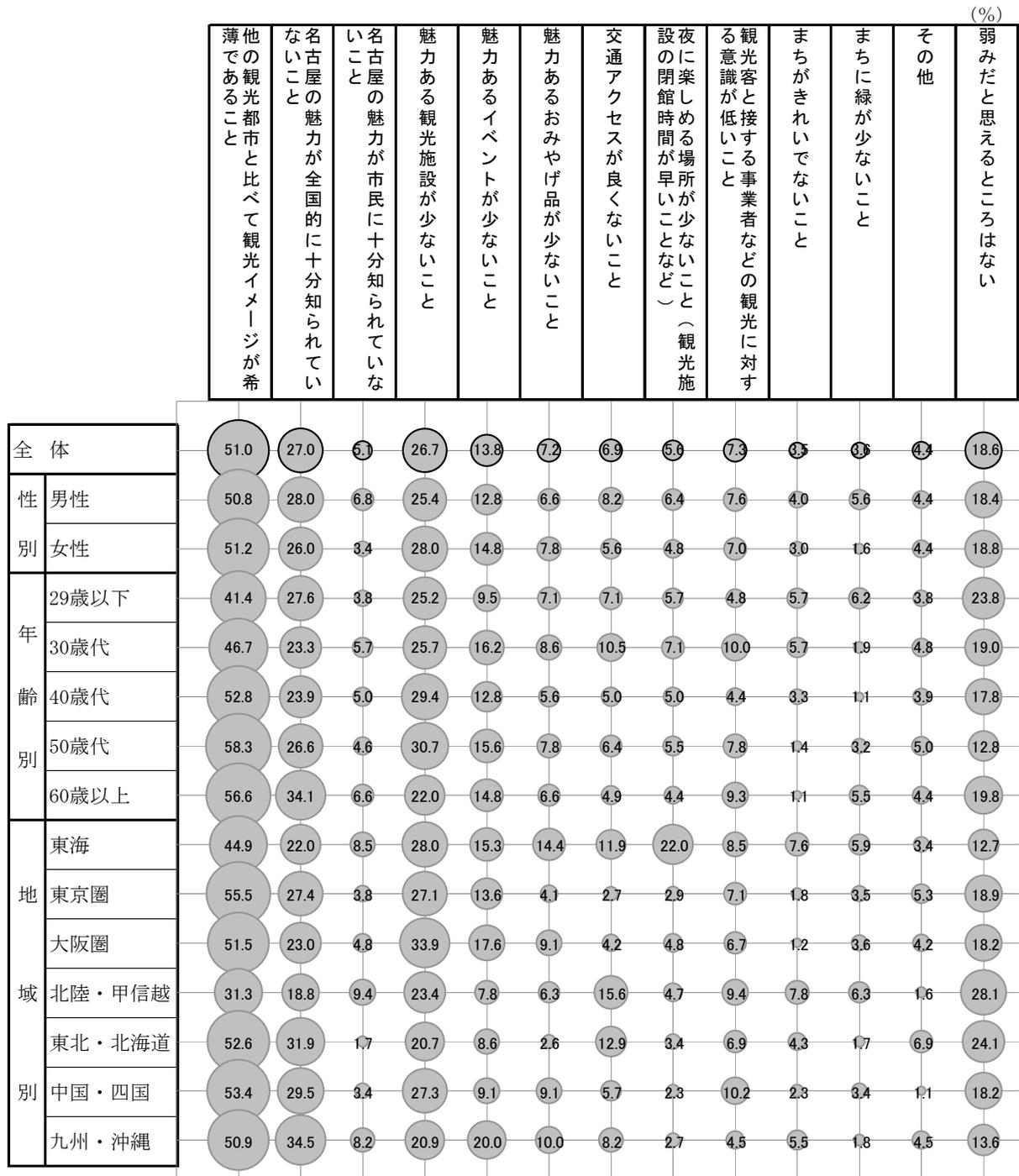
4) 名古屋の観光地としての弱み

名古屋の観光地としての弱みとしては、「他の観光都市と比べて観光イメージが希薄であること」が51.0%と最も多く、次いで「名古屋の魅力が全国的に十分知られていないこと」が27.0%、「魅力ある観光施設が少ないこと」が26.7%となっている。

各階層とも、弱みの第1位及び上位3つは上記のとおりである。

地域別にみると、「東海」では「夜に楽しめる場所が少ないこと」、「九州・沖縄」、「大阪圏」では「魅力あるイベントが少ないこと」、「北陸・甲信越」では「交通アクセスが良くないこと」の割合がそれぞれ相対的に高くなっている。

図 2-4-22 名古屋の観光地としての弱み（3つまで回答）



(4) 観光振興について

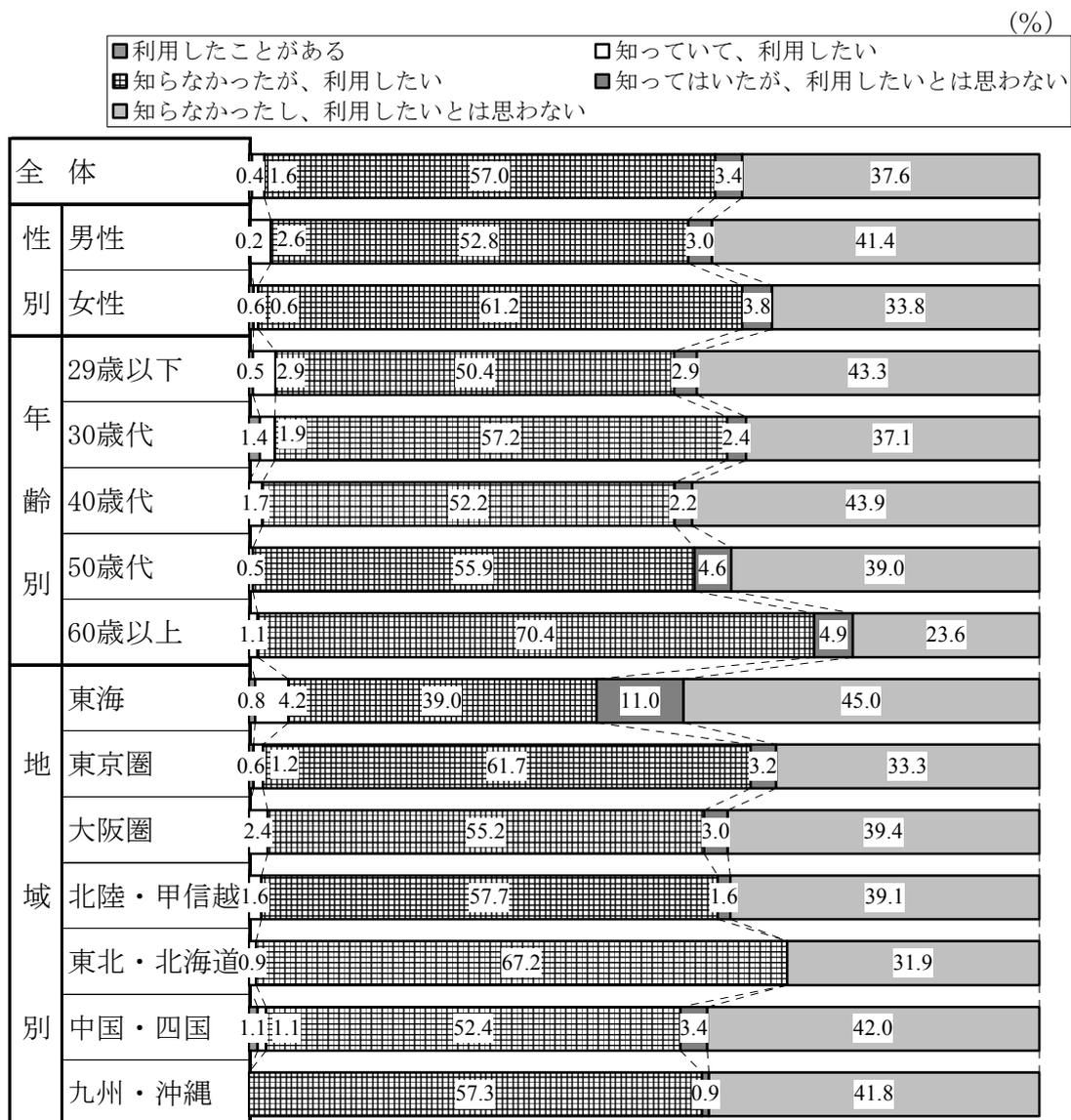
① なごや観光ルートバスの認知度・利用意向

主要観光施設等を周遊する金色の観光ルートバス「メーグル」を「利用したことがある」割合は 0.4%と僅かである。「知っていて、利用したい」(1.6%)と、「知ってはいたが、利用したいとは思わない」(3.4%)を合わせた認知度は 5%程度であるものの、「知っていて、利用したい」(1.6%)と「知らなかったが、利用したい」(57.0%)を合わせた利用意向は 58.6%と 6割近くを占めている。

利用意向の割合としては、女性や 60 歳以上、「東京圏」、「東北・北海道」ではそれぞれ 6割以上と高くなっている。

認知度としては、「東海」では 16.0%となっているものの、そのほかの階層では数%以下と未だ低い状況にある。

図 2-4-23 なごや観光ルートバスの認知度・利用意向



② 名古屋城「本丸御殿」の復元

1) 名古屋城「本丸御殿」復元の認知度

名古屋城「本丸御殿」の復元の取組みについて、「復元を進めていることも、2010年の玄関の一部公開も知っていた」が4.1%、「復元を進めていることは知っていたが、2010年の玄関の一部公開は知らなかった」が10.9%で、合わせて15.0%が「本丸御殿」の復元を知っている。

性別にみると、男性の方が認知度は高い。

「東海」では「復元を進めていることも、2010年の玄関の一部公開も知っていた」割合が19.5%、「復元を進めていることは知っていたが、2010年の玄関の一部公開は知らなかった」と合わせて42.4%が「本丸御殿」の復元を知っている。

図 2-4-24 名古屋城「本丸御殿」復元の認知度

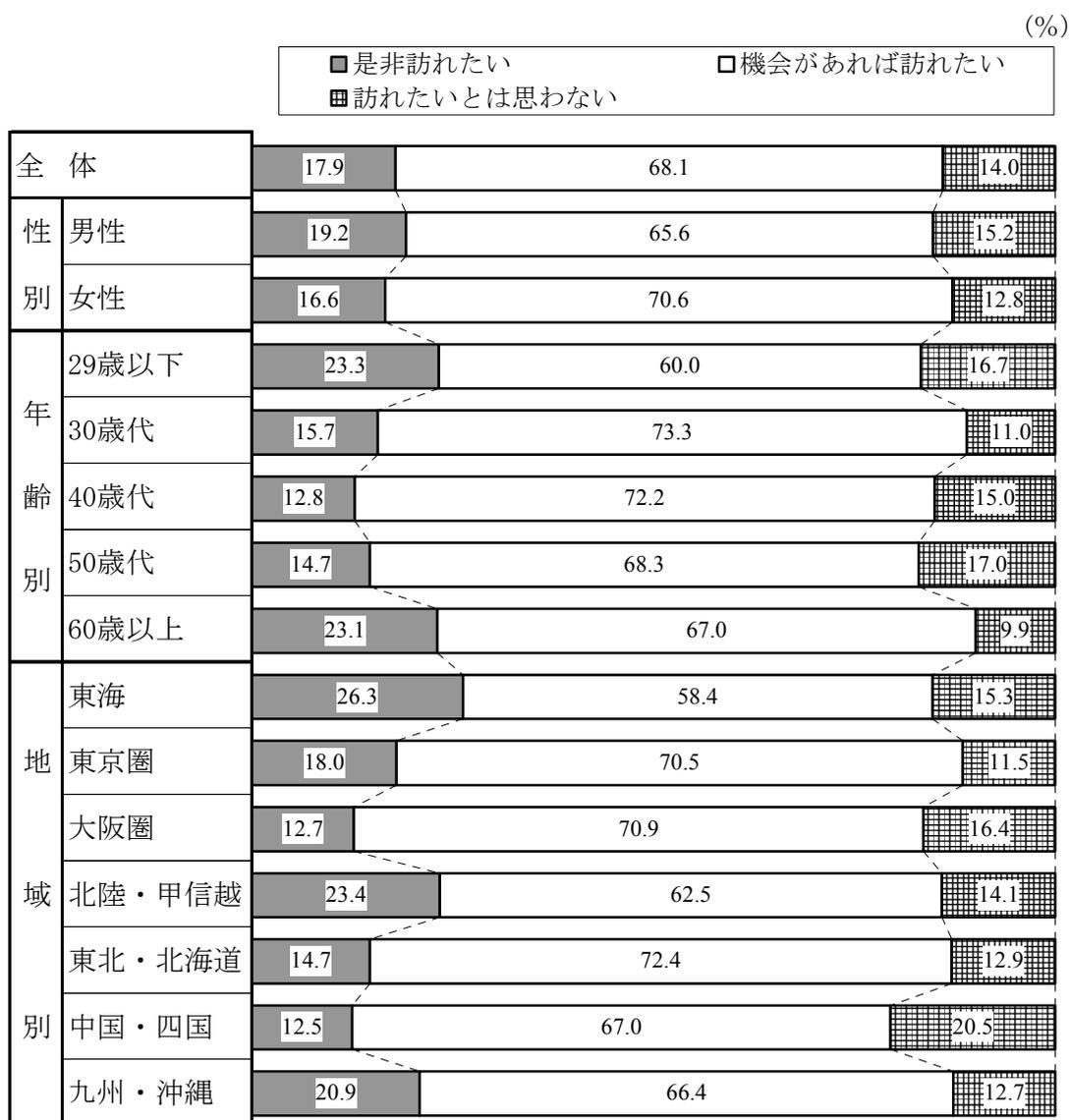


2) 名古屋城「本丸御殿」復元後の訪問意向

名古屋城「本丸御殿」が復元された場合、「是非訪れたい」は17.9%、「機会があれば訪れたい」(68.1%)を合わせて86.0%が訪れたいと思っている。前述の名古屋への訪問意向(P74 図2-4-19 参照)と比較すると「是非訪れたい」という強い訪問意向の割合が2.7ポイント増えており、この取組みが名古屋の観光振興に大きく貢献することを示唆している。

「是非訪れたい」の割合は、29歳以下、60歳以上や「東海」、「北陸・甲信越」、「九州・沖縄」では2割以上と比較的高くなっている。

図2-4-25 名古屋城「本丸御殿」復元後の訪問意向



3. 資料編

(1) 主要観光施設への入込動向

①名古屋市内主要観光施設への観光入込客数の推移

平成 19 年度における名古屋市内主要観光施設（31 施設）への入込客数は合計で約 2,298 万人であり、平成 18 年度と比較すると約 147 万人（6.8%）増加した。

観光入込客数を施設別にみると、熱田神宮が約 651 万人と最も多く、次いで東山動植物園（約 232 万人）、名古屋港水族館（約 212 万人）、イタリア村（約 127 万人）、名古屋城（約 112 万人）となっている。

施設別に昨年度の入込客数と比較すると、対前年度比率は平成 19 年 3 月に開館したスカイプロムナード、開港 100 周年の名古屋港、開館 30 周年の名古屋市博物館、開園 70 周年の東山動植物園などの施設で入込客数の増加を示している。

一方、名古屋ボストン美術館、イタリア村、ブルーボネットなどにおいて入込客は減少している。

②名古屋市内主要観光施設の月別観光入込客数

主要観光施設の月別入込客数を表 3-1-2 に示す。

熱田神宮は、初詣客を中心に「1 月」の入込客が圧倒的に多く、熱田まつりが開催される 6 月も入込客は多い。

花見の名所である名古屋城、東谷山フルーツパーク、名古屋市農業センター、徳川園などは 3 月～4 月の入込客が多い。また名古屋城は宵まつりが開催される 8 月も入込客は多い。

名古屋港水族館、シートレインランド、名古屋市科学館、でんきの科学館などは子どもが夏休みの 8 月に入込客が多い。

有松・鳴海絞会館は、絞りまつりが開催される 6 月に入込客が多い。

東山動植物園、農業文化園・戸田川緑地など屋外の施設は全般に 5 月、10 月の行楽シーズンを中心に入込客が多く、東山動植物園は特に 4～5 月の入込客が多い。

美術館や博物館の入込客数のピークはまちまちで、時期ではなく特別展など展示内容によって入込客数は変動している。

表 3-1-1 入込客数の推移

(単位：人)

施設	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
名古屋城	925,250	994,994	1,984,187	1,096,137	1,196,500
東山動植物園	1,981,796	1,735,184	1,650,336	2,020,314	2,319,341
東山スカイタワー	253,450	231,048	224,951	259,886	289,767
テレビ塔	185,757	181,497	194,463	323,818	293,251
熱田神宮	6,535,998	6,465,460	6,547,860	6,235,956	6,512,112
名古屋港	213,817	203,434	202,177	195,639	643,632
名鉄海上観光船	43,524	36,939	34,133	25,117	-
名古屋空港	434,072	433,411	-	-	-
名古屋市科学館	624,325	615,425	486,104	614,577	618,956
徳川美術館	176,613	241,912	420,582	251,863	219,494
名古屋市博物館	478,858	448,195	568,581	363,271	538,476
東谷山フルーツパーク	572,313	511,899	459,031	547,717	568,804
農業文化園・戸田川緑地	681,265	658,225	642,757	712,288	691,262
でんきの科学館	523,940	492,856	333,893	348,158	353,727
名古屋市美術館	136,749	196,020	196,062	347,052	374,303
名古屋港水族館	1,733,279	1,759,536	1,663,186	1,927,274	2,116,681
産業技術記念館	156,277	150,921	303,312	230,618	263,854
白鳥庭園	90,989	79,848	76,196	82,966	91,713
市政資料館	65,228	59,274	67,749	59,240	60,143
名古屋能楽堂	141,141	127,470	135,297	163,455	186,408
愛知県美術館	824,938	629,283	1,222,438	761,088	803,967
名古屋市農業センター	727,864	713,839	669,831	622,769	612,259
シートレインランド	861,622	728,142	600,388	707,572	731,388
有松・鳴海絞会館	157,989	191,996	189,908	185,820	179,689
ランの館	126,562	133,473	117,999	128,193	131,262
名古屋ポストン美術館	246,609	242,916	209,599	237,245	175,661
パノラマハウス	454,248	391,754	309,246	-	-
ノリタケの森	496,929	421,515	533,830	410,558	413,566
ブルーボネット	161,875	117,892	95,941	93,831	77,968
徳川園	-	221,601	399,865	254,727	249,227
文化のみち二葉館	-	20,565	56,550	35,436	35,792
イタリア村	-	-	4,352,600	1,690,100	1,272,200
ロボットミュージアム	-	-	-	422,173	333,508
スカイプロムナード	-	-	-	160,000	630,000
小 計	20,013,277	19,436,524	24,949,052	21,514,858	22,984,911
万博ささしまサテライト事業	-	-	3,519,700	-	-
全 体	20,013,277	19,436,524	28,468,752	21,514,858	22,984,911

注 1：徳川園は平成 16 年 11 月、文化のみち二葉館は平成 17 年 2 月、イタリア村は平成 17 年 4 月、ロボットミュージアムは平成 18 年 10 月、スカイプロムナードは平成 19 年 3 月にそれぞれ開館した。

注 2：名古屋港は、ポートビル展望室、名古屋海洋博物館、南極観測船ふじの入場者の合計数。名古屋空港の展望デッキは平成 17 年 2 月、パノラマハウスは平成 17 年 10 月、名鉄海上観光船は平成 18 年 11 月、ロボットミュージアムは平成 19 年 9 月にそれぞれ閉館した。

注 3：万博ささしまサテライト事業は愛・地球博（愛知万博）の関連イベントとして平成 17 年 3 月 18 日～9 月 25 日の間開催された。（全て平成 17 年度入込客数とした）

表 3-1-2 施設別・月別入込客数

(単位：人)

施設	年月	平成 19 年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
名古屋城		165,981	115,291	69,036	68,139	158,708	86,193	96,644	108,641
東山動植物園		371,044	424,018	154,628	88,339	105,145	142,615	280,927	222,525
東山スカイタワー		39,756	47,631	22,304	13,295	18,307	19,447	32,601	27,845
テレビ塔		23,554	29,826	19,737	20,947	34,511	24,392	23,038	24,361
熱田神宮		156,354	194,128	451,626	160,112	127,290	142,530	182,055	247,485
名古屋港		50,124	72,074	34,524	58,963	98,746	49,517	62,018	57,865
名古屋市科学館		50,484	60,555	38,565	59,900	140,136	46,129	39,729	31,967
徳川美術館		20,156	21,005	14,096	14,064	19,716	15,991	25,399	25,510
名古屋市博物館		24,036	73,962	44,282	31,551	29,162	33,198	38,214	51,122
東谷山フルーツパーク		175,683	72,642	24,706	22,708	19,367	40,249	60,005	29,643
農業文化園・戸田川緑地		70,360	128,529	48,562	51,372	59,799	55,150	65,108	52,178
でんきの科学館		28,663	26,407	21,366	25,695	64,895	28,940	28,226	29,626
名古屋市美術館		1,040	47,357	95,012	49,969	8,856	5,936	3,438	6,306
名古屋港水族館		146,389	216,117	130,451	186,235	417,530	193,017	163,633	137,722
産業技術記念館		22,473	20,779	23,882	19,367	25,154	21,484	30,397	32,049
白鳥庭園		10,154	10,284	4,308	3,552	3,239	3,905	8,177	14,538
市政資料館		5,415	4,730	4,249	3,678	3,394	4,822	6,334	7,180
名古屋能楽堂		16,375	14,494	13,431	16,491	14,548	16,186	16,239	21,242
愛知県美術館		83,203	116,187	84,463	49,183	57,084	49,344	41,271	51,231
名古屋市農業センター		43,920	42,305	23,473	25,411	20,544	26,022	33,982	61,387
シートレインランド		60,930	73,387	56,512	77,327	105,357	66,673	50,568	49,861
有松・鳴海絞会館		6,638	8,792	106,393	7,440	6,675	6,461	9,578	7,403
ランの館		8,798	12,949	8,224	9,826	7,735	8,502	15,410	10,808
名古屋ボストン美術館		9,589	10,701	10,211	14,543	19,703	10,219	10,128	12,506
ノリタケの森		31,880	38,605	32,081	26,643	32,210	34,660	40,007	49,170
ブルーボネット		15,487	16,583	7,343	4,531	2,892	4,797	11,642	6,564
徳川園		45,099	24,869	14,122	11,690	16,756	14,934	20,529	25,797
イタリア村		109,200	145,700	98,400	108,500	151,600	108,000	94,500	97,300
文化のみち二葉館		3,266	4,387	2,111	1,657	1,498	1,897	3,742	4,076
ロボットミュージアム		53,671	56,428	40,114	55,553	67,661	60,081	-	-
スカイプロムナード		110,000	90,000	50,000	40,000	50,000	50,000	40,000	50,000
全 体		1,959,722	2,220,722	1,748,212	1,326,681	1,888,218	1,371,291	1,533,539	1,553,908

◆調査対象施設の選定について

名古屋市では、平成 8 年 3 月に社団法人日本観光協会が刊行した『全国観光客数統計～観光統計の調査・集計方法の全国統一～（全国観光統計基準の提案）』の基準を参考に、調査対象施設を選定しており、平成 16 年度に 2 施設（徳川園、文化のみち二葉館）を加え、平成 17 年度には、1 施設（名古屋空港）を除き、1 施設（イタリア村）を加え、平成 18 年度に 1 施設（パノラマハウス）を除き、2 施設（ロボットミュージアム、スカイプロムナード）を加え、平成 19 年度には、1 施設（名古屋海上観光船）を除いた 31 施設を調査対象とした。

平成 17 年度には万博ささしまサテライト事業も調査対象とした。

参考：調査対象施設の基準

- ・原則として、年間入込客数が 5 万人以上である市内観光施設を対象とした。
- ・新規開業施設については、初年度から年間 5 万人以上の入込客が見込まれる場合には、初年度から調査対象とした。

(単位：人)

施設	年月	平成 19 年 12 月	平成 20 年 1 月	2 月	3 月	合計	備 考
名古屋城		51,617	63,283	67,529	145,438	1,196,500	
東山動植物園		91,961	110,165	76,102	251,872	2,319,341	
東山スカイタワー		14,805	15,834	9,427	28,515	289,767	
テレビ塔		26,340	21,794	17,471	27,280	293,251	
熱田神宮		151,755	4,344,310	183,632	170,835	6,512,112	
名古屋港		33,227	41,879	33,141	51,554	643,632	
名古屋市科学館		25,531	34,797	34,759	56,404	618,956	
徳川美術館		7,989	0	23,921	31,647	219,494	平成 20 年 1 月は休館
名古屋市博物館		37,107	72,975	58,544	44,323	538,476	
東谷山フルーツパーク		14,104	17,988	22,318	69,391	568,804	
農業文化園・戸田川緑地		24,805	30,536	25,297	79,566	691,262	
でんきの科学館		15,347	19,495	23,141	41,926	353,727	
名古屋市美術館		7,983	3,432	49,052	95,922	374,303	
名古屋港水族館		118,322	135,574	105,319	166,372	2,116,681	
産業技術記念館		15,862	14,178	16,978	21,251	263,854	
白鳥庭園		8,930	7,781	4,575	12,270	91,713	
市政資料館		4,063	3,651	4,703	7,924	60,143	
名古屋能楽堂		22,229	12,583	8,547	14,043	186,408	
愛知県美術館		54,595	84,662	90,375	42,369	803,967	
名古屋市農業センター		15,424	15,625	39,458	264,708	612,259	
シートレイランド		60,366	44,010	31,056	55,341	731,388	
有松・鳴海絞会館		3,671	4,439	6,240	5,959	179,689	
ランの館		21,129	9,429	8,448	10,004	131,262	
名古屋ボストン美術館		7,356	22,826	20,502	27,377	175,661	
ノリタケの森		27,883	37,261	28,988	34,178	413,566	
ブルーボネット		1,631	0	0	6,498	77,968	平成 20 年 1 月・2 月は休園
徳川園		11,325	11,380	19,894	32,832	249,227	
イタリア村		127,500	91,500	64,000	76,000	1,272,200	
文化のみち二葉館		1,817	1,669	4,203	5,469	35,792	
ロボットミュージアム		-	-	-	-	333,508	平成 19 年 9 月末閉館
スカイプロムナード		50,000	30,000	40,000	30,000	630,000	
全 体		1,054,674	5,303,056	1,117,620	1,907,268	22,984,911	

(2) 名古屋のまちの印象（自由回答より）

観光入込客、宿泊客に名古屋のまちの印象を尋ねたところ、次のような意見があげられました。

良い印象

【観光施設・観光スポット】

- ・ 観光施設が多くてよいと思います。(男性 10代)
- ・ 見るところが多く、いろいろ発見。(女性 70歳以上)
- ・ 都会でありながら観光地もいろいろあり、2~3日では見きれなかったもので、また来たいです。(女性 50代)
- ・ 名古屋はとて見るところが多く、とても2日間だけで見て回るのはたいへん困難です。また家族で来ようと思います。(男性 30代)
- ・ バス、地下鉄で移動ができ、子どもと遊びに行ける施設がたくさんあり、毎週いろいろな所へ出掛けています。(女性 30代)
- ・ かなり整備されてきていい感じになってきました。以前より観光スポットが増えたように思います。(女性 60代)
- ・ 最近、特に観光施設が増えたと思います。(男性 40代)
- ・ 最近、おもしろいスポットが増えたと思う。(女性 30代)
- ・ いろいろな施設ができて、観光するところが増えた。(男性 70歳以上)
- ・ 10年ぶりの2回目の訪問ですが、観光施設はよく整備されている。(男性 70歳以上)
- ・ 名古屋には会議でよく来ます。名古屋城、東山動物園、名古屋港水族館が特によい。(女性 60代)
- ・ オアシス21がよい。博物館、名古屋城も月3回行ってよい。白川公園、美術館、NHKなど良い所がある。料金が助かる。(男性 70歳以上)
- ・ 白鳥庭園へ行ったが、自然がきれいなところがいっぱいある。東京大阪に比べると、これぐらいの落ち着き具合が好き。(男性 20代)
- ・ 徳川園、白鳥庭園を最近訪ねましたが、名古屋にも訪ねるところがいろいろあって楽しんでいる。中川文化小劇場でピアノコンサートを聴いたのですが、無料でとても楽しかった。(女性 60代)
- ・ 公園が多ければ多いほどよい。ノリタケの森は名城公園よりきれいでいい。(男性 60代)
- ・ ノリタケの森は花の手入れがきれいで子どもに安心。友達にもお薦めできる。季節感があり、トイレもきれい。(女性 30代)
- ・ 名古屋港、水族館が好き。動物園に年に10回以上来ている。(女性 40代)
- ・ 名古屋城は好き。歴史上のすごい人が大勢いる。(女性 10代)
- ・ 名古屋城の本丸、がんばってください。(男性 30代)
- ・ 名古屋港があり緑と水の素敵な街。(女性 40代)
- ・ けっこういい所。名古屋城とか大須とか遊ぶところがいっぱいある。(男性 30代)
- ・ イタリア村は施設の整備がされていてきれい。物価が安く住みやすい。(女性 60代)
- ・ 今後、中川運河・堀川沿いを歩き、旧熱田港・名古屋港へ行きます。知らない所が多く、まだまだ魅力あり。(男性 60代)

【名古屋まつりなど伝統行事】

- ・ 好き。地元のお祭り（出来祭）はとてもよい。(男性 70歳以上)
- ・ お祭り、山車がよい。(男性 30代)
- ・ 山車を子どもの時に曳いていて、懐かしくて見に来た。古いものを大切にしたいと思う。(女性 50代)
- ・ 名古屋まつりは毎年とても楽しみにしています。一度でいいから英傑行列に加わってみたい、というのが長年の願いです。(女性 30代)
- ・ 名古屋まつりは続けてほしい。(男性 60代)

【イベント】

- ・ 活気がある。イベントがたくさんあってよい。(女性 60代)
- ・ 住みやすい。スポーツイベントが多い。(女性 50代)
- ・ イベントが多く楽しみです。(女性 40代)
- ・ 名古屋国際女子マラソンが見れるので、とても楽しみです。(女性 40代)

- ・ オアシス 21 で TV 局のイベントなど、最近イベントが多い。(男性 40 代)

【風景、景観】

- ・ 緑が多くなった、きれいになった。散歩、住みやすい町に変わりつつある。(男性 60 代)
- ・ 木が多くて環境がいい。(男性 20 代)
- ・ 緑が多く、街がきれい。ゴミが落ちてない。(男性 20 代)
- ・ 明るくなりました。公園も多くて大好きです。(女性 70 歳以上)
- ・ 交通の便がよかった。環境がいいところだと思う。(男性 30 代)
- ・ 名古屋駅に降り立ってまっ目についたのが、イルミネーションのきれいさ、人の多さ、活気のある町だと思いました。(女性 50 代)
- ・ 名古屋駅前がにぎやかでイルミネーション等もきれいでした。観光はこれからの予定なので利便性などはまだわかりませんが、興味をそえられるものも多くありそうなので楽しみです。(女性 20 代)
- ・ 夜のイルミネーションがきれいだった。名古屋の公共交通は便利がよい。名古屋は人が多かった。(男性 10 代)
- ・ 意外と都会で街並みも大きく、TV 塔から見る夜景もきれいだった。(男性 40 代)
- ・ 6 年前に初めて訪れた時より大きな建物が建ち並び驚いています。そして夜景は初めてです。もう一度訪れたい気持ちでいっぱいです。(女性 70 歳以上)
- ・ 大きなビルがたくさんあり、町並みもゴミも落ちていなくてきれいでした。観光施設も看板がわかりやすく迷子にならずにすみました。(女性 50 代)

【町並み、歴史との融合】

- ・ 文化、歴史のあるいい町。(男性 30 代)
- ・ 歴史があり、また近代的な物もとても期待しています。(女性 60 代)
- ・ 街並みがゆったりとして城下町らしくてよい。それと反して都会とマッチしている。(女性 50 代)
- ・ 城下町のイメージが残っている。緑が多い。(女性 30 代)
- ・ 近代的な都市の中に古い街並みが残されていて情緒がありよかった。(女性 50 代)
- ・ 交通の利便性がよい。街に活気がある。歴史のある街並みと新しい街がうまく融合している。(女性 40 代)
- ・ 街並みがだんだんきれいになってきた。(女性 60 代)
- ・ 街並みがきれいで、道路が広くて、素敵なところだった。(女性 40 代)
- ・ 町並みも立派で県庁所在らしい。地下鉄の出口の表示が構造が複雑なためか、東京に比べてややわかりづらい。国際会議場の騎馬像が印象に残った。(女性 30 代)

【町の雰囲気、住みやすさ、発展性】

- ・ のんびりしていて住みやすい。(女性 70 歳以上)
- ・ 夫の転勤でいろいろな所に住んだが、名古屋はとても住みやすい町だと思う。(女性 50 代)
- ・ 都会っぽい所と下町っぽい所、両方よくあって住みやすい。(男性 20 代)
- ・ 住みやすく気に入っている。いろいろな所に住んだが、今まで住んだ中で一番気に入っている。(女性 60 代)
- ・ 住みやすい街。めちゃくちゃ都会でもなく、緑も多い。(男性 60 代)
- ・ 街のサイズが適当な大きさと、通勤や観光など住みやすい。図書館とか行きやすい。(男性 50 代)
- ・ なかなか暮らしやすいです。以前埼玉県にいたが、感じが似ている。東京は忙しすぎる感じ。名古屋はのんびりしている。(男性 60 代)
- ・ 祭りがよい。ここ数年、街全体に元気がある。(男性 50 代)
- ・ 経済的にもものすごく発展していると感じます。(男性 30 代)
- ・ 景気がよい。新旧が混在していておもしろい。(女性 50 代)
- ・ 10 年前とはすっかり変わっており、驚きました。発展する町としての印象を受けました。(女性 70 歳以上)
- ・ 都市部だけあって高いビルが多くみられた。新しい建物や建設中の建物があり、まだまだ発展していくと思いました。(男性 10 代)
- ・ 名古屋は東京、大阪に比べ田舎の印象であったが、今般経済発展もすさまじく他都市と同じである。さらなる発展を期待します。(男性 50 代)

- ・おとなしくても元気な感じ、好印象。(女性 30代)
- ・名古屋特有の町並み、にぎわいを感じる。(男性 30代)
- ・にぎやかでした。(男性 30代)
- ・独特な雰囲気、東西融合な感じ。(男性 20代)
- ・自然と共存していてよい。適当に都会的などころもあってよいです。(女性 50代)
- ・海や山が近く都会といえば都会だし、田舎の良い部分を含めて住みやすい。(男性 30代)
- ・いろいろな交通の便利もいいし、名古屋のグルメはおいしいです。町並みは中心部だとビルが多いが、中心部から離れると古い町並みが残っているのでもいいと思います。(男性 20代)
- ・ホテル近くの夜の町を歩いた感じは安心して楽しめました。(女性 50代)
- ・東京や大阪に比べて治安もよく、街も道路もきれいだと感じた。夜が早い。特に飲食店の営業時間で終わるのが早いところが多く、少し気になった。(男性 20代)
- ・あちこち旅行に行ったが、名古屋が一番。やかましそうだけど、静かで落ち着いている。自分が住んでいるところは人情味がある。(女性 70歳以上)
- ・駅前にはビジネス街というイメージをうけました。名古屋城までの道のりは静かな住宅街というイメージ。観光名所まで行くのに、徒歩でも行ける手軽さがよいと思う。手羽先がとてもおいしかった。(女性 20代)

【店舗、商店街】

- ・元気な街だと思います。活気があるけど東京みたいに高級な店ばかりではなく、遊ぶ場所もたくさんあると思います。(女性 40代)
- ・有名なお店が多く、歩いていても飽きなかった。人が多かった。タクシーで目的地まで行っただが、車の流れもよく快適だった。(男性 10代)
- ・交通の便もよく、いろいろな商業施設がありとても便利です。(男性 10代)
- ・道路が広い。名古屋駅前がすっかり変わった。地下街が広い。(男性 50代)
- ・地下街が発達している、店が多いので便利だと思う。(女性 20代)
- ・グルメが豊富。ショッピングが充実。建造物など観光場所も多く、2日では回りきれない。(男性 30代)
- ・若者が多く、店員などにも若い人たちが多くいたので活気があった。(女性 40代)

【食べ物】

- ・食文化がすごい。迷うほどおいしいものがたくさんある。(女性 20代)
- ・食事がおいしい。名古屋ならではの食べ物がたくさんあり、旅行者は本当に楽しめる。道路がひろい。(女性 20代)
- ・街並みはきれい。まだまだこれから発展していくと思う。食事がおいしい。味噌煮込み、シロワールがおいしい。見どころもある。(男性 40代)
- ・味噌カツがおいしかったです。名古屋駅のイルミネーションがすごくきれいでした。(女性 10代)
- ・名古屋の食べ物(手羽先、味噌煮込みうどん、あんかけスパゲティ等)はおいしい。(男性 40代)
- ・きしめんがおいしかった。(女性 40代)
- ・少し見た程度でしたが、市役所の外観が素敵だった。名古屋名物のモーニングサービスはうれしいサービスでした。(女性 20代)
- ・お昼のランチがおいしかった。若い人がたくさん来ており、名古屋はとても元気のいい街です。また来ます。(女性 50代)
- ・食費が安い、一人前の量が多い。道路が広い。空気がきれい。(女性 20代)

【名古屋人、気質】

- ・人情味がある。(男性 20代)
- ・道路が広々としている。人間性がよい、親切。歴史の史蹟がいろいろあって楽しい。(女性 50代)
- ・ボランティアガイドさんにお世話になりました。おかげでよい勉強になりました。(男性 40代)
- ・バスの運転手さんが親切でした。また、道に迷っても皆さん親切に教えてくださり、とても良い印象を持ちました。とても大きい駅。名古屋駅前は大きなお店が多く、どこに行くか迷ってしまう。ぜひまた来たいです。(女性 20代)
- ・タクシーの運転手の方が優しくて、いろいろと案内してもらえました。(女性 40代)
- ・タクシーの運転手さんの感じがよかったです。道路の案内表示がありわかりやすかった。(女性 50代)

- ・ ホテルも素晴らしかったです。従業員がとても礼儀正しく関心しました。いい旅ができました。(男性 60代)
- ・ ホテルの方の対応がとてもよかったです。食べ物もおいしい街並みもイルミネーションが多くきれいだった。ぜひまた来たいです。(女性 30代)
- ・ 名古屋の街はきれいでとても親切な人がいるため、とても楽しく見学ができました。また来たいと思います。(女性 60代)
- ・ 熱気あふれる感じのよい街です。人も和やかで気持ちよいです。(女性 70歳以上)
- ・ 活気がある。熱田神宮はよい。神宮に来ているせいか、信仰心を持っている人が多い気がする。(男性 40代)
- ・ 子育てに関して熱心。(男性 20代)
- ・ 引越してきた時は何となく冷たい感じがしたが、今はよい所だと思っている。(女性 60代)
- ・ 名古屋のイメージは、味噌カツ、エビフライ、ひつまぶし、大須、トヨタ、テレビ塔、道路が広くてきれい、名古屋独特の10~20代前半の人のファッションがある(名古屋嬢)。駅前での禁煙カフェがほしい(タバコを吸わない人への配慮)。(女性 20代)

【道路・道路交通】

- ・ 道路が広いので車では走りやすい。町並みが美しい。(男性 50代)
- ・ 道路がとても走りやすく、公共の看板も見やすいです。食事処も多くあり、よいところです。(女性 60代)
- ・ 道路が整備されていて、非常によい。街並みがきれい。(男性 50代)
- ・ 他の都市に比べて道路は走りやすいと思います。観光するところが少ない。(男性 40代)
- ・ 交通表示が見やすかったので、迷わずに名古屋城まで来ることができました。(女性 40代)
- ・ イルミネーションの飾り付けが美しかったです。道路の案内表示も親切で目的地にも迷わず行くことができました。経済力のある都会であることを実感しました。(男性 60代)
- ・ 街の美観がとてもよい。公共交通機関および車でも便利がよい。道路が広いし、駐車場も完備されている。(男性 50代)
- ・ 伊勢湾岸道ができて便利になりました。(男性 30代)
- ・ タクシーの初乗りが安かった。人が親切でした。(女性 30代)

【公共交通】

- ・ 万博終了より一段と交通の便がよくなった。交通機関を利用し市内を回りたい。(男性 40代)
- ・ 交通の便が発達してよかったです。ホテルもとても快適でした。また来たいです。(女性 20代)
- ・ ドニチエコきっぷで名古屋が巡れるのはうれしい。(女性 50代)
- ・ 道路が広い。バス、地下鉄のドニチエコきっぷが便利である。(女性 30代)
- ・ メーグルができたのでいろいろ回ってみようと思う。(女性 30代)
- ・ 道路も広く、人もやさしく、地下鉄の案内板も見やすく、いい所だと思います。(女性 40代)

【その他】

- ・ 万博があり、世界に通信されたことが多く、観光客が多くなったと思います。(女性 70歳以上)
- ・ 万博を開催したためか、観光客を多く見かけた気がします。(女性 20代)
- ・ いい所なので、孫と共にまた来たいです。(女性 60代)
- ・ 初めて来ましたが、また来たいです。(女性 50代)
- ・ ホテルが印象良く過ごせた。行ってみたい名所も近くにあり、ぜひまた訪れてみたい。(女性 20代)
- ・ お城がある町だけあって、食・芸術などの文化が成熟していると思う。また、名古屋駅前の高層ビルを見ると、いかに『名古屋』が活力のある街なのかがうかがえる。道路の幅が広いので、渋滞などのストレスも感じない。(男性 30代)
- ・ 昔に比べて案内表示がずいぶんよくなった。(女性 30代)
- ・ ホテルは快適でした。名古屋名物も美味。すべてが地下街に集結している(という感じ)には驚き。またゆっくり来たいです。(女性 60代)
- ・ 人が優しいのと、ご当地グルメがあるのが強みだと思います。(女性 20代)
- ・ 市民生活の中に観光がある感じ。あまり観光地化していなくて地元の人々の生活感がわかり、よいと思います。ビジネス+観光としては良いと思います。(女性 50代)

不満な点、要望

【道路、運転マナー】

- ・ 交通の利便性はよいが、交通マナーが他県に比べて悪いように思う。自分も含めて、もう少し利用する者のマナーを見直したほうが良いと思う。(男性 40代)
- ・ 駐車場が少なく、自動二輪用の駐輪場がない。バイクでは来られない。(男性 40代)
- ・ 名古屋高速の料金が安い。(男性 50代)

【公共交通】

- ・ 公共交通機関の表示がわかりづらい。(女性 60代)
- ・ メーグルが止まる場所が中途半端、少ない。水族館やトヨタ博物館、熱田神宮など。(男性 60代)
- ・ メーグルの最寄り駅を増やしてほしい。(男性 20代)
- ・ 人が親切。ドニチエコきっぷが便利でお得。メーグルは最終時間を各観光施設閉館時間に合わせてほしい。(女性 30代)
- ・ 鳴海駅がきれいになった。バスの本数が少ない。(女性 30代)

【案内、表示】

- ・ 駅構内の案内がわかりにくい。方角がわかりにくい。(男性 30代)
- ・ 名古屋市内の観光案内マップがホテルに備えてあればよいと思う。観光の本を買わなければ目的の観光が不可能。(男性 40代)
- ・ 駅周辺のホテルとアクセスを書いた案内板を設置しないと初めて来た人間は地下街とそのホテルの目的地に行くのに非常に困ります。名東区方面に行きましたが、バスの停留所の表示がわかりにくく改善させたほうがよいと思います。ホテルの設備は清潔感があってよかったと思います。(男性 70歳以上)
- ・ 市バスの本数が少ない。外国人が多くなってきたと思うが、英字表示が少ないと思う。(女性 20代)
- ・ 地下鉄の出入口番号が道路から見にくい。市の施設はほとんど月曜日休みなので、無休になるとうれしい。(女性 50代)

【町づくり、町並み】

- ・ 名古屋駅周辺について、裏通りに一本でも入ると街並みがあまりにも汚い。まだきれいにする余地がありそう。(男性 30代)
- ・ 緑を多くしてほしい。名駅のビル街が多くなって、楽しめる。車だと渋滞で大変なので、地下鉄料金を安くしてほしい。自転車レンタルがあるといい。(女性 50代)
- ・ お祭りは立派で素晴らしい。商店街が寂れてしまったので、活気が戻るとよい。(男性 50代)

【店舗、商店】

- ・ もう少し若い女性が行くような店がほしい。(女性 20代)
- ・ 東京より緑が少ないと思う。オープンカフェテラスが少ない。(女性 50代)
- ・ 名古屋駅前の飲食店の閉店時間が早すぎると思います。(女性 40代)
- ・ 駅地下商店が21:00に閉まっていた、少し早いのでは。(男性 60代)
- ・ 食事の場所がよくわからないため、落ち着いて食べようとすると料金の高い店に入ってしまう。(女性 50代)

【名古屋まつり】

- ・ 名古屋まつり三英傑に有名人を乗馬させる。姫も有名人がよい(他県ではすでに有名人を起用している。歴史ある名古屋まつりなのに現代の取り入れが遅い)。(女性 60代)
- ・ 名古屋まつりの人出が年々少なくなる。(女性 30代)
- ・ もっと活気のある街、名古屋まつりにもっと予算を。(女性 30代)

【宣伝、告知】

- ・ 古い歴史のある物をもっとPRしてほしい。市内を歩いているとこんな所に、すごい文化財がたくさんあるのにPRがない。(男性 50代)

- ・ いい所がたくさんあるのに、宣伝が下手。(女性 60代)
- ・ 以前よりは名古屋駅前で見るところが増えてきた。県外の友人が来名した時に、宣伝が不足しているため希望がなく、案内するところに少し困る。もっと全国的に名古屋観光について宣伝してほしい。(男性 50代)
- ・ メーグルをもっとCMしてほしい。止まるところを増やしてほしい。(女性 40代)

【観光資源】

- ・ 他県の人を案内する有名な観光施設があるようでない。(女性 60代)
- ・ ショッピングする場所はたくさんあるけど、20代の人を楽しめる観光スポットが少ない気がする。(女性 20代)
- ・ 外国のお客さんに案内できるような名所を数多く作ってほしい。(男性 60代)
- ・ 産業都市と言われているが緑も多くていい。外国人が来たりすると連れて行くところが少ない。観光の発展に力を入れてほしい。(男性 70歳以上)
- ・ 名古屋の町は大好きです。もっとテーマパークがあるとよい。(女性 20代)
- ・ 小学生レベルのテーマパークが必要。(男性 30代)

【その他】

- ・ 高層ビルが少なく、昔ながらの街の印象がありました。夜のイルミネーションがきれいだった。服装が地味。地図とかパンフレットなどがなく、観光客は少ないのか、観光客をあまり受け入れていないのか、受け入れに慣れない印象。(女性 40代)
- ・ 名古屋人は閉鎖的、特に外国人に対して。(女性 50代)

調査場所：

お楽しみどころ恐れ入りますが、アンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

問1 どこからお越しになりましたか (出発地はどちらですか)。1つに○印をつけてください。

- 1 名古屋市内
- 2 名古屋市を除く愛知県
- 3 岐阜県
- 4 三重県
- 5 静岡県
- 6 その他の都道府県 (具体的に)

問2 今回、名古屋を訪れた (今回の名古屋への旅行) 主な目的は何ですか。1つに○印をつけてください。

- 1 観光施設の見学
- 2 ショッピング (非日常の買物、ウインドショッピングを含む)
- 3 観劇・コンサート
- 4 イベント (参加・鑑賞)
- 5 飲食
- 6 その他の娯楽行為 (具体的に)
- 7 商用・公用
- 8 帰省・冠婚葬祭
- 9 大会・学会・国際会議への出席・参加
- 10 その他 (具体的に)

問3 問2で「1」から「6」を選んだ方にお伺いします。観光・娯楽の目的地として、名古屋を選んだきっかけは何ですか。該当するものすべてに○印をつけてください。

- 1 雑誌・新聞をみて
- 2 旅行代理店の紹介や店頭チラシをみて
- 3 テレビやラジオ番組の情報から
- 4 インターネットホームページの情報から
- 5 友人・知人に薦められたから
- 6 前に来たことがあり良かったから
- 7 駅や電車内のポスター・広告
- 8 特になし
- 9 その他 ()

問4 今回訪れたところ、またはこれから訪れられる施設に○印をつけてください。

- 1 名古屋城
- 2 産業技術記念館
- 3 ノリタケの森
- 4 徳川美術館
- 5 徳川園
- 6 熱田神宮
- 7 東山動植物園
- 8 レレピ塔
- 9 名古屋港水族館
- 10 イタリヤ村
- 11 その他 ()

その他、観劇、スポーツ観戦、コンサート、まつりなど行・祭事、イベントで訪れたところ
名称() 会場()

問5 今回の名古屋訪問 (名古屋への旅行) はパッケージ旅行ですか。どちらかに○印をつけてください。

- 1 パッケージ旅行
- 2 パッケージ旅行ではない

問6 今回の名古屋訪問 (今回の名古屋への旅行) における1人あたりのご予算をお教えてください。

① 1人あたりのご旅行の予算 (パッケージ旅行の方はパッケージ料金を含みます)。1つに○印をつけてください。

- 1 5,000 円未満
- 2 5,000～10,000 円未満
- 3 10,000～30,000 円未満
- 4 30,000～50,000 円未満
- 5 50,000 円以上

② 現金、カードの使用を含めて、名古屋市内で使うお金(パッケージ旅行の方はパッケージ料金を除きます。)は、1人あたりいくらほどになりますか

およそ()円くらい

③ 市内での交通費 (都市高速道路通行料や駐車場代金を含みます)。1つに○印をつけてください。

- 1 交通費はかからない
- 2 1,000 円未満
- 3 1,000～3,000 円未満
- 4 3,000～5,000 円未満
- 5 5,000 円以上
- 6 パック旅行のため不明

④ 市内でのおみやげ代。1つに○印をつけてください。

- 1 購入予定なし
- 2 2,000 円未満
- 3 2,000～5,000 円未満
- 4 5,000～10,000 円未満
- 5 10,000 円以上

⑤ 市内での食事代 (パッケージ旅行の方はパッケージ料金に含まれていない食事代の合計額)。1つに○印をつけてください。

- 1 お弁当持参で飲み物類を購入する程度
- 2 2,000 円未満
- 3 2,000～5,000 円未満
- 4 5,000～10,000 円未満
- 5 10,000～30,000 円未満
- 6 30,000 円以上

⑥ 市内での宿泊代 (市内の宿泊施設に宿泊される方は1泊の概ねの平均額)。1つに○印をつけてください。

- 1 5,000 円未満
- 2 5,000～15,000 円未満
- 3 15,000～30,000 円未満
- 4 30,000 円以上
- 5 パック旅行のため不明
- 6 友人、知人の家に宿泊するので、費用はかからない
- 7 名古屋市内には宿泊しない

問7から問11については、名古屋市外からお越しの方のみお答えください。

問7 名古屋市内を訪れたのは、今回で何回目ですか。該当するもの1つに○印をつけてください。

1 はじめて 2 2回目 3 3回目 4 4～9回目 5 10回目以上

問8 今回の訪問（旅行）において、名古屋までの主な交通手段すべてに○印をつけてください。

1 J R 2 名鉄電車 3 近鉄電車
4 自家用車 5 航空機 6 路線バス
7 観光バス 8 その他（ ）

問9 今回の訪れる予定、もしくは既に訪れたところ（地域）すべてに○印をつけてください。

1 名古屋市内のみ 2 明治村・犬山方面 3 瀬戸・小原方面
4 知多・常滑・セトア方面 5 豊田・岡崎・足助方面 6 蒲郡・西浦・三谷方面
7 豊川・鳳来寺方面 8 豊橋・伊良湖方面 9 岐阜・関ヶ原方面
10 多治見・恵那・中津川方面 11 下呂・高山方面 12 長島温泉・湯の山・鈴鹿方面
13 伊勢・志摩方面 14 その他（ ）

問10 今回の訪問（旅行）は何日間の予定ですか。該当するもの1つに○印をつけてください。

1 日帰り 2 2日間 3 3日間 4 4日間 5 5日以上

問11 問10で回答が2日間以上のご旅行の方に伺います。
名古屋市内に宿泊される日数（予定も含む）をお答えください。該当するもの1つに○印をつけてください。

1 1泊 2 2泊 3 3泊 4 4泊以上
5 名古屋市内には宿泊しない

あなたご自身（回答者）についてご質問します。

問12 あなたの性別・年齢をお答えください。（○は一つずつ）

①性別 ②年齢

1 男	1 10～19歳	2 20～29歳	3 30～39歳
2 女	4 40～49歳	5 50～59歳	6 60～69歳
	7 70歳以上		

問13 本日の名古屋訪問（名古屋への旅行）で同行されている方をお答えください。（○は一つだけ）

1 ひとり（同行者なし）	2 友人・知人
3 幼児や小学生連れの家族	4 夫婦
5 家族（「3」・「4」以外）	6 団体旅行
7 修学旅行	8 その他（ ）

〔自由意見〕 名古屋のまちの印象をお聞かせください。

町並み、にぎわい、公共交通の利便性、道路や施設の案内表示、街の美観や治安、観光施設、名古屋グルメなど、何でも結構です。

質問は以上で終了です。お忙しいところ、調査に協力していただき、誠にありがとうございました。
この調査結果は、統計的に処理し、有用な資料として活用させていただきます。

名古屋市観光客・宿泊客動向調査（宿泊施設）[対象年次：平成19年度]

○貴施設の名称、所在地、電話番号について変更などあるかご確認ください。また、差し支えなければ、この調査票の記入者の氏名等をご記入ください。

貴施設の名称	
貴施設所在地	〒 名古屋市
電話番号	
ご記入者	(ご所属) (ご氏名)

問4 貴施設では、外国からの宿泊客が、年間でどの国(地域)から何人ありますか。なお、宿泊客数は実人数でご記入下さい。(概数でも結構です)

国名	宿泊客数	国名	宿泊客数	国名	宿泊客数
中国	人	英国	人		人
香港	人	ドイツ	人		人
台湾	人	フランス	人		人
韓国	人	オーストラリア	人		人
米国	人	カナダ	人		人

問1 貴施設のタイプについて、次のいずれか1つに○印をお付けください。

1 ホテル 2 旅館 3 簡易宿所 4 下宿

問2 貴施設の平成20年3月末時点の室数および収容可能人数をご確認ください。変更などがあれば、修正をお願いします。

室数	和室		洋室		合計	
	室数	収容人数	室数	収容人数	室数	収容人数
室	人	人	室	人	室	人

問3 貴施設の平成19年4月から平成20年3月までの宿泊客数(月別・合計)をご記入ください。
※月別で把握できない場合や正確な記録がない場合でも、ご記入頂ける範囲でご回答ください。

	19年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	①実人数	人	人	人	人	人	人
うち外国人	人	人	人	人	人	人	人
②延人数	人	人	人	人	人	人	人
うち外国人	人	人	人	人	人	人	人
合計							
①実人数	人	人	人	人	人	人	人
うち外国人	人	人	人	人	人	人	人
②延人数	人	人	人	人	人	人	人
うち外国人	人	人	人	人	人	人	人

注：連泊客の数え方

- ①実人数は、連泊客が2泊以上宿泊しても「1人」と数えてください。
- ②延人数は、連泊客が同一の方であれば1泊で「1人」、2泊で「2人」と数えてください。

問5 貴施設では、これまでに修学旅行団体(小・中・高・高校など)を受入れたことがありますか。また今後受入れることはできますか。次のいずれか1つに○印をお付けください。

1 平成19年度、受入れた。
2 平成19年度受入れなかったが、これまでに受入れたことはある。
3 実績はないが受入れ可能。
4 受入れられない。

問6 問5で「1 平成19年度、受入れた。」と回答した施設にお聞きします。貴施設が平成19年4月1日から平成20年3月末までに受入れた修学旅行団体の所在地(都道府県名)、学校数、宿泊客数を下記の例にしたがってご記入ください。

〈例〉「京都府の小学校が2校で400人、中学校が1校100人」の場合

都道府県名	小学校	中学校	高等学校	その他
京都府	2校 400人	1校 100人	校 人	校 人
都道府県名	小学校	中学校	高等学校	その他
	校 人	校 人	校 人	校 人
	校 人	校 人	校 人	校 人
	校 人	校 人	校 人	校 人
	校 人	校 人	校 人	校 人
	校 人	校 人	校 人	校 人
	校 人	校 人	校 人	校 人
	校 人	校 人	校 人	校 人

問7 問5で「1」以外を回答した施設にお聞きします。貴施設が平成19年度に修学旅行団体を受入れたなかった理由についてご記入ください。

[]

ご多忙中、ご協力いただきましてありがとうございます。

インターネット調査 ■ 調査票

番号	条件	内容	区分
Q1	必須回答	過去5年以内に名古屋に何回訪れたことがありますか。	SA
1		1回	
2		2回	
3		3~5回	
4		6~10回	
5		11回以上	
6		訪れていない	
Q2	必須回答	名古屋に訪れる場合の主な交通手段をお選びください。名古屋に訪れたことがない方も、名古屋に訪れることを想定してお答えください。	MA
1		新幹線	
2		鉄道(新幹線以外)	
3		航空機	
4		長距離バス	
5		観光バス	
6		自家用車	
7		フェリー	
8		その他	FA付
Q3	必須回答: Q1 = 1~5	名古屋を訪れた目的は何ですか。	MA
1		名古屋城、徳川美術館、名古屋港水族館など観光施設の見学	
2		観劇・コンサート	
3		スポーツ観戦(野球、サッカー、相撲等)	
4		まつり・イベント	
5		愛・地球博	
6		ショッピング	
7		仕事	
8		友人・親戚への訪問	
9		その他	FA付
Q4	必須回答: Q3 = 1~6	観光・娯楽、ショッピングが目的で訪れた直近の名古屋訪問についてQ4~Q8をお聞きます。その訪問(旅行)は合計何泊でしたか。	SA
1		日帰り	
2		1泊	
3		2泊	
4		3泊	
5		4泊以上	
Q5	必須回答: Q4 = 2~5	その名古屋訪問(旅行)では、うち名古屋市内に何泊しましたか。	SA
1		1泊	
2		2泊	
3		3泊	
4		4泊以上	
Q6	必須回答: Q3 = 1~6	その名古屋訪問(旅行)で同行された方を教えてください。	SA
1		ひとり(同行者なし)	
2		友人・知人	
3		幼児や小学生連れの家族	
4		夫婦のみ	
5		家族[3]・[4]以外	
6		団体旅行	
7		修学旅行	
8		その他	FA付

インターネット調査票

Q7	必須回答: Q3 = 1~6	その名古屋訪問(旅行)であわせて名古屋以外に訪問したところ(地域)はどこですか。	MA
1		名古屋市内のみ	
2		明治村・犬山方面	
3		瀬戸・小原方面	
4		長久手・モリコロパーク(愛・地球博会場)方面	
5		知多・常滑・セントレア方面	
6		豊田・岡崎・足助方面	
7		蒲郡・西浦・三谷方面	
8		豊川・鳳来寺方面	
9		豊橋・伊良湖方面	
10		岐阜・関ヶ原方面	
11		多治見・東郡・中津川方面	
12		下呂・高山方面	
13		長島温泉・湯の山・鈴鹿方面	
14		伊勢・志摩方面	
15		その他	FA付
Q8	必須回答: Q3 = 1~6	その名古屋訪問(旅行)のきっかけは何ですか。	MA
1		以前から訪れたいと思っていたから	
2		知人に薦められたから、知人に案内されたから	
3		ガイドブックやパンフレットを見て	
4		テレビ番組等を見て	
5		ホームページを見て	
6		団体の訪問コースに組み込まれていたから	
7		興味のある権事が開催されていたから	
8		その他	FA付
Q9	必須回答: Q3 = 7	仕事で目的で訪れた直近の名古屋訪問についてお聞きます。その訪問(旅行)のとき、あわせて訪問した場所又は経験したものは何ですか。	MA
1		名古屋城、徳川美術館、名古屋港水族館など観光施設	
2		観劇・コンサート	
3		スポーツ観戦(野球、サッカー、相撲等)	
4		まつり・イベント	
5		愛・地球博	
6		ショッピング(駅でのおみやげ品の購入は除く)	
7		その他	FA付
8		訪問した場所又は経験したものはない	
Q10	必須回答	名古屋には、以下に示すような観光資源があります。この中で、知っているものを教えてください。	MA
1		尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産(名古屋城、徳川園、徳川美術館など)	
2		熱田神宮	
3		産業観光施設(産業技術記念館、リタケの森など)、科学館	
4		文化施設(美術館、博物館など)	
5		名古屋港(名古屋港水族館、シーレインランド、ポートビルなど)	
6		東山動物園	
7		栄(名古屋子レビ楼、久屋大通公園、オアシス21など)	
8		大須(大須観音・大須商店街)	
9		文化のみち(二葉館など)	
10		有松(街並み、絳り金館など)	
11		なごやめし(味噌煮込み、ひつまぶし、きしめん、みそかつ、手羽先など)	
12		祭り(名古屋まつり、にっぽんど真ん中祭りなど)	
13		その他	FA付
14		知っているものはない	

Q11	必須回答: Q1 = 1~5	名古屋の観光資源の中で、過去5年以内に訪問した場所又は経験したものをお答えください。	MA
1		尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産(名古屋城、徳川園、徳川美術館など)	
2		熱田神宮	
3		産業観光施設(産業技術記念館、リタケの森など)、科学館	
4		文化施設(美術館、博物館など)	
5		名古屋港(名古屋港水族館、シートレインランド、ポートビルなど)	
6		東山動植物園	
7		栄(名古屋テレビ塔、久屋大通公園、オアシス21など)	
8		大須(大須観音・大須商店街)	
9		文化のみち(二葉館など)	
10		有松(街並み、絞り会館など)	
11		なごやめし(味噌煮込み、ひつまぶし、きしめん、みそかつ、手羽先など)	
12		祭り(名古屋まつり、につぼんど真ん中祭りなど)	
13		その他	FA付
14		訪問した場所又は経験したものは無い	
Q12	必須回答: Q1 = 1~5	名古屋を訪れた感想(良かった点、悪かった点など)について自由に記入してください。	FA
Q13	必須回答: Q1 = 1~5	名古屋に訪れた時に、どのよう感じたか。あてはまるものをお選びください。	SAマトリクス
Q13M001		観光施設等	
Q13M002		係員、店員の親切さ、親しみやすさ	
Q13M003		市民の親切さ、親しみやすさ	
Q13M004		おみやげ品	
Q13M005		なごやめしなどの食事	
Q13M006		案内表示等のわかりやすさ	
Q13M007		総合的な魅力	
1		満足	
2		やや満足	
3		どちらともいえない	
4		やや不満	
5		不満	
6		体験していない/分らない	
Q14	必須回答	今後、名古屋を訪れたいと思いますか。	SA
1		是非訪れたい	
2		機会があれば訪れたい	
3		訪れたいとは思わない	
4		その他	FA付
Q15	必須回答: Q14 = 1, 2	名古屋の観光資源の中で、今後、訪問してみたい場所又は経験してみたいものは何ですか。	MA
1		尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産(名古屋城、徳川園、徳川美術館など)	
2		熱田神宮	
3		産業観光施設(産業技術記念館、リタケの森など)、科学館	
4		文化施設(美術館、博物館など)	
5		名古屋港(名古屋港水族館、シートレインランド、ポートビルなど)	
6		東山動植物園	
7		栄(名古屋テレビ塔、久屋大通公園、オアシス21など)	
8		大須(大須観音・大須商店街)	
9		文化のみち(二葉館など)	
10		有松(街並み、絞り会館など)	
11		なごやめし(味噌煮込み、ひつまぶし、きしめん、みそかつ、手羽先など)	
12		祭り(名古屋まつり、につぼんど真ん中祭りなど)	
13		その他	FA付

Q16	必須回答	名古屋の観光資源の中で、友人・知人などに紹介したいものは何ですか。	MA
1		尾張徳川家ゆかりの史跡や遺産(名古屋城、徳川園、徳川美術館など)	
2		熱田神宮	
3		産業観光施設(産業技術記念館、リタケの森など)、科学館	
4		文化施設(美術館、博物館など)	
5		名古屋港(名古屋港水族館、シートレインランド、ポートビルなど)	
6		東山動植物園	
7		栄(名古屋テレビ塔、久屋大通公園、オアシス21など)	
8		大須(大須観音・大須商店街)	
9		文化のみち(二葉館など)	
10		有松(街並み、絞り会館など)	
11		なごやめし(味噌煮込み、ひつまぶし、きしめん、みそかつ、手羽先など)	
12		祭り(名古屋まつり、につぼんど真ん中祭りなど)	
13		その他	FA付
14		紹介したいものは無い	
Q17	必須回答	名古屋の観光地としての弱みは何だと思いますか。あてはまるものを3つまでお選びください。	3A
1		他の観光都市と比べて観光イメージが希薄であること	
2		名古屋の魅力が全国的に十分知られていないこと	
3		名古屋の魅力が市民に十分知られていないこと	
4		魅力ある観光施設が少ないこと	
5		魅力あるイベントが少ないこと	
6		魅力あるおみやげ品が少ないこと	
7		交通アクセスが良くないこと	
8		夜に楽しめる場所が少ないこと(観光施設の開館時間が早いことなど)	
9		観光客と接する事業者などの観光に対する意識が低いこと	
10		まちがきれいでないこと	
11		まちに緑が少ないこと	
12		その他	FA付
13		弱みだと思えるところはない	
Q18	必須回答	名古屋市では、平成19年7月から、主要観光施設等を巡遊する金色の観光ルート「バス・メーグル」を運行しています。このバスをご存知でしたか、また利用したいと思えますか、あてはまるものをお選びください。	SA
1		利用したことがある	
2		知っていて、利用したい	
3		知らなかったが、利用したい	
4		知ってはいませんが、利用したいとは思わない	
5		知らなかったし、利用したいとは思わない	
Q19	必須回答	かつて名古屋城には「本丸御殿」がありました。本丸御殿は、日本建築史・絵画史・工芸史上、最も豪華華麗といわれる安土桃山から江戸期にかけて造営された近世城郭御殿の最高傑作で、国室になつて京都の二条城一の丸御殿と双璧をなす建物でした。国宝にも指定された世界的な文化遺産でしたが、惜しくも、終戦直前の昭和20年5月に空襲で焼失しました。名古屋市は、「もつくりの技、文化、自然の大切さ」を後世に伝える象徴として、名古屋城「本丸御殿」の復元を進めており、2010年には玄關の一部を完成させ、公開する予定です。この取り組みについてご存知でしたか。	SA
1		復元を進めていることも、2010年の玄關の一部公開も知っていた	
2		復元を進めていることは知っていたが、2010年の玄關の一部公開は知らなかった	
3		復元を進めていることを知らなかった	
4		その他	FA付
Q20	必須回答	名古屋城「本丸御殿」が復元されれば訪れたいと思えますか。あてはまるものをお選びください。	SA
1		是非訪れたい	
2		機会があれば訪れたい	
3		訪れたいとは思わない	

Q21	必須回答	「名古屋」のイメージを一言でお願いします。	FA
Q22	必須回答	名古屋の観光に対するご意見、ご感想や、名古屋が訪れたいくなるような魅力のある都市となるため、今後取り組んでみたいと思ふことがありましたらご自由にお書きください。	FA
F1	必須回答	あなたの性別をお答えください。	SA
1		男性	
2		女性	
F2	必須回答	あなたの年齢をお答えください。	SA
1		20歳未満	
2		20歳代	
3		30歳代	
4		40歳代	
5		50歳代	
6		60歳以上	

F3	必須回答	お住まいの地域(都道府県)をお答えください。	SA
1		北海道	
2		青森県	
3		岩手県	
4		宮城県	
5		秋田県	
6		山形県	
7		福島県	
8		茨城県	
9		栃木県	
10		群馬県	
11		埼玉県	
12		千葉県	
13		東京都	
14		神奈川県	
15		山梨県	
16		長野県	
17		新潟県	
18		富山県	
19		石川県	
20		福井県	
21		岐阜県	
22		静岡県	
23		愛知県	
24		三重県	
25		滋賀県	
26		京都府	
27		大阪府	
28		兵庫県	
29		奈良県	
30		和歌山県	
31		鳥取県	
32		島根県	
33		岡山県	
34		広島県	
35		山口県	
36		徳島県	
37		香川県	
38		愛媛県	
39		高知県	
40		福岡県	
41		佐賀県	
42		長崎県	
43		熊本県	
44		大分県	
45		宮崎県	
46		鹿児島県	
47		沖縄県	
F4	必須回答	お住まいの、市区町村をお答えください。	FA



名古屋市観光客・宿泊客動向調査
(平成19年度)

平成20年 10月発行

発行 名古屋市市民経済局
業務委託先 株式会社 綜研名古屋
電話 (052) 733-3302